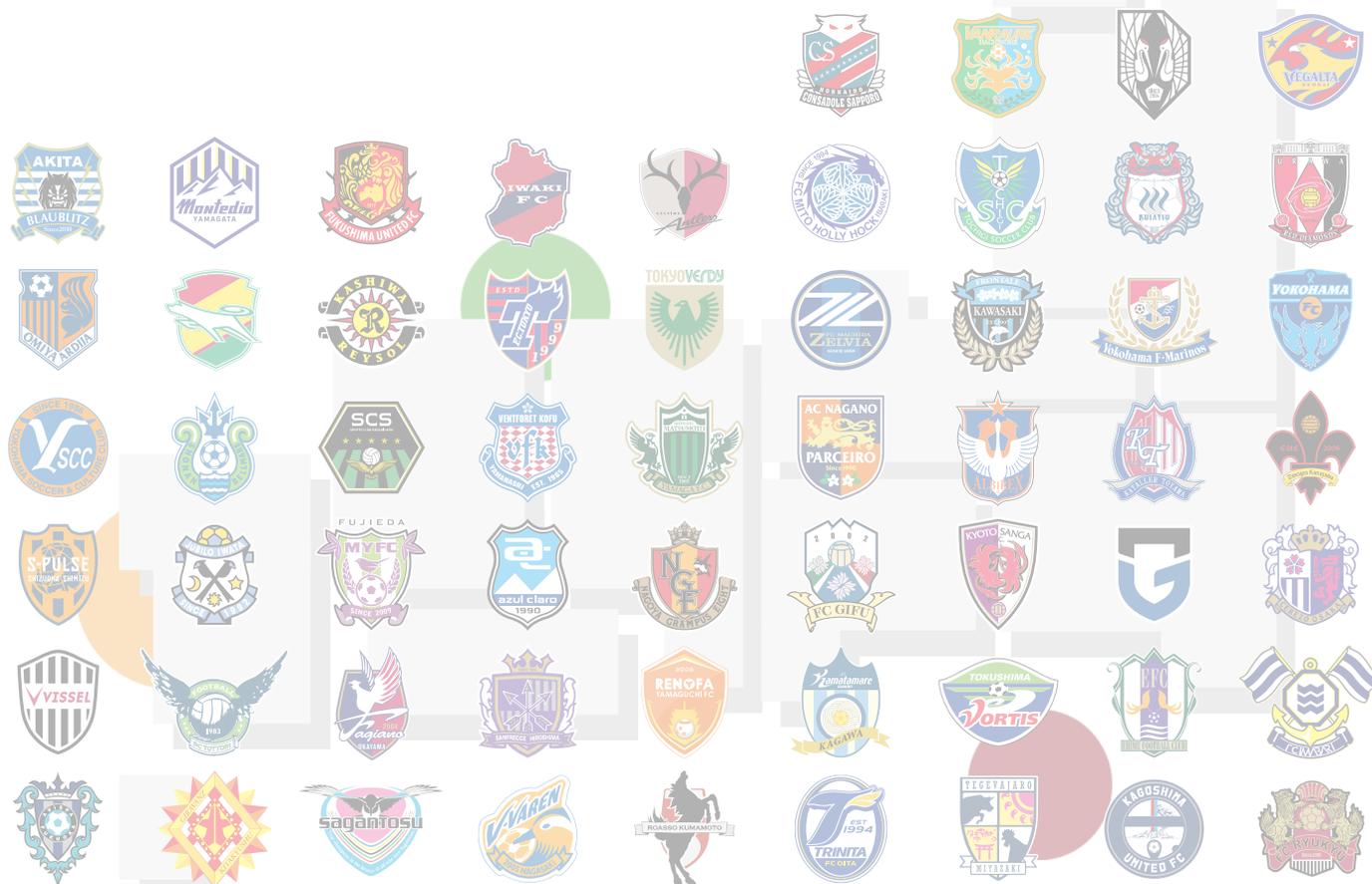


Jリーグホームタウン活動調査 2022年版

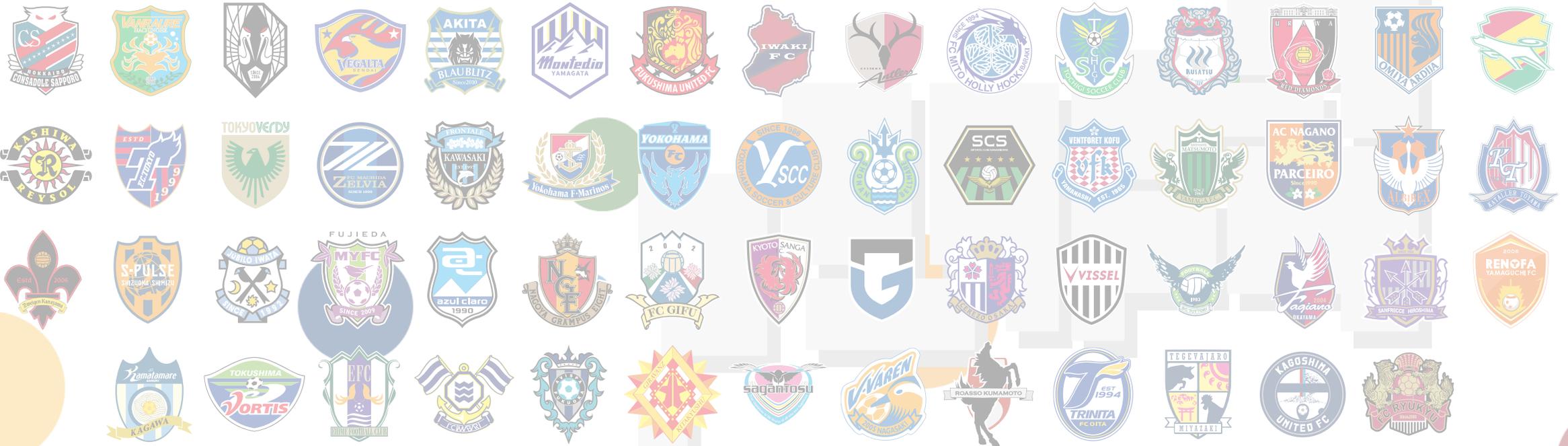


目次

2	特集～2022年～ Jクラブのホームタウン活動	27	Jリーグホームタウン活動調査 2022年
3	調査について	28	調査概要
4	はじめに	30	58クラブ全体集計
5	①Jクラブのホームタウン活動	31	58クラブ活動目的(クラブ別)
15	②選手が参加するホームタウン活動	32	SDGsへの取り組み詳細(58クラブ全体)
20	③マスコットが参加するホームタウン活動	33	ホームタウン活動 クラブ別紹介
25	④【特別寄稿】 社会的共通資本として		

特集
～2022年～

Jクラブのホームタウン活動



はじめに

1993年に8都府県10クラブで開幕したJリーグは、今年で30周年を迎え、クラブ数は41都道府県に60クラブを数えるまでになりました。

この30年間、クラブはJリーグ理念にある「国民の心身の健全な発達への寄与」を目指し、「その地域=ホームタウン」を豊かにするために活動し続けています。

このホームタウン活動は、Jリーグ規約第24条〔Jクラブのホームタウン(本拠地)〕第2項において、「Jクラブはホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブづくり(社会貢献活動を含む)を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならない。」と定められています。

ただし、ホームタウン活動は「義務だからやる」のではなく、Jクラブが地域社会と一体となって「地域を豊かにする」ことを目的として実施しています。

この報告書はそんな地域の想い、クラブの想いをまとめたものになります。

Jリーグは、リーグ開幕25周年を機に、Jリーグ、Jクラブを社会、地域に今まで以上に開いて、我々が持っている資産や価値を「つかって」いただき、ホームタウン活動の中でも「社会・地域課題解決に向けて、三者以上で連携して取り組む活動」を、「社会連携活動(シャレン!)」と定義しました。

今では全ホームタウン活動のうち、1割ほどの活動が「シャレン!」になっています。

シャレン!は多くの人に関わることで、それぞれの課題を自分事として捉えて、一歩踏み出し、地域を豊かにしたいという仲間が増え、その結果地域が豊かになる活動です。

この報告書ではそのほんの一部ではありますが、各クラブの活動を紹介しています。

ホームタウン、シャレン!活動が地域を豊かにし、たくさんの人々を笑顔にできるよう、これからもJリーグ、Jクラブ一体となって、ホームタウンの皆さまと歩んでいきたいと思っています。

公益社団法人日本プロサッカーリーグ

①Jクラブのホームタウン活動

30年目を迎えたJリーグ。各クラブがホームタウン活動を行う際に大切にしていること、目指すことを代表的な活動とともにご紹介します。



北海道コンサドーレ札幌



CONSADOLE HOKKAIDO TOURS 他

道内全体をホームタウンとするクラブとして各地でイベントを実施。

「北海道とともに、世界へ」というスローガンのもと、北海道を豊かに、元気にする存在としてホームタウン活動を実施しています。単なるサッカークラブ、スポーツクラブという範疇を超えてホームタウンである北海道全体のためにアクションを起こすということを大切にしています。



ヴァンラーレ八戸



農業支援

収穫したにんにくは地域企業様とのコラボ商品等へ使用。

「地域に愛され、役に立ち、必要とされるクラブへ。」
そのためまず地域の皆さまにヴァンラーレ八戸というクラブを知り、興味を持っていただけるよう、活動を展開してきました。



いわてグルージャ盛岡



ホワイトループプロジェクト

地域の方々とのふれあい。活動を通してチームを応援していただく。



ベガルタ仙台



防災サッカー教室

サッカーの技術の向上と防災知識の会得を兼ね備えたサッカー教室。

地域に寄り添い、地域の未来につながる活動をして、地域から必要とされるクラブであること。



ブラウブリッツ秋田



ふくたすプロジェクト

中央大学小林ゼミと活動。

地域に「ブラウブリッツ秋田があったから〇〇」を溢れさせることができるような、地域に愛されるクラブを実現できるような活動。



モンテディオ山形



夢クラス

Jリーガーになる夢を叶えた選手たちが、山形の子供たちと「夢」について語り合う事業。

クラブに関わる人々・関わったことがない人々関係なく、双方向でお互いの活動を理解・リスペクトしあうこと。
山形の皆様に愛され、必要とされるクラブになれるように活動しています。

①Jクラブのホームタウン活動



福島ユナイテッドFC



福島ユナイテッドFC 農業部

東日本大震災以降の福島の風評の払拭を目的として活動。今は福島県のPRを選手自らが農作業を行いながら発信。

福島県にとって、なくてはならない存在となるための活動を意識している。福島県の課題に対して取り組むこと、福島ユナイテッドFCが未来永劫と存続していくために必要な活動を意識している。また、活動の上では多くの協働者を巻き込み、多角的な視点で進められるように考えている。



いわきFC



いわきスポーツ アスレチックアカデミー

地域の子供たちの運動機会の提供や基礎的な運動能力の向上に寄与。

スポーツで社会価値を創造したい。人づくり、まちづくりに貢献したい。



鹿島アントラーズ



食育キャラバン

食事や運動のノウハウを地域に還元すること。

地域に愛されるクラブづくり。



水戸ホーリーホック



ホームタウンPR大使

ホームタウン9市町村(9月以降は15市町村に拡大)で選手自らが自分が担当する地域に出向き地域のPR活動を実施。

地域の方との交流とクラブ活動への理解を成熟させること。



栃木SC



ツナガルプロジェクト

選手と子ども食堂を訪問し、一緒に遊ぶ活動。

地域に栃木SCがあってよかったと思っただけのこと。



ザスパクサツ群馬



サッカー体験会

アカデミーのスクールコーチがサッカー体験を提供。

2022シーズンでクラブ創立20周年を迎えたものの、未だに県内にクラブが浸透していないのが現状です。「地域への恩返し」をテーマに「ひとづくり」「まちづくり」「かんけいづくり」に関する活動を行う「ザスパの恩返しプロジェクト」をスタートしました。日頃から地域や地域に住まう人々に支えられてきたからこそ20年間クラブが存在しているため、少しでも地域や地域住民の皆様にはザスパがあっただけよかったと思ってもらえるようにホームタウン活動を行っています。今後はさらに地域に根ざしたクラブとなれるように群馬県内各地に伺い、地域の人々の健康や笑顔を創出することを目指します。

①Jクラブのホームタウン活動



浦和レッズ



“浦和のために”になっている活動がどうか。

愛称:レッズローズ

世界初、サッカークラブの名が付いたバラ。



柏レイソル



柏レイソルに対し、興味を持って頂けるようにクラブの魅力を伝えるようにしています。目標としては、柏市内含め東葛地区にお住まいの方にスタジアムに足を運んでもらうようにすることです。

レイソルしま専科

2006年から開始。実際に選手と接触をして、地域(子供たち)と交流。



大宮アルディージャ



・地域の皆さまとのつながり。
・地域コミュニティのハブになること。

大宮クリーン大作戦

大宮区との合同清掃活動。



FC東京



FC東京 スマイルキャラバン

オリジナル教材『おおあかドリル』をつかったり、特別支援級も含めた学校での授業を担っている。



ジェフユナイテッド千葉



新小学一年生への 定規配布

地域の課題解決や地域のアイデンティティの醸成につなげられているか。それをすることでクラブの価値向上につながっているか。



東京ヴェルディ



ランドセルカバーの寄贈

稲城市、日野市の
新小学1年生に寄贈。

多くの市民にとって身近に感じてもらえる動きをする。フットワークよく地域に溶け込み、街の一員として存在を認められるような動きをする。この街に東京ヴェルディがあって本当に良かったと心から思ってくれる人を1人でも多く増やしていく。そして、週末は味スタに通ってくれる人を1人でも多く増やすこと。

①Jクラブのホームタウン活動



FC町田ゼルビア



ウォーキングイベント 「男気コース!!」

2018年スタート。地域の魅力を歩いて感じながら一緒に歩く人との会話を楽しむことが新たなコミュニティー形成に！歩くことが健康づくりと環境問題改善へと繋がる。

「FC町田ゼルビアが我が街の誇り」と市民の方々に愛されるクラブづくりを目指しています。まずスタッフ1人ひとりがクラブ、町田市に愛着をもち、町田市民の方々が町田市への愛着をもち住み続けたいと思っていただけのように願いながら活動を通じて交流し、常に+1の提案を心がけています。



横浜FC



横浜FCの夢で逢えたら

小学6年生を対象。

サッカーだけでは足りないこともサッカー以外の行動で埋められるよう「NO.11 住み続けられるまちづくりを」をSDGsのメインテーマとして「子どもたちが元気な街づくり」に取り組んでいる。その行動は人と人、街と人、横浜FCとホームタウンをつなぎ、ホームスタジアムのニッパツ三ツ沢球技場に集結することで「横浜をもっと好きになる場所」を作り出す。



川崎フロンターレ



商店街挨拶回り

全選手と全クラブスタッフが中心となり、地域へ年始の挨拶を実施。

クラブ単体で活動をまとめるのではなく、街全体との協業を軸とすること。



Y.S.C.C.横浜



寿町自己啓発講座

「地域はファミリー」を合言葉に、元気な町づくり、健康づくりを目指しています。



横浜F・マリノス



横浜F・マリノスフットワーク

Jリーグ初の知的障がい者サッカーチーム。

それが本当に地域の市民のためになっているか。



湘南ベルマーレ



ヒサと共に。

小児がん啓発活動。

「いいことをやってあげている」では絶対的になく、この地域で支えていただき、活動させていただき、存在するクラブなので、この地域の一部として力を還元しなくてはいけないということ。

①Jクラブのホームタウン活動



SC相模原



学校訪問

登下校や朝会やお昼の校内放送にサプライズ登場！

選手と地域のみなさんとの距離感・近さを大切にしています。イベントの終わりには必ずハイタッチをして、選手が地域の皆さんをお見送りします。ともに歩き・ともに育つ仲間として、地域の課題や要望に取り組んでいくことを目標にしています。



AC長野パルセイロ



木島平交流事業

木島平小学校5年生と田植え・稲刈り・収穫祭(給食)を実施。

地域のパートナーとしてホームタウンと連携し、スポーツを通じた地域活性化に向け活動しています。



ヴァンフォーレ甲府



かえで支援学校訪問

2000年から約22年間続く地域密着を目指しスタートしたはじまりの活動。学校へ通う子どもたちに体を動かす楽しさを伝えている。

大切にしていること:感謝。皆様の支えがあったからこそ、存続危機を乗り越え、天皇杯優勝まで辿り着いた。これからもやまなしと一体となって行くために、クラブから地域に足を運んで活動する。目指すこと:Connect。人と人を繋ぎ、クラブがやまなしに幸福をもたらすフットボールクラブを超えた存在になる。



アルビレックス新潟



病院ビューイング

一緒に応援して患者さんに勇気と笑顔を届ける。

新潟のため、地域のための活動になっているかどうか、という点を大切にしています。継続的で発展的な取り組みにすることを目指しています。



松本山雅FC



スタジアムに生理用品を設置

安心して観戦できるように、スタジアム内トイレに生理用品を設置。

サッカーを通じ、未来ある子どもたちと市民に夢と希望、感動を与え、地域に元気と活力をもたらすような「ひとづくり」「まちづくり」に貢献する事をビジョンに掲げ活動に取り組んでおります。クラブとしては、より積極的に街と関わり、クラブを身近に感じていただき、男女問わず、障がいの有無に関わらず、子どもからお年寄りまで幅広い方から愛されるクラブとなることを目標です。



カターレ富山



Be Supporters!

支えられることの多い高齢者が支えるサポーターになる活動。

富山にお住いの皆様に、ここに住んでよかったと思っただけのクラブになること。

①Jクラブのホームタウン活動



ツエーゲン金沢



地域の皆さんにとって「街をより良くするためのパートナー」のような存在になること。

Future Challenge Project

「視覚障害の方と共に観戦を楽しむ」ことを目的とした試合観戦会および啓発活動。



清水エスパルス



「この街にエスパルスがあって良かった」=地域に愛されること。常に地域に寄り添い、市民とクラブの接点づくりを心がけています。

エコチャレンジ

環境問題への取組各種。



ジュビロ磐田



磐田市内小学校 一斉観戦事業

〈より親しまれ愛されるクラブ〉になるため、ステークホルダーの皆様と連携しながら、①健康・スポーツの普及、振興・②地域課題への取組・③地域振興への取組を通して、より身近にジュビロ磐田のある生活を目指します。



藤枝MYFC



ホームタウン活動が継続して実施できること、地域に必要とされること。

やいづ ふっとさる かつぶ

焼津市の企業で働く技能実習生を対象にしたフットサル大会。



アスルクラロ沼津



関わる全ての人たちを笑顔にしたい。

地域防災活動

『楽しみながら防災を学ぶ』をコンセプトに実施。



名古屋グランパス



在留ブラジル人との サッカー交流

多文化共生の理解を深める。

ホームタウンの地域課題に寄り添うソーシャルグッドな活動を多様な方々との連携で実施しています。多くの方に活動への共感・協働をいただきながら、スタジアムでスポーツの感動を分かち合えるクラブになりたいと思っています。

①Jクラブのホームタウン活動



FC岐阜



サッカーというジャンルにとらわれることなく、全ての人々が笑顔になれる活動を心掛けています。

全市町村による ホームタウンデー

全市町村による
FC岐阜ホーム戦での
ホームタウンデーを実施。



京都サンガF.C.



サンガに関する全ての人々と夢と感動を共有し、地域社会の発展に貢献する。

はあとふるサンガ

障がいを持つ方の
社会参加を応援。



ガンバ大阪



社会的価値のある取り組みを大切にし、ホームタウンの皆さまに「ガンバがあっけよかった」と思ってもらえるような活動を目指しています。

GAMBAssist活動

地域の企業様から
協賛いただいた資金を
地域の課題解決のために還元。



セレッソ大阪



読書手帳や ランドセルカバーを配布

ホームタウンの
子どもたちを対象。

セレッソ大阪は、“お笑い”と“人情”のまち大阪で、地域の人々に元気をお届けし、地域の人々に愛され共に歩むクラブでありたいと考えています。地域社会の一員として、地域の皆さんと手を取り合って“元気な大阪”をつくっていきます。



ヴィッセル神戸



地域連携。

GOAL for SMILE プロジェクト

ヴィッセル神戸の公式戦での
得点1ゴールにつき、
サッカーボール4球を
神戸市立の小学校に寄贈。



ガイナレ鳥取



しばふる、復活！ 公園遊び、ぜんりよく！ サッカーごっこ

【目指す姿】
■株式会社SC鳥取100年構想
(ガイナレ鳥取のクラブ理念)
※百年先も輝く地域、輝くクラブ
になるために日々活動しています。
そんな中で、地域のお役に立てて
いるか、子どもたちの未来・ふる
さとの未来・クラブ・選手の魅力や
価値をよく理解してもらっている
か、というところを常に意識して
います。

①Jクラブのホームタウン活動



ファジアーノ岡山



学生主催
「あつまれファジ商店街」
奉還町商店街で開催。

「子どもたちに夢を！」をクラブ理念に、そして「岡山の誇りとなる存在になる」、「家庭と地域と学校の三者が協働できる社会作りに貢献する」、「最高の選手と子どもたちが仲間になる」ことを活動指針に掲げています。ホームタウン活動は、岡山の地においてそれらを具現化するために実施しています。



サンフレッチェ広島

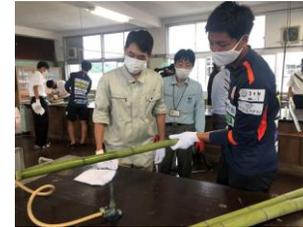


キャップ贈呈
県内すべての
新小学1年生を対象。

やりたいことをやるのではなく、相手側の要望に応える。



レノファ山口



ぶちエコスタジアムなど

自治体・地元企業・レノファの3者が連携し、地域課題解決を図りながら、新規層への接点を作っている。

その活動の目的を明確にすること。
(参加することが目的とならないように。)



カマタマーレ讃岐



フードドライブ
余剰食品を
必要なところに送る。

実施している事項が本当に県民のためになっているかどうか。



徳島ヴォルティス



美馬市版SIBヴォルティス
コンディショニングプログラム

運動機能を改善し、
運動習慣の定着を図り、
将来的な医療費・
介護給付費の削減に
繋げる事を目的として活動。

私たちが楽しいことを楽しく
やっていたら、その楽しさは必ず
みなさんに伝わる。
スポーツの持つ力を信じて、
スポーツでみなさんを幸せにし
よう!!!



愛媛FC



マッチシティ&
マッチタウン

スタジアムで愛媛県
20市町のことを知ろう！
県下全20市町に愛媛FCの
ホームゲーム全試合を
順番に盛り上げて頂く企画。

ホームタウン活動を通じて、地域の方との交流機会を創出し愛媛FCの新たなファン・サポーターや協働者となってくれる方を増やすこと。
また、学校訪問等の活動を通じて地域の子供たちと触れ合う機会を作り、サッカー(スポーツ)を好きになってくれる機会を創出すること。

①Jクラブのホームタウン活動



FC今治



企業理念やミッションステートメントに合致した活動を実施すること。そして、活動参加者全員が笑顔になれる活動をする。

巡回サッカー教室

保育園、認定こども園、小学校を巡回訪問しながらサッカー教室を実施。



アビスパ福岡



子どもたちに夢と感動を、地域に誇りと活力を与えられるように日々活動しています。

ブラインドサッカーを通じた共生社会の創出

子どもたちにアイマスクを着用した状態で色々な体験をしてもらい、相手を思いやる気持ちを育む。



ギラヴァンツ北九州



まちとの関わりの強化。(ギラヴァンツ北九州がこのまちにあって良かったと思ってもらえること。)

GOP(ギラヴァンツオープンマインドプログラム)

応援、運動、ボランティア活動で心を開き、社会とつながり自信を取り戻すためのプログラム。



サガン鳥栖



連携する方からのサガン鳥栖の活動内容の分かりやすさ。連携する皆さんの今の活動を大切にしていく。

Sagan World Cup 他

性別・年齢・障がいの有無に関わらずサガン鳥栖を通じて仲間になれる。



V・ファーレン長崎



長崎県内21市町をホームタウンとして、人の成長・地域活性・社会課題解決、さらに未来に向けて夢と平和をつなげていけるように、県民の皆様と力を結集し、ホームタウン活動を通してたくさんのワクワクや今を生きる楽しさを広げていきます。

平和祈念活動

被爆地のクラブとして、創設時から平和を発信する取組を実施。



ロアッソ熊本



クラブ理念である「県民に元気を子ども達に夢を 熊本に活力を」のもと、私達だけのためになる活動ではなく、県民の皆様をはじめ、ロアッソ熊本に関わる全ての方に元気、夢、活力を与える事を大事にしている。また、まずは自分たちが(選手スタッフ含む)楽しむ事を忘れずに活動する事も大切にしている。これらを継続し、日本一地域に根差したクラブを目指している。

火の国もりあげタイ!

県内の自治体を担当選手と共に年間通して盛り上げていく活動。

①Jクラブのホームタウン活動



大分トリニータ



企業理念である『サッカーを通じて、大分の活力に貢献する』の精神を大切に活動しています。

巡回サッカー教室

県内全域で実施。
選手、スクールコーチで訪問し
運動する楽しさを伝える。



テゲバジャーロ宮崎



子どもたちに夢を与えること。
活動をただするだけでなく、
目的をもって活動すること。

愛あるごはんを 届けよう！プロジェクト

全ての公式戦で勝利した場合に、
活動に協賛して頂いた企業様から
頂いた食材や備品を届ける活動。



鹿児島ユナイテッドFC



時によって異なりますが「これか
らみんなが生活できる鹿児島
であり続けるために、サッカーク
ラブとしてできることをする」で
す。

喜入での様々な活動



FC琉球



地域に根ざした活動を実施し、
地域の方に知ってもらい、地域
の方に愛してもらえるクラブに。

沖縄のきれいな海を守る ビーチクリーン活動

②選手が参加するホームタウン活動

当初はピッチの上での活動をメインとしていた選手たちも、今は街や社会に出て活動することが当たり前になりました。



浦和:レッズ先生



鳥取:復活!公園遊び



東京V:稲城市お米作り体験会



富山:DREAM TEACHER



神戸: GOAL for SMILE プロジェクト



岐阜:サッカーフィットネス



岩手:ホワイトループプロジェクト



八戸:ホームタウン応援大使選手



金沢:KidsSmileProject



水戸:首長への表敬訪問とサイン会を実施



大宮:大宮ろう学園 選手訪問



②選手が参加するホームタウン活動



長崎:平和の発信、地域の清掃活動、
防災呼びかけ、市町訪問など



横浜FC:横浜FCの夢で逢えたら



秋田:BB FARMプロジェクト



栃木:ゆめプロジェクト



町田:ふれあいゼルビア



大分:児童養護施設の生徒さんとの交流会



岡山:小学校訪問



清水:台風15号の被災地支援



群馬:サッカー教室



広島:小学校訪問(2006年から実施)



北九州:スクール☆ギラヴァンツ



YS横浜:寿町自己啓発講座



②選手が参加するホームタウン活動



横浜FM:港北区スペシャルキャラバン



宮崎: んまつーポス×テゲバジャーロ宮崎
テゲバジャーロ宮崎がダンスでワンドラフル! プロジェクト



千葉: ホームタウンふれあいフェスタ



新潟: 選手の生きた言葉を届ける学校訪問



京都: 選手による学校訪問



湘南: 長期療養児支援TEAMMATES



琉球: 沖縄県出身選手による
サッカースクール



C大阪: ホームタウンキャラバン



磐田: 磐田市内小学校訪問



山形: 大蔵棚田再生事業



札幌: 道内各市町村のプロモーション
ならびに子ども達との交流



川崎: 多摩川エコラシコ



②選手が参加するホームタウン活動



徳島：ファン、サポーターの子ども達とのサッカー交流会



熊本：ロアッソ熊本交流会



藤枝：地元を知る体験「KADODE OOIGAWA」での緑茶ツアーズ



松本：スマイル山雅農業プロジェクト



G大阪：選手が小学校に訪問するふれあい活動(2003年から継続実施)



今治：コラボ給食



愛媛：愛媛FC選手学校訪問



山口：夢の教室



相模原：健康体操教室



鹿島：英語教材TPR動画



鳥栖：小中学校訪問活動



いわき：地域のお祭りへの参加



②選手が参加するホームタウン活動



讃岐: 保育所、幼稚園、小学校などの訪問



仙台: ベガルタ仙台 ホームタウン応援団



福岡: アビスパ福岡選手会Smileプロジェクト



名古屋: 小学校訪問



FC東京: 小学校訪問



鹿児島: 新さつま島美人プロジェクトと海を守ろうプロジェクト



甲府: Ven+実育山梨



福島: 福島ユナイテッドFC農業部



長野: パルサカ



柏: レイソルしま専科



沼津: アッスルタイム



③マスコットが参加するホームタウン活動

マスコットはもはやホームタウン活動に欠かせない大きな存在になっています。



愛媛: オ〜れくんがいく!



水戸: スポーツ体験教室への参加



清水: PULCLE(静岡市内のレンタサイクル)



八戸: 地域イベントやお祭りへの参加で地域の方と交流



広島: ぶち紫大作戦



岡山: 県立図書館フェスタOPイベント



山形: 食育活動



相模原: ガミティサンタ



大分: 海ゴミゼロを目指す清掃活動



京都: 地域で実施されるイベントへの参加



C大阪: 地域の学校訪問やイベント(祭りなど)への参加



③マスコットが参加するホームタウン活動



甲府：ヴァンくん体操



川崎：えがお共創PJ



栃木：こども食堂へのフードドライブお届け



仙台：マスコット手書きイラスト制作物でイベントを盛り上げ



神戸：神戸市立小学校入学式参加



G大阪：夏祭り等のイベント出演



名古屋：幼稚園・小・中学校でのあいさつ活動及び携帯リサイクル活動



山口：防府市とマスコット協定締結



徳島：春と秋の交通安全運動普及キャンペーン



③マスコットが参加するホームタウン活動



秋田:秋田県警広報大使



新潟:病院ビューイング



湘南:LTO
海にゴミは行かせない 街のゴミ拾い活動



磐田:地域産業まつりへ参加



琉球:保育園訪問



YS横浜:麦田町朝市



札幌:サンタ隊で福祉施設を訪問



長崎:子どもたちや地域の方とのお祭り・イベントなどふれあいを実施



千葉:ユナパでラジオ体操



熊本:1ゴールアシスト5



③マスコットが参加するホームタウン活動



藤枝:ふじのくにジュニア防災士養成講座



福岡:健康づくり地域交流フェスタ



讃岐:地域イベントの参加



いわき:地域のお祭りへの参加



柏:レイくん1日支配人



横浜FC:子供たちと清掃活動やサッカーフェスティバルに参加



北九州:曾根干潟の清掃活動2



鳥栖:小学校でのあいさつ運動やランドセルカバー贈呈での交通安全運動



鳥取:みんなで！ガイナマン体操



岩手:子ども食堂/グルージャ米プロジェクト

③ マスコットが参加するホームタウン活動



岐阜：幼稚園や小学校などへの巡回活動



群馬：地域イベントへの参加



町田：お祭りや地域行事への参加



金沢：ゲンゾイヤー体操



鹿島：地域イベントへの積極的な参加



FC東京：TOKYOのランドマークに出没、商店街や自治体のPRを実施



東京V：日野市ふれあいラジオ体操



松本：「松本山雅FCガンズくん交通安全かるた」寄贈



浦和：レッズサンタ



富山：綺麗で美しい富山湾を守るためのごみ拾い活動



横浜FM：はまっ子交通安全教室



④【特別寄稿】 社会的共通資本として

ほうじせんた

傍士銑太(学校法人土佐高等学校理事長、元Jリーグ理事)

Jリーグは、30年で同志が41都道府県60クラブに広がった。地域に根ざすスポーツクラブ創設の理念は、他スポーツにも影響を与えてきた。かつて「Jリーグは誰のものか」と問われ、ものではなく『思想』と答えたことがある。「スポーツで幸せな国をつくろう」という『百年構想』の原点は、「地域に密着すること」。「地域のクラブの意識」を互いに共有できたとき『ホーム』という概念が生まれる。

1996年百年構想の初代ポスターのタイトルは、『あなたの町にもJリーグはある』。単なるクラブの存在ではなく、クラブを通してホームタウンを愛する新しい景色である。八戸のスタジアムには地元プロアイスホッケー選手たちが、川崎フロンターレには地元のアメリカンフットボール選手たちが、ホームのユニフォーム姿で応援に駆けつけた。Jリーグの思想を、一人一人が語っていた。

「地方」扱いされる日本の地域社会は、「まちづくり」の矛盾を抱えている。中心市街地衰退、街中の大規模跡地の有効活用、公共交通衰退・経営不振、若者流出や人口減少、観光需要の低迷など。複雑に絡む課題解決に、縦割り地域行政では難しい。現場に近い市町村単位の取り組みが求められる。

2008年の「Jリーグ欧州スタジアム視察」では、ボールパーク時代の到来を感じた。競技スポーツの域を越え、文化的・社会的・経済的に、全ての人々を幸せにする『社会的共通資本』として、欧州のスタジアムは人と人を結びつける「街なかボールパーク」であることに衝撃を受けた。

クラブの歴史と伝統を残し、まちの個性に合うデザイン、最新で快適な観戦環境と天然芝のボールゲーム専用スタジアム。

ファンは、迫力を多角的に体験できる。スポーツは生活の一部、文化。プレーヤーは大切な家族の一員である。そこに暮らす人々の、過去から未来をつなぐ大切な『社会的共通資本』となる。

街なかボールパークへのアクセスは、電車・バス・自転車・徒歩だから、駐車場は必要なく、そこに大集客装置が生まれる。

大規模アウェイ・ツーリズムによりファンは観光客と化し、飲食や宿泊需要の増加にもつながり、総合的な中心市街地活性化になる。

街なかの大規模跡地の有効利用や経営不振の公共交通利用促進、地元の誇りを失った若者の流出にも歯止めがかかる。ホームチームを家族総出で応援でき、本物のフットボールを間近で体験でき地域未来の夢は広がる。

ショッピングセンター、レストラン、ホテル、オフィス、ホームセンター、保育園などの多機能型。クリニック、ワクチン接種、PCR検査会場など高齢化や健康維持に対応。成人式、学園祭、体育祭へ貸し出し。社交ラウンジは地域経済の活性化に一役。

屋根に太陽光パネル、コンビチケットにより公共交通利用促進と自動車削減に、リユース食器利用促進で環境に配慮したグリーンスタジアムへと。

交通の利便性、大収容能力、通信機能完備、十分な医療体制、トイレ・シャワー・更衣室・厨房の完備により災害時の安心安全な避難生活が可能になる防災機能。

日本でも、街なかボールパークの潮流が始まっている。北九州は新幹線小倉駅前に(2017)、京都市はJR亀岡駅前に(2020)完成、2024年には、長崎駅前と広島市中心の中央公園広場に完成予定である。

④【特別寄稿】 社会的共通資本として

「Jリーグをつかおう!」と2018年から社会連携活動(シャレン!)が始まった。最近の事例をいくつか紹介する。

◆すべての人に健康と元気を『サポーターになろう!』

支えが必要な高齢者・認知症の方々など「支えられる人」に、クラブを「支える人」になってもらう。からだを使って応援することによって、介護施設にはワクワク感やドキドキ感が溢れた。予想しない「つながり」と「幸せ」が生まれ、高齢者や認知症の方々の好変化に、地元医療チームも注目。応援する対象を持つことにより、日常会話や食欲を増す活気が生まれている。(カターレ富山)

◆ノエビアスタジアム神戸をコロナワクチン接種会場として提供、“産学官”が連携。

約7か月間にわたり、累計367千回、約18万人が来場。試合運営で培ったノウハウを有事に活用、接種会場に活かした。(ヴィッセル神戸)

◆ジェンダー平等を実現

子供の生理の貧困、浅い知識の課題に着目。フェムケア(Feminine《女性の》とCare《ケア》の造語)の講習を行いスタジアムのトイレに生理用品を常時設置。(松本山雅)

◆地球温暖化に具体的対策

環境問題に対し、地元NPOや企業と協働。2004年からスタジアムで利用する食器やカップをリユース化。容器を伴う飲食物購入の際、代金にディポジットを上乗せ食器返却時に返金される。全ホームゲームで15年来実施中。(ヴァンフォーレ甲府)

シャレン!の原動力は、宮澤賢治の「セロ弾きのゴーシュ」と重なっている。

フットボールという本職を行う中で次々と地域の課題が現れ、共に働くうちに試合当日が来る。意外にも、フットボールに関心のなかった地元の人たちの応援を受け試合が活気づいた。与えられた境遇をいかに生き抜くかの示唆に富む。遭遇する環境が天からクラブへ問いかけを与える。

それに対するクラブの積極的な関りがシャレン活動である。

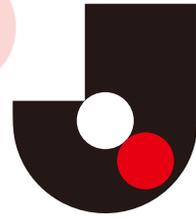
「クラブができることは何か」

「どんなクラブで在ろうか」

地域社会の現実に眼を開き、孤立や困難を抱える人に思いを寄せ、何らかの働きかけを心がければ、創立30周年を迎えるJリーグは、「ローカルとグローバルをつなぐ大切な存在」になり得る。

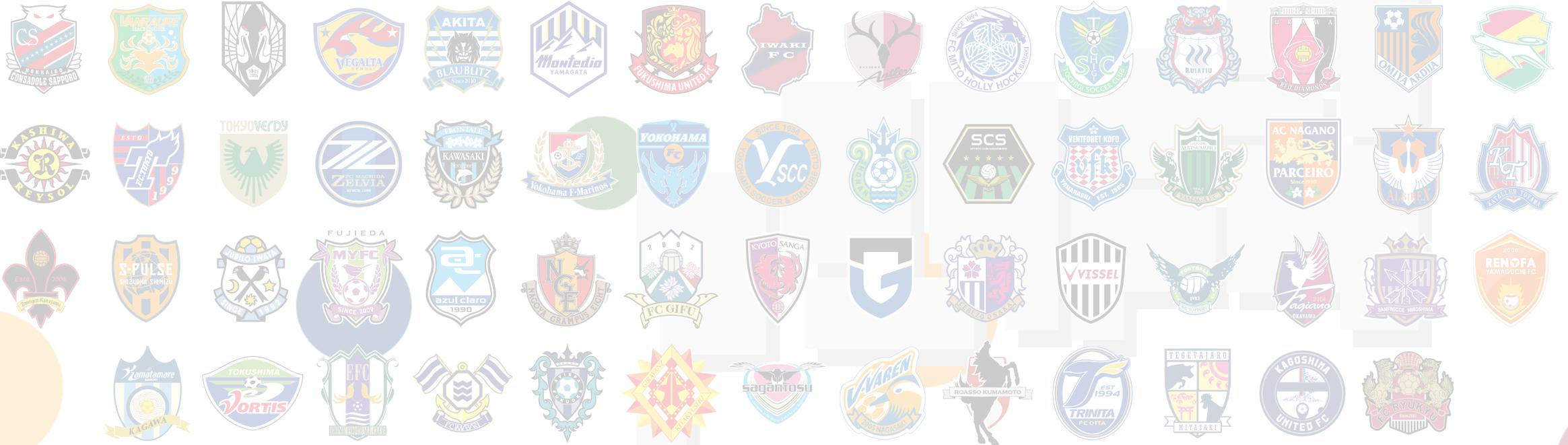
2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会後、ヴォルフスブルク所属の長谷部誠主将は、試合後のインタビューを「次は、Jリーグにも足を運んでください」と結んだ。そして、2022年カタール大会ではシャルケ所属の吉田麻也主将が「自分の住んでいる地域のJリーグのチームを応援してくれて、またJリーグが盛り上がればサッカーのすそ野が広がっていくことにつながる」と言っている。

平均観客数世界一を誇るドイツ・ブンデスリーガに身を置く故、自国リーグの発展こそすべてだと感じたからではないか。



J.LEAGUE

Jリーグホームタウン活動調査 2022年



調査概要 1/2

- 本調査は、2022年にJ1・J2・J3の58クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計したものです。
- 2016年版から下記の集計ルールを採用しています。
- クラブによるルール解釈・報告精度の違いを調整できていないため、あくまで参考値としてご覧ください。
- クラブにより、一部が異なるフォーマットで集計を実施しています。

期間	2022年1月1日から12月31日				
場所	ホームタウン及び活動区域内での活動を対象とする。また災害被災地への支援や国外等での社会貢献活動は、ホームタウンまたは活動区域外であっても対象とする。				
活動者	クラブ(株式会社、および関連する社団、NPOなど)に所属し、または直接の契約を有し、またはクラブを公式に象徴する、あらゆる者による活動を集計対象とする。 <table border="1"><thead><tr><th>対象とする(A)</th><th>対象としない</th></tr></thead><tbody><tr><td><ul style="list-style-type: none">選手(トップ、女子、アカデミー)監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)クラブの役員、職員アンバサダー、マスコット、公式チアチームエアゴールなど、クラブを象徴しうる備品の貸し出しは、集計対象とする</td><td><ul style="list-style-type: none">提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等クラブの外部株主外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合</td></tr></tbody></table>	対象とする(A)	対象としない	<ul style="list-style-type: none">選手(トップ、女子、アカデミー)監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)クラブの役員、職員アンバサダー、マスコット、公式チアチームエアゴールなど、クラブを象徴しうる備品の貸し出しは、集計対象とする	<ul style="list-style-type: none">提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等クラブの外部株主外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合
対象とする(A)	対象としない				
<ul style="list-style-type: none">選手(トップ、女子、アカデミー)監督、コーチングスタッフ(トップ、女子、アカデミー、普及、スクール)クラブの役員、職員アンバサダー、マスコット、公式チアチームエアゴールなど、クラブを象徴しうる備品の貸し出しは、集計対象とする	<ul style="list-style-type: none">提携先の学校、クラブ、少年団等に所属する選手、監督コーチングスタッフ、役職員等クラブの外部株主外部の支援団体(自治体、町内会、商店会、企業、学校、サポーター、ボランティア等)で、(左記)の(A)が参加しない場合				

調査概要 2/2 (活動内容)

対象とする	対象としない
<ul style="list-style-type: none"> 企業での講話、講演 地域振興団体*への表敬訪問 地域振興団体*主催の大規模パーティ、懇親会への出席 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や店舗への表敬訪問、または商談 地域振興団体*との事務的な協議 一般的な、またはプライベートな食事会・懇親会への参加
<ul style="list-style-type: none"> 豆まきへの参加(地域の催事への協力) 	<ul style="list-style-type: none"> 必勝祈願(クラブの行事) Jリーグ公式行事への参加 クラブが主催する、支援者またはファン・サポーター向け行事への参加(ビジネスパーティ、入団会見、ファン感謝デー、ファン向けトークショーなど)
<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・地域貢献に関する取材対応 地方振興団体*の広報への協力 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する取材対応
<ul style="list-style-type: none"> 障がい者など、社会的弱者を試合に招待 チャリティ目的の選手シートの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な試合への招待
<ul style="list-style-type: none"> クラブとしての寄付、及び物品寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> グッズ売り場での販売補助
<ul style="list-style-type: none"> クラブと無関係の選手個人の活動 巡回指導など、無償の普及活動 サッカー以外のスポーツ振興活動 介護予防事業 	<ul style="list-style-type: none"> ちらし等の配布、またはポスティング 試合会場、練習場、トレーニンググラウンド(キャンプ地を含む)におけるファンサービス 研修やセミナーの受講

* 地域振興団体:自治体、商工会、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、経済同好会、商店会、自治会、及びその外郭団体。並びにクラブを応援する地域の集まり(ホームタウン連絡協議会を除く)。

58クラブ全体集計

年間活動回数

23,573回

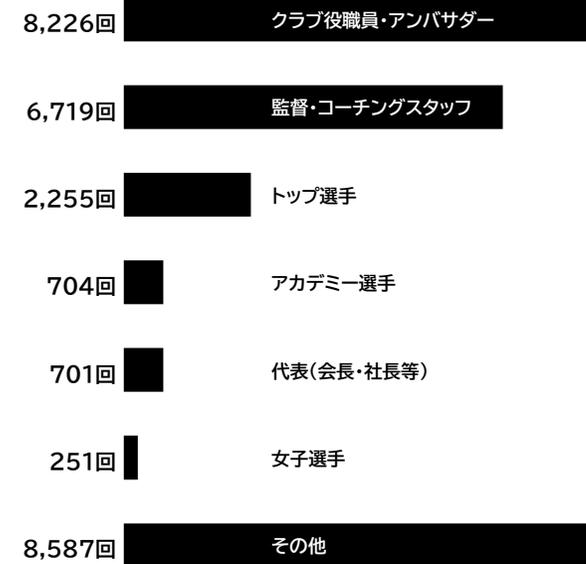
トップ選手の活動人数

6,982人

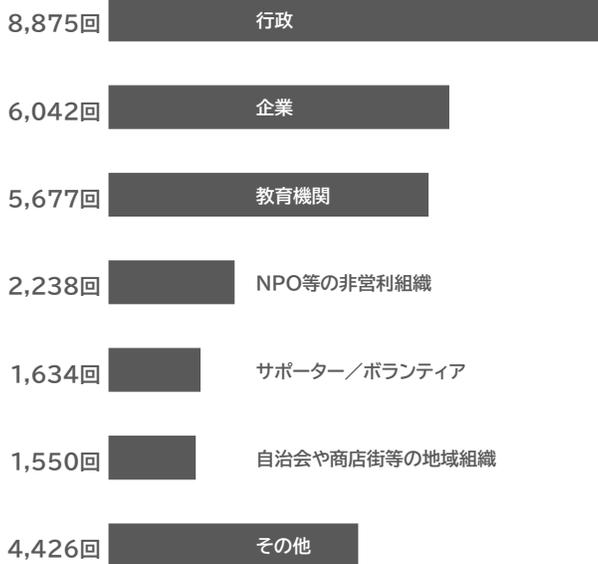
うちシャレン活動回数

2,068回

活動者

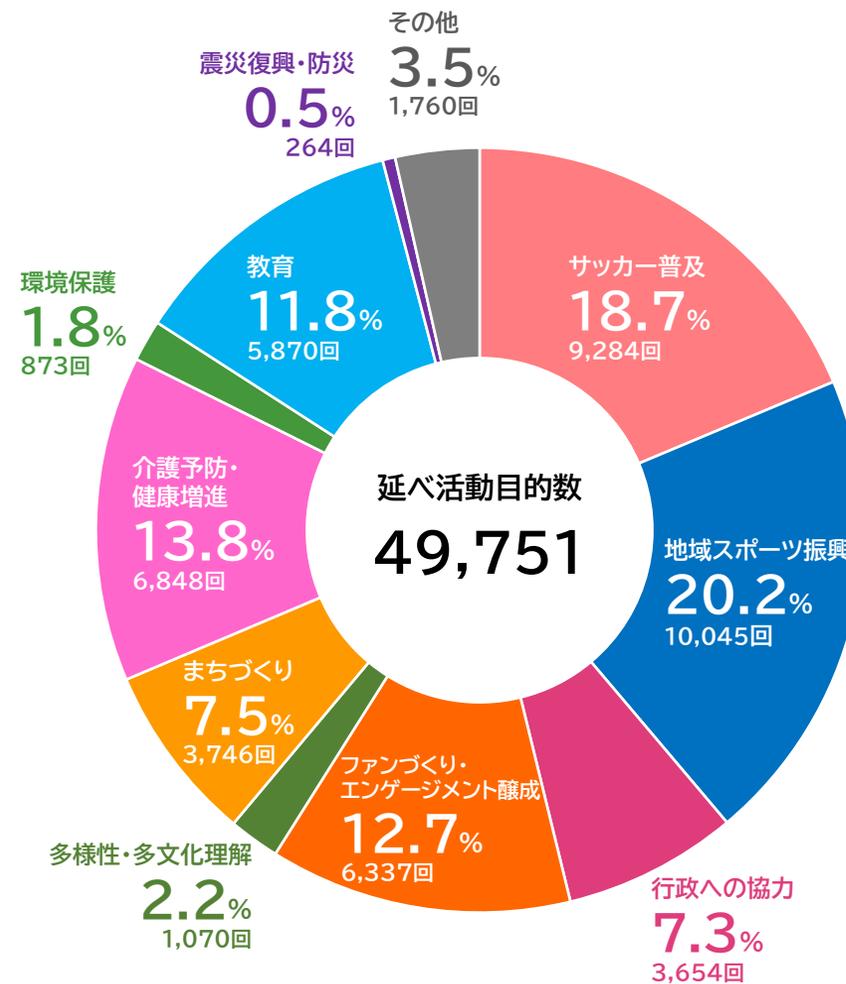


協働者



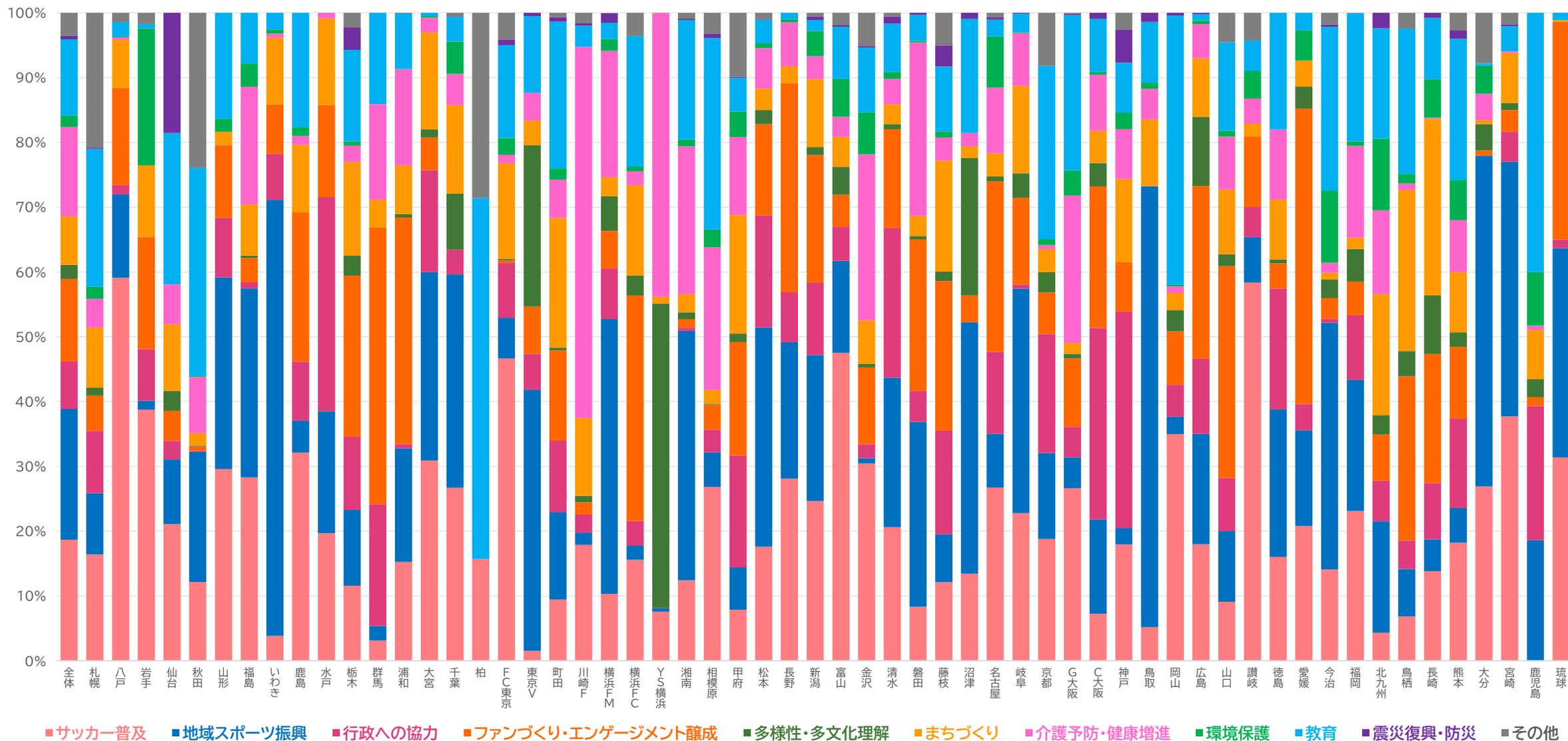
活動目的の構成

※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



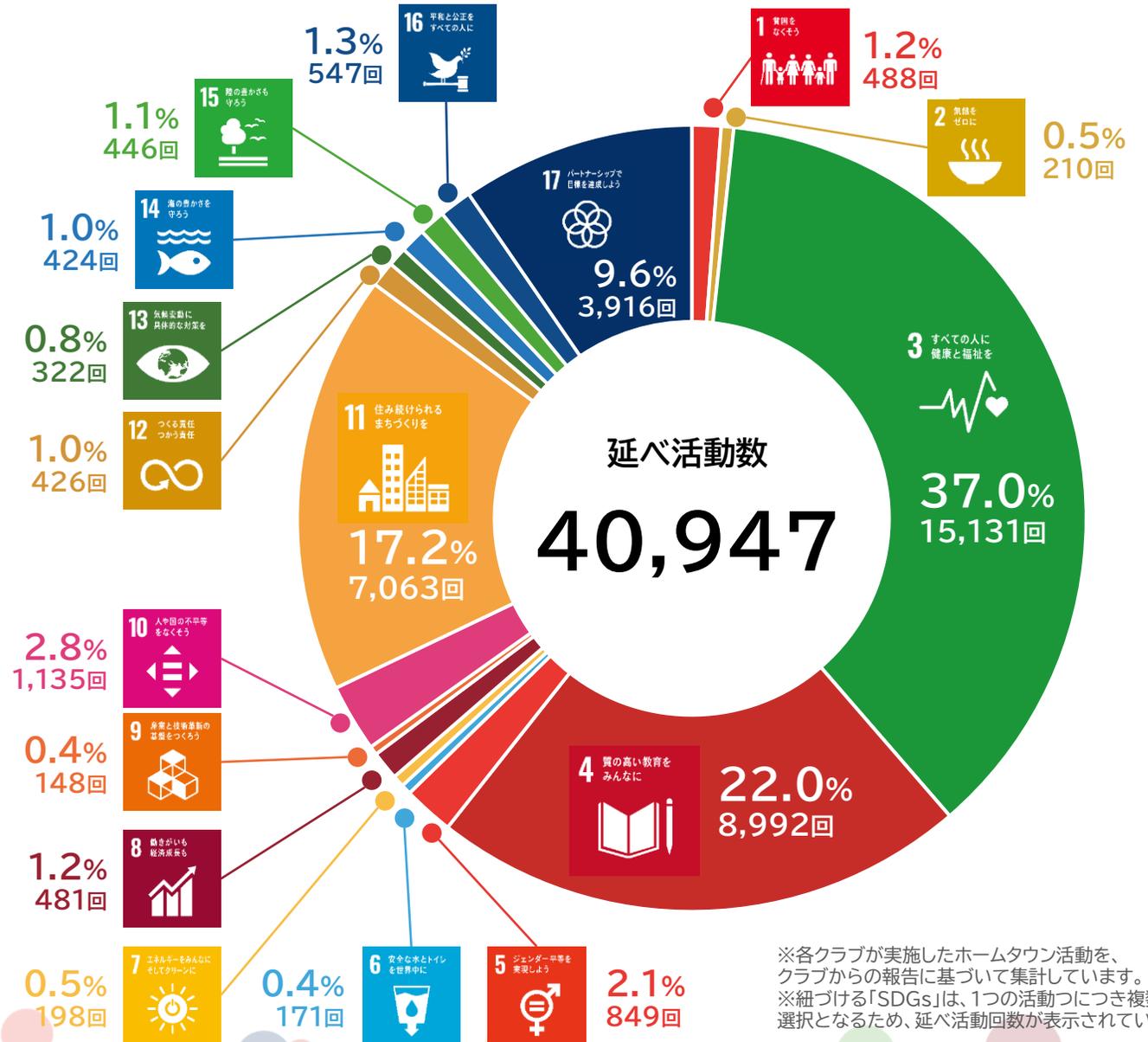
※「活動者」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

58クラブ活動目的(クラブ別)

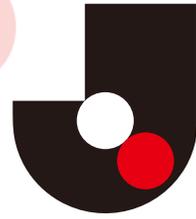


SDGsへの取り組み詳細(58クラブ全体)

引き続き2022年調査においても、JクラブにおけるSDGsへの取り組みを把握し、顕在化するため、各ホームタウン活動へSDGsを紐付け集計を行ってまいります。

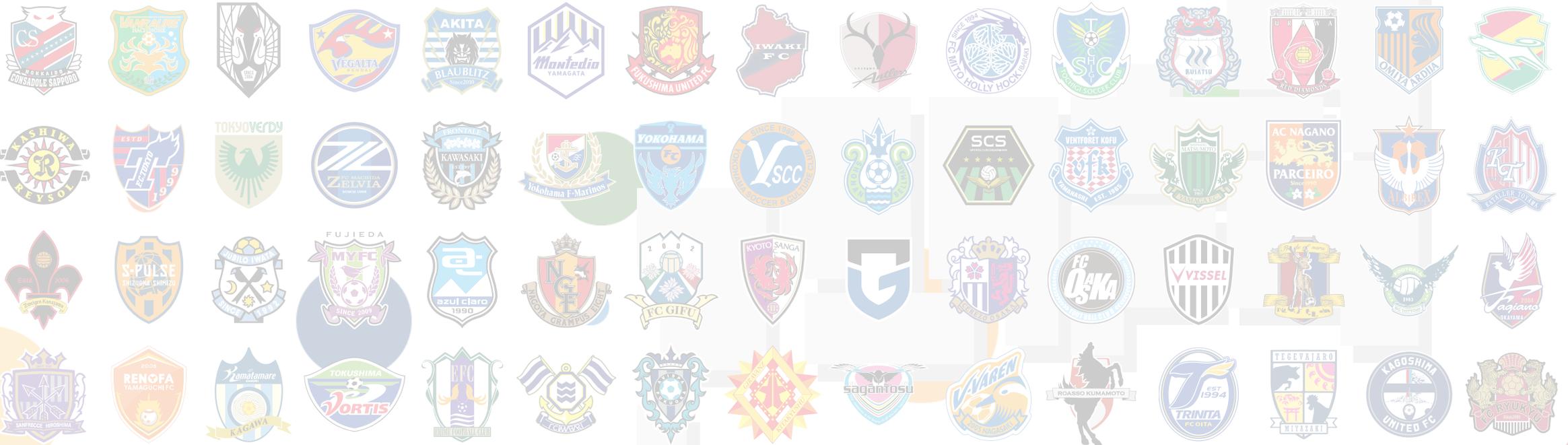


※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
 ※紐づける「SDGs」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



J.LEAGUE

ホームタウン活動 クラブ別紹介



2023年より加入のFC大阪ならびに奈良クラブについても紹介しています。



北海道コンサドーレ札幌

CONSADOLE HOKKAIDO TOURS 1/2

今回の企画はいつもより少し長いシーズンオフを生かした北海道ならではのシャレ
ン！活動ならびにホームタウン活動です。北海道全体をホームタウンとするコンサ
ドーレとして今後さらに地域との連携や結びつきを強めていくために
「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS」と銘打ち、選手たちが2人1組となり計
9日をかけて道内を巡るツアーを実施いたしました。

以下移動距離、訪問施設数、交流人数です。

- ・道北872km 15か所 1,100名
- ・道東1,026km 14か所 900名
- ・道南900km 13か所 1,400名



活動場所

北海道留萌市、士別市、東川町、紋別市、旭川市、大樹町、音更町、釧路
市、北見市、小樽市、白老町、室蘭市、洞爺湖町、江差町、上ノ国町、函館
市、北斗市などの各会場



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、
ファン・サポーター、民間団
体、飲食店、選手、農業団体

協働者名

留萌市役所、東川町役場、士別市役所、紋別市役所、旭川市役所、大樹町役
場、釧路市役所、北見市役所、小樽市役所、白老町役場、洞爺湖町役場、上
ノ国町役場、江差町役場、士別市立士別小学校、オホーツク・ガリコタワー
株式会社、旭川市立神居東小学校、東川町立東川小学校、晩成温泉、大樹
町宇宙交流センターSORA、株式会社ハビオ、釧路フィッシャーマンズワ
ーフMOO、釧路和商市場、北見市立大正小学校、小樽市立幸小学校、
Shiraoi Football Club、コラソンFC、函館サッカー協会、グルメ回転ず
し函太郎、JAグループ



協働者の声

白老町役場およびShiraoi Football Club / 千葉 勝宏 氏



この度、北海道コンサドーレ札幌の選手との交流を通じて、子供たちにとっ
ても直接コミュニケーションをとる大変貴重な機会となり感謝しております。今
後ともホームタウンチームとしてこのような活動を提供する場をお願いし、
我々地域をはじめ白老町のサッカーファンとしても積極的に応援いたしますの
で、頑張ってください。



活動詳細情報

- 1 [どうしんスポーツ記事](#)
- 2 [協働者HP](#)
- 3 [北海道新聞公式YouTube](#)
- 4 [旭川市役所公式YouTube](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





北海道コンサドーレ札幌

CONSADOLE HOKKAIDO TOURS 2/2

Story

北海道全体をホームタウンとする北海道コンサドーレ札幌にとって、地理的な問題で普段直接交流することのできない地域の方々とコミュニケーションをとる機会は常に模索しておりました。そんな中、2022シーズン終了のタイミングに着目し、合計9日間かけてトップチーム選手ならびにクラブスタッフが道北(深井一希・菅大輝)、道東(金子拓郎・中島大嘉)、道南(宮澤裕樹・福森晃斗)の3コースに分かれ、クラブと提携関係のある自治体を中心にシャレン!活動ならびにホームタウン活動を実施いたしました。企画の趣旨としては先述の通り、札幌から離れた地域の方々と直接交流すること、さらに小学校訪問ならびにサッカー少年団訪問を通じて子供たちと触れ合うこと、各自治体のPR動画撮影に選手が出演



し自治体の課題解決のためにクラブが力になることが挙げられます。今回は活動は大きく2つに分けられます。1つ目は自治体への表敬訪問および地域の課題解決のための動画撮影。

こちらにつきまちは各自治体の方と選手およびスタッフが直接顔を合わせてお話をするととても貴重な時間でした。各自治体にコンサドーレから、このイベントのために特別に作成したサイン入りユニフォームを贈呈後、今回の活動を表敬訪問のみで終わらせるだけでなく各地域のニーズを満たせるように動画撮影を実施いたしました。

クラブスタッフが事前に各自治体から「観光面やふるさと納税PRをしてほしい」「より良いまちづくりのためのメッセージを発信してほしい」というような要望を聞き出し、当日選手たちは苦戦しながらも各自治体の力になろうと動画撮影に励みました。2つ目はコンサドーレのアカデミーおよび地元の子供たちとの交流。

各コースにおいて小学校訪問および少年団訪問といった現地の子供たちと交流することのできるプログラムを設けました。

先生方とのトークショーや生徒との質疑応答に加えて、実際に一緒に身体を動かしたりと短いながらも濃密な時間を過ごすことができ、たくさんの子供た



ちの笑顔にふれることが出来ました。さらに各イベントにおいて交流したすべての方に選手から直接オリジナルステッカーを配布し、交流を目に見える形で保存いたしました。北海道全体をホームタウンとする我々にとって札幌から遠く離れた地域から応援してくださっている方々の存在は非常に重要です。また、訪問先の方々からSNS上で普段会いに行けない選手との触れ合いの場を設けてくれて感謝する旨の内容をたくさん発信いただきました。そのような方々や地域の子供たちと直接交流し、コミュニケーションをとることができた今回の活動はクラブの財産となりました。引き続き北海道ならではの活動を実施いたします。



ヴァンラーレ八戸

俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ 1/2

農業就業者の高齢化や担い手不足、遊休農地の増加等の地域課題の解決に向け、クラブのオフィシャルパートナーでもある株式会社MISTsolution様(本拠地:東京)と協働し、八戸市南郷の農地を活用したにんにく栽培を開始。地域の農家の皆様にもご協力いただき、植え付けや収穫作業を実施。2021年からは上北農産加工株式会社様と、収穫したにんにくを活用したコラボ商品「俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ」を開発し、地域のコンビニ、道の駅をはじめ、Jリーグ各クラブにもご協力いただき販売を実施している。



活動場所 八戸市南郷の畑、上北農産加工株式会社、ファミリーマート、Jリーグクラブ試合会場



協働者

企業、住民

協働者名

株式会社MISTsolution、上北農産加工株式会社、ファミリーマート、Jリーグクラブ、地域住民



活動詳細情報

1 [公式サイト①](#)

2 [公式サイト②](#)



協働者の声 上北農産加工株式会社 / 三浦 良行 氏



商品を企画するにあたり、ヴァンラーレ八戸様が栽培に携わったにんにくのみを使用するという点にこだわり、生産者・消費者を巻き込んだ「みんなが喜ぶおもしろい商品」になったと思います。微力ながら、地域とクラブをつなぐ役割を果たせたことは弊社としまして大変うれしく思っております。



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





ヴァンラーレ八戸

俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ 2/2

Story

青森県では年々農家が減少しており、農業就業者の高齢化や担い手不足に悩まされているほか、遊休農地の増加等の地域課題を抱えています。それは、クラブ設立の地「八戸市南郷」も例に漏れません。この問題解決に向け、私たちは、クラブのオフィシャルパートナーである1社目の協力者「株式会社MISTsolution様(本拠地:東京)」と協働で、八戸市南郷の農地を借用。かつ農作業者を1名雇用していただくこととなりました。

借用した農地では青森県の特産品であるにんにくの栽培を開始し、全選手・スタッフ、そして2者目の協力者である周辺の農家の方々にもご協力いただき、植え付けから収穫、農地の管理を行っています。



2021年8月には、そこで収穫したにんにくを使い、3社目の協力者オフィシャルパートナーの上北農産加工株式会社様とのオリジナルコラボ商品「俺たちのスタミナヴァンたれにんにくマシマシ」を開発し、販売を開始いたしました。

開発にあたりご担当いただいた上北農産加工株式会社 三浦様からは、「生産者・消費者を巻き込んだ『みんなが喜ぶ商品』になった」とのお言葉をいただいています。

このコラボ商品は、ホーム戦や公式オンラインショップ、地域イベント、県内のファミリーマート様、スーパーや道の駅等での販売に加え、Jリーグ各クラブにもご協力いただき、アウェイ戦での販売も行いました。

2022年は約10,000kgのにんにくを栽培、収穫し、うち100kgをコラボ商品に使用しています。2022年収穫分のにんにくを使用した「スタミナヴァンたれにんにくマシマシ2022」は、初回生産分1,000本が完売。また、年間約6,000本を販売しました。



今年で販売開始2年目を迎えた「スタミナヴァンたれにんにくマシマシ」は、昨年に引き続き、コロナ禍の社会でも、Jリーグという全国的な横の繋がりを活用し、青森県の商品を全国へPRすることができています。



いわてグルージャ盛岡

ホワイトルーフプロジェクト2022 1/2

2022シーズン、いわてグルージャ盛岡では「子供たちが笑える未来へ。」という思いから、川上塗装工業株式会社のご協力のもと、「ホワイトルーフプロジェクト2022」をスタートさせました。盛岡市の山岸学童クラブの屋根に選手、スタッフ、学童クラブの先生や子供たち、地元ボランティアの方と一緒にガイナという夏には遮熱、冬には保温してくれる特殊な塗料を塗る活動を行いました。夏は暑く、冬は寒い岩手県で子供たちに過ごしやすい場所を提供することを目的にしながら、リーグ戦の日に参加者を招待してスタジアムツアーを行いサポーターを増やす活動にもつなげることができました。

活動場所 山岸学童クラブ

協働者 **協働者名**

企業、住民、学生、ファン・サポーター、選手、ボランティア

川上塗装工業株式会社、山岸学童クラブ

Voice **協働者の声** 川上塗装工業株式会社／川上 秀郎 氏



子供たちの環境をよくするのはもちろん、冷暖房の省エネ化が脱炭素に繋がり、未来へ好循環の地球環境を手渡ししていける。10、20年と活動を続けて情報発信して、環境を考慮した塗料の選択が広まれば嬉しいという思いで参加させていただきました。実際に過ごしやすくなったという声が聞けて、やって良かったなという思いです。



活動詳細情報

1 [川上塗装工業公式HP](#)

SDGs **カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





いわてグルージャ盛岡

ホワイトルーフプロジェクト2022 2/2

Story

夏は35℃になるほど暑く、冬には-10℃にもなる岩手県ではエアコンの冷暖房は必須です。そこで山岸学童クラブという以前は選手がアルバイトをしていた場所に恩返しの意味も込めていわてグルージャ盛岡と川上塗装工業株式会社がタッグを組み「ホワイトルーフプロジェクト2022」でガイナと呼ばれるJAXAの宇宙ロケットにも使われている塗料を屋根に塗り、夏は断熱、冬は保温でき過ごしやすい環境づくりを目指してスタートしました。選手、スタッフをはじめ、山岸学童クラブの先生、子供たちや地元のボランティアの方々合わせて100人以上の方に活動に携わっていただきました。実際に初めて屋根に登る人ばかりで恐る恐る歩く子供から逆に子供に戻ったかのように楽しむ大



人がいつの間にか無言で黙々と屋根塗り作業に没頭していたのが印象的でした。選手が参加すると「試合勝ったね」「試合出てる時はどんな気分？」など質問攻めにあっていましたが、地域の方々との交流を深められた取り組みにもなりました。また、「ホワイトルーフプロジェクト2022」に参加していただいた方全員にいわてグルージャ盛岡とのコラボTシャツをプレゼントし、サッカーに興味なかった方にもいわてグルージャ盛岡を知ってもらえる機会になりました。3か月ほどの準備期間を経て作業に入りましたが、梅雨の時期でもあったので雨風とも戦いながらたくさんの方のご協力のおかげで黒かった屋根を2週間ほどで綺麗なガイナ塗料の白色に塗り終えることが出来ました。6月下旬の気温30℃の晴れの日、屋根にガイナを塗っていない部分の表面温度が52.1℃、ガイナ塗料を塗った部分の表面温度が35.7℃と16℃も低くなり皆さん驚きの拍手に包まれていました。夏休みになり、山岸学童クラブに訪問するとエアコンの設定温度が大幅に上がった、涼しい、過ごしやすくなった。などの声を学童クラブの先生方、生徒からいただきました。



更にこのプロジェクトに参加いただいた方全員を対象に8/6ファジアーノ岡山戦へご招待し、スタジアム観戦ツアーを実施しました。選手のバスのお出迎えからピッチ内でのウォーミングアップ見学、試合観戦までしていただき、これからもスタジアムへ来たい。ずっといわてグルージャ盛岡を応援する。などこのプロジェクトをできた喜びや感謝を感じることができました。今後も継続してこのプロジェクトを行い、子供たちの過ごしやすい環境づくり、地域貢献、地域の方々とのコミュニケーションを図る取り組みを積極的に行ってまいります。



ベガルタ仙台

高校生×ベガルタ「カレーなる町おこし」名物開発プロジェクト！1/2

大郷町、明成高校、ベガルタ仙台の三者はSDGsなまちづくりを目的に包括連携協定を結び、地域の活性化の課題解決に向け、町の新しい名物開発プロジェクトをスタート。高校生達が大郷町の畑で収穫した大豆を使用した「お豆の気持ち」味噌を使い、三者で何度も協議を重ね、「大郷みそカレー ～お豆の気持ち～」が完成。ベガルタは地域連携課スタッフの菅井直樹も開発に加わり、メディアを巻き込むプロモーションを担当し、今後、ホームゲーム時の販売、町内の飲食店に導入していただくなど、大郷町を代表する名物になるようPRしていきます。



活動場所 明成高校、ユアテックスタジアム仙台、大郷町役場



協働者

行政、学校、学生、一般社団法人

協働者名

大郷町(おおさとちょう)
学校法人朴沢学園仙台大学附属明成高等学校
(明成高校 めいせいこうこう)
一般社団法人めるくまーる



協働者の声 大郷町役場まちづくり政策課 まちづくり推進係／赤間 信之 氏



三者での初めての取り組みが形になり、嬉しく思います。また、これからの展開を想像すると希望しかありません。本町はこれまで「モロヘイヤ」というイメージが強かったと思いますが、他にも「良い食材・良い場所」がたくさんあります。本プロジェクトをきっかけに様々な分野について、皆様に発信していきたいと思っています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [TBC番組HP](#)
- 3 [KHBニュース](#)
- 4 [スポーツ報知](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ベガルタ仙台

新しい町の名物を作ろう！キックオフカレープロジェクト！ 2/2

Story

令和4年4月、大郷町(おおさとちょう)、学校法人 朴沢学園仙台大学附属明成高等学校(以下明成高校)、ベガルタ仙台は、「SDGsなまちづくり」に向け、連携・協力に関する協定を締結いたしました。

SDGsの達成と地域活性化という課題解決に向け、協議を重ね、新しい町の名物を一緒に開発するべくプロジェクトがスタート。大郷町と明成高校 食文化創志科の学生が、食育の一環として、大豆の生産・味噌造りに通じていたこと、ベガルタ仙台からは元選手の地域連携課スタッフ菅井直樹が開発メンバーとなり、また「カレーは飲み物」がSNSで話題になったベガッ太も活用し、メディアを巻き込んで、



情報発信を行う役割を担うことで、味噌を使ったカレーで町おこしを進めていくことが決まりました。

大郷町の大豆を使った味噌「お豆の気持ち」を使用した「みそカレー」の開発を始め、味噌の量だけでなく、味噌の熟成加減が1年のものか、半年のものどちらがよいか、子どもでも食べやすいかなど、様々な視点から試作試食を重ね、学生たちと意見を出し合いながら、徐々に完成に近づいていきました。

この様子は、地元テレビ局の番組のSDGsコーナーで「カレーで町おこし」として紹介され、取材にも堂々と受け答えする学生たちは頼もしいものでした。そして、2022年11月に「大郷みそカレー～お豆の気持ち～」が完成しました。ベガルタ仙台のファン感謝の集いで、先行お披露目として限定100食が完売、翌12月に大郷町役場で試食&完成発表会を地元のメディアが集う場で行いました。



発表会にはベガッ太も駆けつけ、大郷町長をはじめとした関係者からも、「みその味がしっかり感じられる」、「子どもから大人まで幅広く食べてもらえる」など好評価。

今後は、ベガルタ仙台ホームゲームでの販売、また町内の飲食店に導入していただき、その認証店にはベガッ太を活用したPRを予定しています。大郷みそカレー交流人口拡大に貢献していくよう今後も全面的にプロモーションを進めていきます。



ブラウブリッツ秋田

8つのSDGsアクションをファン・パートナー企業と”共創” 1/2

SDGsアクションパートナーである東電化工業株式会社様・東商事株式会社様と共に、ブラウブリッツ秋田の試合会場で「SDGsアクションチャレンジデー」を開催しました。SDGs及び地域社会の課題に対し、試合会場に来場されたファン・サポーターの皆さまと一緒に取り組める様々な企画を行い、SDGsにアクション(行動)する機会やSDGs活動を知っていただく機会を創出しました。SDGsアクションパートナーの従業員と何度も打ち合わせをしながら共に創り上げた「パートナーシップ」の活動となっており、1試合で「8つのSDGsアクション」を行うことができました。

活動場所 ソユースタジアム

協働者

行政、企業、学校、NPO、ファン・サポーター、農家、農業団体、一般社団法人、ボランティア

協働者名

東電化工業株式会社、東商事株式会社、五城目町役場生涯学習課、秋田県立特別支援学校、特定非営利活動法人あきた子どもネット、社会福祉法人のしろ汐風会、一般社団法人秋田県SDGs協会、秋田県内生産者グループ「wakka」

協働者の声 東商事株式会社 / 加藤 咲子 氏

当社グループだけでは影響しえなかった人数のサポーターの方々と一緒に「SDGsを実際の行動に移す」「SDGsを身近に感じてもらう」ということが実現できたと思います。準備から当日の運営まで、ブラウブリッツ秋田様の従業員と当社グループの従業員が協力し、さらに県内の様々な団体とも連携してみんなで作り上げた大変素晴らしい一日でした。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [東商事株式会社HP](#)

SDGs カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





ブラウブリッツ秋田

8つのSDGsアクションをファン・パートナー企業と”共創” 2/2

Story

■背景

試合会場がファン・サポーターのSDGsに対する意識を向上させ、当事者意識を持たせる「場」にできるのではないかと考え、その想いに賛同いただいた東電化工業株式会社様・東商事株式会社様とSDGsアクションパートナー(以下、パートナー)として共に活動することになりました。

■目的

“気軽に・楽しく・誰でも”参加できるSDGsの取り組みを行うことで『SDGsを知り行動する「きっかけ」をつくりたい』という目的で実施しました。また将来的には試合会場から意識変革や行動変容につながり、来場者が当たり前前にSDGsに取り組む未来をつくりたいと考えています。



■内容

ファン、サポーター及びパートナー従業員と共に「8つのアクション」を行いました。

①【12つくる責任つかう責任】県内の野菜生産者の皆さんに協力いただき地産地消の取り組みとして県内野菜をマルシェとして販売しました。

②【1貧困をなくそう】【2飢餓をゼロに】フードドライブを実施。来場者に家庭や職場で余っている食品・生活用品などを試合会場に持ち寄っていただき、子ども食堂を運営されているあきたこどもネット様、のしろ夕風会様に寄贈しました。

③【4質の高い教育をみんなに】普段中々試合観戦する機会のない秋田県内の特別支援学校に通う方々を試合観戦に無料で招待しました。

④【3すべて人に健康と福祉を】【10人や国の不平等をなくそう】五城目町役場生涯学習課様協力のもと、障がいの有無・年齢・性別関係なく楽しむことのできるユニバーサルスポーツ「モルック」の体験会を開催しました。

⑤【8働きがいも経済成長も】パートナー従業員73名に試合運営ボランティアへ参加いただきました。

⑥【13気候変動に具体的な対策を】試合終了後に客席やイベントブース、グルメブース周辺の清掃活動をファン・サポーターと共に実施しました。



⑦秋田県SDGs協会協力のもと、身近なことからSDGsに取り組むことを宣言する「SDGs宣言」を約180名の来場者に行っていただきました。また宣言の様子をハーフタイムに大型映像装置で発表し、多くの方々に各々のSDGs宣言を知っていただく機会をつくりました。

⑧イベントステージで選手と秋田県SDGs協会の事務局長によるSDGsトークショーを実施しました。SDGsに関するクイズなども実施し、来場者の皆さんに楽しみながら学んでもらいました。今後もこのような「企業」「ファン」「クラブ」がそれぞれ単体では実現し得ない活動を拡大させ、より地域のために活動を発展、継続させていければと考えています。



モンテディオ山形

高校生が本気で挑戦できる場として「高校生マーケティング探求」を実施 1/2

モンテディオ山形では、高校生が本気で挑戦できる場として「高校生マーケティング探求」を実施しました。

山形県置賜総合支庁の協力のもと38名の高校生を集め、探究教室「ESTEM」と協働し約2ヶ月に渡るプログラムを実行しました。

地方ならではの課題である「教育と実践の場」を創り出すことを目的とした本プロジェクトでは、1ヶ月目はマーケティングの基礎知識を学び、2ヶ月目は企画立案を行いました。最終プレゼンは1泊2日の合宿形式で行われ、そこで採用された企画が試合のイベントやプロモーションとして実現されました。



活動場所 山形県総合運動公園・NDソフトスタジアム山形



協働者

行政、企業、学校、学生

協働者名

米沢市、山形県置賜総合支庁、探究教室ESTEM(株式会社山のむこう)



協働者の声

探究教室ESTEM(株式会社山のむこう)／大垣 敬寛 氏



このプロジェクトを終え、高校生から「また取り組みたい」という声が多く寄せられました。ふだんは社会とつながった活躍の機会が少ない高校生が、リアルな課題に挑戦する貴重な機会でした。地域の人や企業も応援の声をあげてくれましたが、地域と密接なモンテディオ山形だからこそ実現したプロジェクトだったと思います。

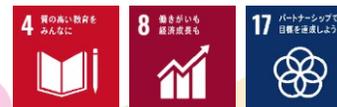


活動詳細情報

- 1 [山形県HP](#)
- 2 [公式サイト](#)
- 3 [プロジェクトTwitter](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





モンテディオ山形

高校生が本気で挑戦できる場として「高校生マーケティング探求」を実施 2/2

Story

地方において若者の県外流出は深刻な問題です。一つの原因は、若者が学び、その学びを活かせる環境がないからだと考えています。そこでモンテディオ山形は、若者が質の高い教育を受け、学んだことを実践できる場として「高校生マーケティング探求」を実施しました。

山形県置賜地域の行政、高校に協力を仰ぎ、高校生38名を集めてスタートした本プロジェクト。約2ヶ月間、毎週放課後の2時間を利用しオンラインを中心に進行しました。初月は題材となっているモンテディオ山形についてのインプットや、マーケティングに関する基礎知識を学ぶ時間に充て、2ヶ月目はモンテディオ山形で行われる試合に向けて、



「スタジアムに人を呼ぶためにはどうすれば良いのか」を議論してもらいました。

今回のマーケティング探求は、「机上の空論ではなくリアルなビジネスを体験する」ということを大切にしていたため、高校生にはスタジアムでの現地調査とプレゼンを兼ねた1泊2日合宿に参加してもらい熱量を高めてもらいました。

チームに分かれて行われたプレゼンからは「7つ」の企画が採用され、最後の2週間は企画実現に向けて活動しました。

高校生が考えた企画は、集客全体のプロモーションとしては効果的な施策もありましたが、定めていた「高校生を1,000人集客する」という目標に対しては遠く及ばない結果となりました。

一方で、高校生には「ビジネスはうまくいかないことの方が多い」ということを伝え、社会の厳しさと同時に個人の努力の方向性を示すことができました。

このプロジェクトがきっかけとなり、2023年からはモンテディオ山形U23マーケティング部が設立されます。クラブとしても一過性で終わらない継続的な活動として位置づけ、若者の育成、産業創りを企業、行政、学校と連携して進めていきます。



そして、クラブにとっても若い力で組織力、マーケティング力を高め新たなファンの獲得に繋げていきます。



福島ユナイテッドFC

街おこしのニューヒーロー！街を元気づけるのはサポーターだけじゃない！プレーヤーだってまだまだ現役！ 1/2

福島ユナイテッドFCは福島市と福島市内の観光協会や宿泊企業と連携して、サッカーを通じた街おこしにチャレンジしている。自チームの強化や、収入が目的ではない。サッカーの交流大会を通して、街や温泉街に活気を戻すための活動だ。昔は繁忙期になれば人が賑わっていた温泉街や、コロナ禍前にはたくさんの人たちが食事を楽しんだ駅前の繁華街に、サッカーの「サポーター」ではなく「プレーヤー」を集めて、街を活性化させる。有名なスポットが無くても、サッカーがあれば街は活気づく！そんな街を目指している。



活動場所 福島市内サッカー場、福島市内宿泊施設



協働者

行政、企業、住民、ファン・サポーター、都道府県サッカー協会、飲食店

協働者名

福島市役所、飯坂温泉観光協会、株式会社ミドルウッド、福島県サッカー協会



協働者の声 福島市役所／清野 明 氏



東日本大震災以降の取組みが、現在は新型コロナウイルス感染症からの地域経済回復の取組みとなり、福島市にとっても、今は欠かせない事業に成長していると感じています。持続的に開催することで、その時々課題に対して、街とスポーツが連携、運動し、住みやすい、そして来やすい街を福島ユナイテッドFCと一緒に共創していきたいと考えています。



活動詳細情報

1

[公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





福島ユナイテッドFC

街おこしのニューヒーロー！街を元気づけるのはサポーターだけじゃない！プレーヤーだってまだまだ現役！ 2/2

Story

福島ユナイテッドFCの事務所がある飯坂温泉は、日本武尊が東北征討の時に発見、開湯したという伝説があり、温泉が多い東北地方でも、宮城県の秋保、鳴子とともに、奥州三名湯のひとつとして多くの人々に親しまれてきた。しかし、近年においては、急激な社会経済状況等の変化により、観光客、宿泊客は減少してきており、昭和40年代後半の最盛期には120軒あった旅館も64軒、年間178万人の観光客入込数があったのも101万人まで減少しており、これらの後退状況に対して、歯止めをかけるまでには至っていない現状にあった。

そんな折、福島ユナイテッドFCがJFL昇格を機に、事務所を飯坂町に移転。練習場も、飯坂町から車で5分の十六沼公園を拠点とすることになる。その後、



福島ユナイテッドFCのJ3昇格と相まって、2019年に十六沼公園は天然芝が2面追加され、人工芝も3面と増やしていった。その練習拠点を活用した「福島ユナイテッドカップU-12」を福島市と福島ユナイテッドFCで企画し、2015年より継続開催してきた。目的は、大会に参加してもらうチームに飯坂温泉に宿泊してもらうためだ。参加チームは、基本は県外のチームが多い。サッカーの試合をして、試合後は飯坂温泉の旅館に宿泊し、交流を深めてもらうのだ。旅館は飯坂温泉観光協会が協力して、紹介と宿泊手配に加え、日帰り入浴券の配布をしてくれている。お土産に福島県産の桃を渡して福島市のPRも忘れない。さらに、くだもの狩りなど福島市の魅力に触れる貴重な機会も創造してくれている。もう一つ、福島市と福島ユナイテッドFCは大会を開催している。その名も「OYAJI CUP」。対象は30歳以上と尖った条件の大会だ。(オーバーエイジならぬ、アンダーエイジ枠も少しはある)こちらも目的は、福島市中心市街地に宿泊してもらうことだが、大人ならではの裏テーマが存在する。それは「福島市を飲み尽くそう！」。なんと、宿泊手配だけでなく1軒目の居酒屋までも手配済み。1軒で終わるわけもないので2軒目はご自由に。宿泊だけでなく、飲食でも活性化を促すのが目的だ。



次の日の試合が全員へ口へ口でも笑顔でプレーしているのもOYAJI CUPの魅力の一つかもしれない。もちろん、参加賞から優勝賞品すべてが福島市の名産品やくだもので、ここでも福島市のPRを忘れない。観光客を呼び込むためには、人気スポットは欠かせないが、人気スポットがなくても人が集まる街。持続的に開催することで、福島ユナイテッドFCが存在することで、サッカーのサポーターだけでなくプレーヤーも集まり、福島を元気にしてくれる。そんな街を目指していきたい。



いわきFC

いわきFC、“常磐もの”うまい!“常磐もの”で勝つ！ 1/2

いわきFCのホームタウンである福島県浜通り地域で水揚げされた水産物は、震災前から築地市場等の水産関係者の間で「常磐もの」として高く評価されてきました。しかし、震災と原発事故の影響を受けしばらく風評被害が続いていました。「日本のフィジカルスタンダードを変える」ことをコンセプトに掲げ、日々ハードなトレーニングをこなすいわきFCの選手たちが、常磐ものを食べて身体づくりに取り組む姿を発信することで、常磐ものの美味しさだけでなく、その栄養価の高さや安心安全を伝えていきます。



活動場所 いわきFCパーク、Jヴィレッジスタジアム等



協働者

行政、ファン・サポーター、選手、一般社団法人

協働者名

福島県漁業協同組合連合会



協働者の声

福島県漁業協同組合連合会／山野辺 昌志 氏



福島県沖は、親潮と黒潮がぶつかる「潮目の海」に面しており、四季を通じて多彩で質の良い“常磐もの”が水揚げされています。いわき市、いわきFCと連携し“常磐もの”の安心・安全、そして美味しさを、プロジェクトを通して広く発信していきたいと考えております。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[公式YouTube](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





いわきFC

いわきFC、“常磐もの”うまい!“常磐もの”で勝つ! 2/2

Story

■“常磐もの”うまい!“常磐もの”で勝つ!

「常磐もの」とは?

いわき市で水揚げされた水産物は、震災前から築地市場等の水産関係者の中で「常磐もの」として高く評価されてきました。いわき市では、平成27年10月から水産業の地域ブランド「常磐もの」を開始し、市内の水産関係者が一体となって、本市水産物のおいしさ等の魅力や携わる人々のまじめな心意気を伝えるため、この「常磐もの」をキーワードに、各種プロモーション事業を展開し、消費者等の認知度向上、消費拡大を進めているものとなります。(引用元:いわき常磐もの | 公式サイト (joban-mono.jp))



いわきFCのコンセプトである「日本のフィジカルスタンダードを変える」というチームビルディングには栄養の力は不可欠です。中でも、サバやサンマなどの青魚には身体に起こる炎症を抑えたり、血流をスムーズにする働き、あるいは持久力の向上など選手のパフォーマンスを高める成分(EPA、DHA、ビタミンB12、ビタミンD、セレン等)が多く入っています。

そこで、地元の美味しい常磐ものを食べて選手が躍動することで、風評払拭の一助になればと、いわき市、福島県漁業協同組合連合会のご協力を得て、福島県に水揚げされる“常磐もの”の魚を応援させていただくことになりました。

いわきFCの選手たちがこれらを積極的に摂取し、「90分間止まらない、倒れない」魂の息吹くフットボールを展開することで、栄養の側面からも“常磐もの”の魅力伝えるアプローチを行って参りました。

そして、「“常磐もの”うまい!」「“常磐もの”で勝つ!」を合言葉にファンやサポーターの皆さまにも“常磐もの”の美味しさを広め、地域の活性化に貢献する活動も実施していきました。



- ①選手が常磐ものを食し、身体づくりに取り組む様子をPR
- ②PR動画の作成
- ③ホーム、アウェイ会場でのPRブース出店
- ④いわきFCのホームゲーム時に親子サッカー教室を開催し、常磐もの選手弁当を試食体験

選手の体づくりはもちろんですが、私たちの使命として、少しでも風評の削減に貢献するべく、地元の水産業者との連携を通じて、多くの方に“常磐もの”を届けられたらと思います。



鹿島アントラーズ

英語教材TPR動画 1/2

鹿嶋市と共同で子どもたちが英語を身近に慣れ親しんでもらうためのTPR教材を制作し、同市内全小学校の授業で活用を開始しました。

TPRは「Total Physical Response」の略称で、身体を動かしながら内容を理解し習得していく「全身反応教授法」と呼ばれる指導法として、小学校の英語授業で積極的な導入が進められています。今回、本教材にはアントラーズの選手が出演し、動画内では約160種類の動作を披露。英語の発声とともに様々な動作を行いながら、楽しく学ぶことができる内容となっています。



活動場所 鹿嶋市内の教育機関(小学校、中学校、幼稚園・保育園、ほか)



協働者

行政、学校、選手

協働者名

鹿嶋市教育委員会、鹿嶋市内小学校12校



協働者の声

鹿嶋市教育委員会教育指導課／小野 あゆみ 氏、マイケル・デニング 氏

言語教育にはネイティブスピーカーのようなモデルだけでなく、同じ立場で、言語を話そうとしているロールモデルが必要です。このTPR教材では、鹿島アントラーズの選手がまさに英語を話すロールモデルとなっています。

※この場合の同じ立場とは、「英語」を「第二言語として話す」ということです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式Twitter](#)
- 3 [鹿嶋市HP](#)
- 4 [鹿嶋市HP参考動画](#)
- 5 [茨城新聞](#)
- 6 [朝日新聞](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





鹿島アントラーズ

英語教材TPR動画 2/2

Story

導入契機

鹿島アントラーズと鹿嶋市は、地方創生事業に関する包括連携協定を結んでいます。これまでも教育連携を図り地域の子どもたちと関わってきましたが、今回もこの事業の一つに位置付けられ、子どもたちにより英語を身近に慣れ親しんでもらうことを目的にTPR教材の制作を行いました。また、コロナ禍においてスタジアムに来ることや、クラブが小学校訪問を行う機会が減少してしまった中、クラブや所属する選手に興味を持ってもらえればという思いも込められています。



TPRとは

「Total Physical Response」の略称で、身体を動かしながら内容を理解し習得していく「全身反応教授法」と呼ばれる指導法として、小学校の英語学習の初期段階で積極的な導入が進められています。また、TPRは、楽しく英語を学べるというほかに「自然な順序で英語を覚えることができる」というメリットがあります。

また、TPRは楽しく英語を学べるというほかに、「言葉と同時に行動すると言語理解が急速に進む」「行動とともに覚えられた言葉は長時間忘れにくい」「自然に語と語のつながり(コロケーション)を覚えることができる」「意味と動作が直接結びつので、母国語を介入させる必要がない」「レベルに関係なく取り組むことができる」ということが期待される第二言語習得の際に効果的な教授法です。

特徴

本TPRには小中学校の教科書では扱われないけれど、日常会話では必要な動作なども含まれています。また、「スタジアムに行く」「チームを応援する」



「ドリブルをする」「円陣を組む」などサッカーに関連した動作もあり、本教材を使用した英語活動は、鹿嶋らしさに触れる機会にもなることが期待できます。市内のどの小学校、どの教室でも活用することができるので、オリジナル教材を通して市全体の基礎力を上げることも期待されます。

今後の展開

本TPR動画は、鹿嶋市以外のアントラーズのホームタウンでも導入を予定しており、より活用を図っていく予定です。



水戸ホーリーホック

新しいフツウを子どもたちからプロジェクト ～大豆ミートバーガー編～ 1/2

小学生2人をリーダーにした地球の環境を守るためのプロジェクトです。Jリーグ全58クラブに環境保全活動に関するアンケート調査を行った茨城県内在住の小学校6年生をプロジェクトリーダーに置き、その小学生が地球環境保全のため、地域の方々と水戸ホーリーホックと協働して大豆ミートバーガーを10月23日(日)のJ2リーグ最終戦ホームゲームにて販売し、地域の方々に対し環境保全への意識付けを働きかけたプロジェクトです。



活動場所 水戸市、城里町、守谷市、ケーズデンキスタジアム



協働者

企業、学生、ファン・サポーター、スタジアム、選手

協働者名

株式会社トゥインクルデリバリーサービス、守谷市内小学生



協働者の声 守谷市内在住小学6年生／田島 修太 氏



登山とサッカーが好きで、ゴミが散乱している山を見た時「これは自分が取り組まなければ！」と思い、プロサッカークラブが環境問題に対してどのような取組をしているのかと考えたのが始まりでした。まだ多くの人に環境と関わる日常について伝えられていないので、これからも水戸ホーリーホックさんと色々な活動をしていきたいです。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





水戸ホーリーホック

新しいフツウを子どもたちからプロジェクト ～大豆ミートバーガー編～ 2/2

Story

物語のスタートは、修太くんがJリーグ全58クラブに送った「環境問題に関してどのような取組を行っているか」のアンケートメールから。そのメールを受けた水戸ホーリーホックがそれ以降、修太くんとやりとりを始めました。沼田会長への環境保全活動に関するインタビューを皮切りに、その後、修太くんをサポートしようと同級生の高本由梨子さんも活動に参加。その2人から環境保全のための大豆ミートバーガー販売の提案を受けたクラブが、西村ゼネラルマネージャーへの大豆ミートバーガー販売のプレゼンテーションの場を設け、そこで、プロサッカー選手向けの講義(メイクバリュープロジェクト)へ修太くんと由梨子さんの登壇が決まりました。



講義テーマは地球環境保全。講義に向けて何度もホーリーホックスタッフとミーティングを行い、何度も何度も資料の作り直しもしました。ホーリーホックの農場で大豆の種まきも行いました。迎えた講義当日、講義を受けた村田航一選手は「感銘を受けた」と修太くん、由梨子さんの活動のサポートをすることに。その後は大豆ミートバーガーの製造・販売サポートをいただける地域の店舗を探し、レシピ作成、試作等を重ね、ついにご協力いただける飲食店も見つかり、リーグ最終戦での販売に向けて、オンライン試食会も村田選手や山口瑠伊選手と一緒に実施。修太くんと由梨子さんは、販売時に配布するためのアンケートチラシも制作。チラシには大豆ミートを使用した時と、牛肉を使用した時に出る温室効果ガス排出量の比較など、環境についての細かな情報が記載されていました。このアンケートと大豆ミートバーガーをもとにスタジアムで地球環境保全への意識付けを働きかけていきます。スタジアムでの販売を目前に控え、今後も地球環境保全に関する取組を継続的に行なっていくことを視野に、この活動が「新しいフツウを子どもたちからプロジェクト」と命名されました。そして販売当日200個の大豆ミートバーガーは完売。用意した800枚のチラシも子どもたちだけで配り終わりました。



以上の活動から地域の小学生、飲食店、プロサッカークラブの3者間による社会課題への解決に向けた取組を行い、バーガーを購入してくださったファン・サポーターの皆様のご協力のもと、話題性のある取組となりました。今後に関しては修太くん、由梨子さんからの新たなアイデアをもとに、社会と連携して地球環境を守る活動の物語は継続されていきます。

備考:スポーツナビ主催のスポーツPRアワードでは、日本トップリーグ連携機構会長であり、Jリーグ初代チェアマンの川淵三郎氏から推薦をいただき、新しいフツウを子どもたちからプロジェクトが優秀賞を受賞しました。



栃木SC

栃木SC ツナガルプロジェクト 1/2

2021シーズン、栃木SCは「全ての子どもたちに夢を」という思いから「こどもの貧困」という社会課題に向き合うために「栃木SCツナガルプロジェクト」を立ち上げました。子どもたちが地域やスポーツ、夢や希望にツナガル機会を提供する活動です。2022年度は、2021年度に実施したひとり親世帯のホームゲーム招待事業を継続、さらに宇都宮市内の子ども食堂に選手が訪問する活動を始動。子どもたちが普段会うことのないプロスポーツ選手との交流を通して、豊かな経験を育むことを目的として市内数か所を回りました。



活動場所 親とこどもの居場所「ふらっと☆たからぎ」、親とこどもの居場所「めいめい」、親とこどもの居場所「オリーブ」、宇都宮市立海道小学校、カンセキスタジアムとちぎ



協働者

行政、協議会、ファン・サポーター、民間団体

協働者名

宇都宮市、宇都宮市社会福祉協議会、特定非営利活動法人うつのみやオリーブ、各宇都宮市親とこどもの居場所（子ども食堂）、サポーター



協働者の声 宇都宮市／高橋 聖矢 氏



宇都宮市では、今年度より「宮っこの居場所づくり事業」として、子どもたちが自由に集まったり、様々な活動ができる居場所の設置を進めています。その中で、栃木SCが子ども食堂などの宮っこの居場所へ向けた活動を始動してくれたことは、他団体へのモデルケースになり、とてもありがたいです。活動に参加した子どもたちもとても喜んでくれました。



活動詳細情報

1 [公式サイト①](#)

2 [公式サイト②](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





栃木SC

栃木SC ツナガルプロジェクト 2/2

Story

栃木SCはこれまで、子どもたちへ向けた活動を多数実施してきました。しかし昨年、宇都宮市の職員さんより、子どもたちの中には「貧困」で苦しんでいる子が全体の1/3存在していることを学びました。「貧困」は「経済的な貧困」だけではなく「関係性の貧困」「経験の貧困」という表面化しない貧困があり、多様な家庭環境の中で子どもたちが得られるものに差があるのが現状です。栃木SCは「関係性」や「経験」の格差を埋めるお手伝いができるのではないかと考え、昨年「栃木SC ツナガルプロジェクト」を立ち上げました。



2022シーズン1つ目の活動は、フードドライブです。7月のホームゲームにてフードドライブを実施し、サポーターの皆様から段ボール6箱分の食材を寄附いただきました。その食材をトッキーが宇都宮市親とこどもの居場所「ふらっと☆たからぎ」様へお届け。子どもたちへ提供するお食事の材料としてご活用いただきました。

2つ目の活動は、宇都宮市内在住のひとり親世帯の方のホームゲームご招待事業です。ひとり親世帯は中々スタジアムに足を運ぶ機会が少ないということで、昨年から実施しています。昨年は131名、今年は177名の方々にご来場いただき、スタジアムを楽しんでいただきました。抽選で20名様に、選手のオンラインサイン会も実施しました。

3つ目の活動は、選手のこども食堂訪問事業です。こちらは今年から開始した事業で、3ヶ所の市内こども食堂へ選手が訪問し、こどもたちと一緒にサッカーなどをして遊びました。

訪問した「宇都宮市親とこどもの居場所 めいめい」の施設ご担当者様によると「利用者はシングルマザーのご家庭が多く、子どもたちは大人の男性と遊ぶ機会が少ないため、今日の経験が非常にありがたい」とのお言葉をいただきました。



2023年は本活動に企業様からスポンサードをいただくことが決まっております。今後もよりたくさん子どもたちを新しい世界につなげる活動として展開していきます。



ザスパクサツ群馬

芝生開放イベントで、子ども達にスポーツの楽しさと笑顔をも！ 1/2

ザスパクサツ群馬では、ホームスタジアムである正田醤油スタジアム群馬の指定管理を行なっている敷島パークマネジメントJV様をはじめとする関連団体の皆様と2021年度より芝生開放を軸としたイベントを実施してまいりました。2022年度は、前橋市と株式会社カインズが加わり、より地域に密着した活動となり116名の地域住民の方々にご参加いただきました。



活動場所 正田醤油スタジアム群馬(群馬県立敷島公園内)



協働者

行政、企業、スタジアム

協働者名

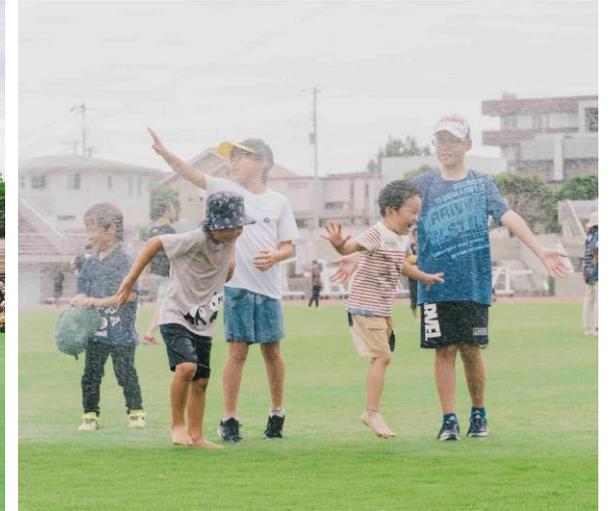
前橋市、敷島パークマネジメントJV(株式会社オリエンタル群馬、株式会社富士植木 他2社による共同事業体)、株式会社カインズ



協働者の声 敷島パークマネジメントJV/岡田 達郎 氏



最初は当JVが小さく始めたイベントでしたが、2021年にチームとの初の協働開催が契機となり、2022年はチームのメインスポンサーや行政団体が運営の輪に加わっていただくなど、互いに成長過程の最中にあります。このような連携活動を継続していくことで、持続可能なホームスタジアムづくりの一助になれば幸いです。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





ガスパクサツ群馬

芝生開放イベントで、子ども達にスポーツの楽しさと笑顔をもたせよう！ 2/2

Story

コロナ禍による運動不足、アクティビティの減少を鑑み、地域の子供達に学びとスポーツ機会を提供するため、組み立て式サッカーボールプログラムを活用。サッカーボールを子供達自らが作成し、芝生の上でボールを使って遊ぶ「スポーツ×教育」のワークショップと、選手が実際にプレーしている芝生を活用した体験イベントを実施。知育、スポーツ振興など、子供達の成長に貢献しました。

2022年度は、株式会社カインズが実施したチャリティーオークションの売上寄付金により、株式会社モルテンが運営するプログラム(MY FOOTBALL KIT)を購入し、前橋市に寄贈。そのプログラムを前橋市とともに活用しました。チャリティー支援が、地域の子供達の笑顔につながるイベントに発展しました。



ボールの組み立てに大人は関わらず、子供達だけで作り上げるよう設定。わからない部分は子供同士で解決しようとする姿勢が見受けられ、親御さんも手を出しそうになりながらもグッと堪え、子供達が自主的に物事を進めていく姿勢に感動していました。

ボール完成後は、スタジアムの芝生の上を開放し、子供達にボールや水を使ったアクティビティを体験してもらいました。普段入ることのできないピッチ上に皆さんは大興奮。ピッチ上でボールを蹴るだけでなく、夏の芝生上の心地よさや、芝生そのものの冷たさなどを体感し、「新しい発見ができた！」という声に溢れました。

また、スタジアムの芝生管理を行う株式会社富士植木様より、芝生管理についての説明や芝生を刈り取り自宅で育てるイベントを実施していただきました。なかなか体験することのできない芝生の刈り取りに、子供だけでなく大人も積極的に参加していました。

イベントを通して子供も大人も笑顔が絶えないイベントとなりました。今回は、子供59名、大人57名、計116名にご参加いただきました。



今後も地域の子供達の笑顔とスポーツ振興に地域と連携しながら取り組んでまいります。



浦和レッズ

『このゆびとまれっず!』 1/2

浦和レッズのホームタウンさいたま市には130万人が暮らし、多くの課題や悩みも人それぞれの生活の中で抱えています。地域にある課題は、クラブの課題でもあります。何とかしたい!

でも、その課題は「浦和レッズ」や「ほかの誰か」だけで解決できるものではありません。同じ“おもい”を共有する仲間と“みんなで”解決していくものと考えています。浦和レッズは多くの人に愛され支えられ地域に根差すクラブとして、地域が抱える課題の解決を目指し『このゆびと~まれっず!』と指を高く掲げ、その旗振り役を担います。

活動場所 埼玉スタジアム2002、さいたま市内を中心とした各子ども食堂

協働者

行政、企業、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、選手、一般社団法人

協働者名

さいたま市子ども食堂ネットワーク、埼玉県、埼玉県社会福祉協議会、三菱広報委員会、埼玉県共同募金会、浦和レッズ後援会、埼玉スタジアム2002、スポンサー企業(13社)

協働者の声 **さいたま市子ども食堂ネットワーク代表/本間 香 氏**



さいたまに住んでいて幸せだと思います。浦和レッズがあることに感謝です。サッカーが好きなお子も浦和レッズが好きなお子も増えていますが、何と云ってもこういう企画を組んでくださるクラブの皆さんのお気持ちがうれしいです。We are REDS!



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)

SDGs / カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





浦和レッズ

『このゆびとまれっず！』 2/2

Story

～活動名称とロゴマークに込めた想い～

仲間を集めるには呼び掛けが必要です。その掛け声といえば、昔からある合言葉「このゆびとまれっ！」であり、レッズが呼び掛ける活動なので『このゆびとまれっず！』を活動名称としました。ロゴマークにある【てんとう虫】は“幸運のシンボル”、レッズカラーのてんとう虫がRedsを描きながら指にとまる姿は「私たちの願いが叶う瞬間」を、【リストバンド】はクラブに関わる全ての人たちと活動していく想いを、【このゆびとまれっず！】のポップな書体は親しみやすさを、カラーリングは活動が目指すSDGsのゴール色を表現しています。



～2年目の「進化」～

昨年、休眠預金を活用して立ち上げましたが、2年目を迎えた今年は助成金による支援もないため、持続可能な仕組みづくりを求められました。すなわち、“このゆび”に駆け寄ってくれる方々を増やすことです。今年新たに、「ハートフルケア(※1)」では三菱広報委員会と埼玉県社会福祉協議会が、「REDS Santa(※2)」では埼玉スタジアム2002と浦和レッズ後援会が駆け寄ってくれました。また、新たなアクションとして埼玉県共同募金会との「このゆびとまれっず！×赤い羽根」募金活動を実施し、ファン・サポーターの皆さんにも駆け寄っていただきました。こうして少しずつですが、一緒に活動していく仲間を増やしています。

※1)サッカー体験や試合観戦を通じて思い出づくりを支援するアクション

※2)クリスマスの季節に企業・地域・クラブ・選手などから募った物資を子どもたちに届けるアクション



～“このゆび”を、さらに大きな声で、空高く～
来年は新たなアクションにも取り組む予定です。地域が抱える課題は多種多様ですが、クラブが“このゆび”を、さらに大きな声で、空高く掲げることで、その課題が解決の方向に向かい、地域に笑顔と幸せが増えていくことを願っています。



大宮アルディージャ

街と企業とクラブを繋ぐSDGsパートナーシップ 1/2

地域とともに成長するクラブを目指し、SDGs活動を「子ども」「ダイバーシティ」「まちづくり」と3つテーマ設定をしており、持続可能な活動とするために、2020年からSDGsパートナー制度を実施している。現在SDGsパートナーは24社。活動原資の提供だけでなく、アルディージャビジネスクラブとも連携し、ABC SDGsカップの開催や、清掃活動をはじめ実際の参加も踏まえた活動を展開している。新たに、地域通貨やクラウドファンディング等も開始し、SDGsを基軸に置くことで、街と企業とクラブを繋ぐ持続可能な活動とすることが狙いである。



活動場所 ホームタウンさいたま市を中心とした埼玉県全域



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、NPO、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、民間団体、商工会、飲食店、選手

協働者名

SDGsパートナー、アルディージャビジネスクラブ、伊奈町・上尾市・さいたま市北部のサッカー少年団など



協働者の声

株式会社 恒電社 代表取締役 (ABC2020-22幹事) / 恒石 隆顕 氏



Jクラブが地域に必要な存在であるという認識は広まっていると思いますが、そうあり続けていくためにはSDGsの持続可能性を意識し、活動原資の確保や運営方法の確立と次世代を担う子どもたちへの啓発が重要です。アルディージャビジネスクラブも未来に向けシャレン活動が持続可能となるためにこれからも協力します。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





大宮アルディージャ

街と企業とクラブを繋ぐSDGsパートナーシップ 2/2

Story

<SDGsパートナー制度とABC>

大宮アルディージャは、地域とともに成長するクラブを目指し、社会連携活動において、SDGsの概念を踏まえ、「子ども」「ダイバーシティ」「まちづくり」と3つテーマ設定をしている。

クラブがこれからも地域にとって課題解決を担う存在としてあり続けるためには、持続可能性とその認識を育てていくことは様々な活動のベースとなる。

大宮アルディージャでは、2020年からSDGsパートナー制度を設け、本活動の持続可能性を図っている。現在SDGsパートナーは24社。活動資金だけでなく、アルディージャビジネスクラブ(ABC)とも連携し、清掃活動など実際の参加も踏まえた



活動を展開している。SDGsを基軸に置くことで、街と企業とクラブを繋ぐ持続可能な活動とすることが狙いである。

<3つのテーマに基づいた活動>

「子ども」は、小学生を対象とした「絵画コンテスト」、児童養護施設のホームゲーム招待などの長年行っている各種活動の実施。

「ダイバーシティ」は、手話応援の実施や特別支援学校へ学習支援グッズの寄付、知的障がい者サッカー大会(Orange Happy Smile Cup)の実施、障がい者サッカーの啓発・体験など継続的なイベントの実施、女子チーム「大宮アルディージャ VENTUS」と共同した各種活動。

「まちづくり」は、清掃活動、指定管理事業、福島ひまわり里親プロジェクト、見沼田んぼ再生プロジェクト、グリーン電力、そして新たに街と繋がりともに成長していく地域通貨の導入などを実施している。



<ABC SDGsカップ>

なかでも、「ABC SDGsカップ」は、未来を担う「子ども」に向けて、サッカーを通じた健全育成を基本としながら、SDGs活動への理解向上を目的に実施している。2年目となる今年はSDGsの啓発ブースの出展など賛同いただく企業が増えただけでなく、ABCが主体となって、企画から当日の運営まで実施していることが特徴である。

様々な活動を持続可能なものにするため、SDGsパートナー制度や、ABCをはじめとした企業・団体と連携して仲間を増やし、持続可能な活動を地域とともに進めていく。



ジェフユナイテッド千葉

ダイバーシティを目指したウォーキングフットボール大会 1/2

老若男女、健常者も障がい者も一緒にプレーできるウォーキングフットボール。クラブ理念に掲げた「ダイバーシティ」の実現、ウォーキングフットボールを通して、誰もが輝くことができる、障害がある人もない人も同じ土俵で活動できるということを、多くの方に伝えるため、このイベントを実施した。各チームとも、初めての人同士、しかも障がい者、健常者、老若男女が入り混じってのチーム編成。最初は戸惑いもあったが、試合を経るにつれ、お互いがお互いの個性を尊重し合ってプレーでき、みんなが笑顔で大会を終えることができた。



活動場所 フクダ電子スクエア



協働者

行政、企業、民間団体、公益財団法人

協働者名

古河電気工業(株)、(株)エスエスケイ、千葉市、千葉県知的障がい者サッカー連盟、千葉『共に暮らす』フットボール協会、公益財団法人日本サッカー協会



協働者の声

古河電気工業(株) / 杉浦 雅昭 氏



ウォーキングフットボール大会には弊社社員も参加し、実際にそのスポーツの良さ、楽しさを体感しました。多くの方が本大会の開催をきっかけに、多様な方々が共に楽しめるウォーキングフットボールの良さを知り、ダイバーシティ&インクルージョンに対する意識を高めていただけることを願っています。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[hummel公式サイト](#)

3

[デジタルPRプラットフォーム](#)



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





ジェフユナイテッド千葉

ダイバーシティを目指したウォーキングフットボール大会 2/2

Story

2022年9月12日のホームゲームにて「ウォーキングフットボール大会presented by 古河電工」を開催した。ホームゲーム日に実施することで多くの方にこの大会を見ていただけるということ、またこの日のマッチデースポンサーの(株)エスエスケイ様がかねてよりダイバーシティの推進に力を入れられており、当クラブもクラブ理念の一つに「ダイバーシティ」を掲げていたことから、この日にクラブのSDGs活動の一環として開催した。

当クラブでは同年5月に千葉県知的障がい者サッカー連盟の依頼から、障がい者のチームと健常者のチームとのサッカーの交流戦(ユニバーサルマッチ

presented by 古河電工)を開催し、サッカーが障がい者と健常者の垣根を超えることを改めて実感。ダイバーシティ社会の実現に向けて、より多くの方に同様の体験をしていただくことが大切であるという思いから、今大会は一般募集の参加者枠を多く作り、多様な方が参加できる大会とした。

また「ダイバーシティとインクルージョンを推進」している古河電気工業(株)様には、5月の交流戦の大会冠スポンサーおよび対戦チームとして参戦いただいたが、このようなイベントに高い価値を感じていただき、今大会も、社員の方々に参加いただくとともに、大会の冠スポンサーとしてサポートしていただいた。

ウォーキングフットボールは、もともと障がい者と健常者、さらには老若男女が同じチームでプレーして楽しむことができる特性を持つ。当日は約100名の参加者のうち、3割が障害をもつ方、その他未就学児からシニア、女性と、幅広い層の方々に参加していただくことができた。

初対面の人同士のチーム編成であったが、審判兼進行役をしたジェフ千葉レディースU-18選手の声かけもあり、時間を経るごとにコミュニケーションも増え、それぞれの「個性」を尊重し合い、楽しくプレーしてもらうことができた。



今後も、特に障がい者やシニア、女性などが気軽に参加できる大会として継続し、誰もが輝ける社会の実現につなげていきたい。





柏レイソル

学校訪問活動「レイソルしま専科」 1/2

柏レイソルは柏市、柏市教育委員会との協働で、2006年から学校訪問事業「レイソルしま専科」を実施している。2020年から続くコロナ禍で、学校側としては、さまざまな教育(特にキャリア教育)では、実際に職業人との接触機会が著しく減少していることが課題だった。

一方、クラブ・選手にとってもピッチ外の活動が減少し、地域との連帯感、関係が希薄にもなっていた。

そこで2022年から対面での学校訪問活動を復活し、選手が登壇しカリキュラムを実施、直接生徒たちと交流することで、学校側の課題を解決を図ることとした。



活動場所 柏市内小中学校



協働者

行政、学校、学生、選手

協働者名

柏市役所、柏市教育委員会、柏市内小中学校職員、学生

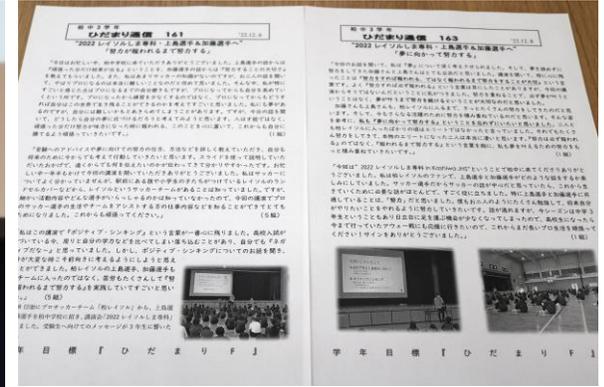


協働者の声

柏市立柏中学校職員／田中 圭一郎 氏



柏レイソルのプロサッカー選手を迎えた「キャリア教育」を行うことができた。3年生が自分の進路を決める時期に、サッカー選手になる夢をどのように実現したのかを聞けることは大変有意義な学習となった。実際に選手が体験した悩みを聞いて、どのように解決して現在のプロサッカー選手として活躍することになったかを知ることができた。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





柏レイソル

学校訪問活動「レイソルしま専科」 2/2

Story

2006年から開始した学校訪問事業「レイソルしま専科」。
2020年のコロナ禍以降、実施が困難な時期があったが、まずは2021年にオンラインで、そして2022年は現場での開催を目指していた。
2022年4月に柏市および柏市教育委員会を通じて、市内44の公立小・中学校へ案内を開始した。柏市教育委員会では、公立小・中学校市内校長先生が一堂に集まる「校長会」での説明する時間を設けていただいた。すると、校長会翌週から複数の学校から問い合わせが入った。当時はコロナの感染状況が少し落ち着いていたこともあるが、何よりも教育現場で職業人との接触機会を求めていることが先生方との会話の中で強く感じられた。



クラブでは強化部と連携し、実施計画を立てた。一方では選手側にも協力を呼びかけ、また事前に説明会を開催し、個別に原稿作成の講習を行い、なせ今、この事業を大切にしているのか、自分たちが赴く意味などを丁寧に説明することで、選手が取り組みやすくなるように働きかけた。

準備期間を経て、2022年6月14日(火)の柏市立富勢西小学校への訪問で再開。6月下旬にも1校で実施し、夏休み以降はさらに活動を広げようとしていたが、再びコロナに阻まれた。ようやく感染状況が落ち着いた10月以降に再開、シーズン終了後ではあったが11月18日まで活動を行った。

最後に訪れたのは柏市立柏中学校。高校受験を控える中学3年生に上島選手と加藤選手が登壇、これからどう過ごしていくのか、努力することの大切さなど約1時間以上にわたって熱くエールを贈った。生徒たちからは両選手への感謝だけでなく自らの夢に照らし合わせてみたり、励まされたといったコメントが届いた。また学校の先生からは「地元のサッカークラブとの教育的な協働を取り組めることは、クラブの理念を具現化しており、非常に有用である。さらに活動を広めてほしい」と熱を込めて伝えていただいた。



結果、2022シーズンはコロナ禍以前よりも多いのべ11校、1300人を超える受講者となった。また活動を知った他の自治体や、私立校からの問い合わせが増えたのは新たな驚きでもあった。のべ17年間実施している本事業では何度かの変遷があった。学校教育の現場もカリキュラムが変化していく中ではあるが、地域のために出来ることを変わらず愚直に続けていくことの大切さに改めて気づかされた一年であった。



FC東京

スタジアムへ続く歩行者天国 ～地域とつなぐ青赤ストリート～ 1/2

FC東京と調布市では、ホームゲームに合わせて関係各所と連携した「調布市×FC東京まちづくり実行委員会」をつくり、飛田給駅からのスタジアム通りを歩行者専用道路として「青赤ストリート」を開催しました。駅を降りてからスタジアムまでの通り沿いに17台のキッチンカー出店、地元コミュニティFMの進行によるステージでの選手トークショーのほか、調布市によるフードドライブやパラスポーツの体験、地元で活動するチャリーディングや調布よさこいの披露、スポンサーによる参加型ゴミ拾い企画など多種多様な内容で、ファン・サポーターはもちろん地元や近隣の住民の皆さんにも大いに楽しんでいただくことができました。



活動場所 スタジアム通り(飛田給駅～味の素スタジアムまで)



協働者

行政、企業、住民、NPO、協議会、スタジアム、民間団体、商工会、飲食店、選手、一般社団法人

協働者名

調布市、調布市観光協会、調布市商工会、公益社団法人調布市体育協会、飛田給小学校地区協議会、飛田給自治会、株式会社東京スタジアム、株式会社シミズオクト
協力：京王電鉄株式会社



協働者の声 調布市 都市整備部長／渡辺 直樹 氏



青赤ストリート開催には多くの課題があり、クラブと行政の連携のみならず、地元自治会をはじめとした関係団体等の協力が無ければ実現不可能でした。言い換えれば、クラブが20年以上、地域に根差した活動を継続してきた歴史そのものであり、地域とクラブの関係を象徴するイベントとして定着させていきたいと思っています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式Twitter](#)
- 3 [調布市HP](#)
- 4 [調布市Twitter](#)
- 5 [味の素スタジアムTwitter](#)
- 6 [Yahoo!ニュース](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





FC東京

スタジアムへ続く歩行者天国 ～地域とつなぐ青赤ストリート～ 2/2

Story

FC東京と調布市では、ホームゲームに合わせて関係各所と連携した「調布市×FC東京まちづくり実行委員会」をつくり、飛田給駅からのスタジアム通りを歩行者専用道路として「青赤ストリート」を開催しました。駅を降りてからスタジアムまでずっと楽しめるこの企画では、通り沿いに17台のキッチンカー出店、地元コミュニティFMの進行によるステージでの選手トークショーのほか、調布市によるフードドライブやパラスポーツの体験、地元で活動するチャリディングや調布よさこいの披露、スポンサーによる参加型ゴミ拾い企画など多種多様な内容で、ファン・サポーターはもちろん地元や近隣の住民のみならずにも大いに楽しんでいただくことができました。当日のスタジアム来場者34,802人のうち、アンケート結果によれば25,753人(74%)が「青赤ス



トリート」を訪れています。

「青赤ストリート」は、調布市と繋いできた積み重ねなくしては実現しなかった企画です。調布市は基本計画の中で「FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進」を掲げて1999年(平成11年)から連携をスタートさせています。いまや20年以上が経ち、多岐にわたる年間の連携事業数が40を超えるまでとなっています。具体的には、障がい児・者向けの「あおぞらサッカースクール」や「高齢者体操教室」、「子どもサッカー体験教室」など老若男女に向けたスポーツ教室をはじめ、市の主催事業や各地域でのイベント連携、最近ではSDGsの観点で平和事業やフードドライブ、まちの清掃活動も実施しています。これだけ多くの連携事業を生みだしてこられたのは、市役所で定期的な実施される情報交換会や庁内横断的なプロジェクトチームといった組織的な連携とあわせて、担当者の熱い想いと信頼関係の積み重ねであることは言うまでもありません。

「青赤ストリート」計画後、開催に向けて関係各所との折衝では多くの困難がありました。路線バスやタクシー会社との調整、道路使用や警備計画、看板設置における警察との調整、地域住民の理解と協力。それらの課題を、連携した各団体の担当者や地域のみなさんの熱い想いととも、一つ一つ解決しながら企画の実現へと歩みを進めていきました。



直前までさまざまな調整がありましたが、結果としてファン・サポーターはもちろん、出店した企業や地元団体、そして地域のみなさんから次回開催を楽しみにしているという言葉をいただくことができました。また、調布市には別の自治体やスポーツ団体から「青赤ストリート」や連携事業をどのように実現しているのかという問い合わせがあるそうです。担当者は一朝一夕に実現した企画ではないことを丁寧に説明し、FC東京が地域で果たしている大きな役割を伝えてくれています。これからもFC東京がこの地域にあって良かったと思ってもらえるように、熱い想いのリレーションを高め合いながら、地域の方々が笑顔でFC東京を通じて幸せになれる取り組みを継続していきます。



東京ヴェルディ

選手によるお米作り体験会 1/2

東京都稲城市にある稲城市小田良地区で行っている田んぼにて、東京ヴェルディ所属の8選手によるお米体験会を実施いたしました。協力団体様は、小田良BASE様、稲城小田良土地区画整理組合様。地元の農家さんの指導を受けながら0からお米を育てる活動を実施。11月には苦労して植えた苗が実り、8選手全員で一斉に稲刈りからはざかけまでの工程を2時間以上かけて行いました。地域の方と選手が一体となって育て上げたお米は、来シーズンのスタジアムで地元野菜とのコラボフードとして、スタジアム提供を目指したいと思っております。



活動場所 東京都稲城市坂浜



協働者

行政、企業、NPO、農家

協働者名

小田良BASE、稲城小田良土地区画整理組合



協働者の声

小田良BASE／白川 泰寛 氏



東京都稲城市にある小田良の里山での田んぼ活動を、東京ヴェルディさんと実施しました。稲城小田良土地区画整理組合さんのご協力を仰ぎ、地域の連携・里山や田んぼの保全活動を含め、選手の皆さんと一緒に田植え・稲刈り体験をすることは意義ある活動かと感じます。今後もこの活動をきっかけとして、農体験の活動を広げられればと感じております。がんばれ東京ヴェルディ！



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





東京ヴェルディ

選手によるお米作り体験会 2/2

Story

「稲城市内でお米作れるところあるけどヴェルディさんどうかな？」それはほんの些細な提案が全ての始まりでした。東京都稲城市は人口約9万人が住む街です。その市内の一部にヴェルディカラーの緑豊かな街の中に、大都会東京とは思えないほどの自然が広がるエリアがあります。その場所は稲城市の坂浜エリア。京王線若葉台駅からバスで10分ほど走った場所に位置する里山です。その近辺には牛や鹿などを飼育する牧場や、稲城市の特産品の梨農家さんが点在しています。その一角に小田良の田んぼが立地します。その田んぼの1区画を使用させていただき、東京ヴェルディの新人選手8名によるお米作り体験会を実施させていただきました。



作業工程は2回。1回目は6月12日にお米の苗植え体験会を実施いたしました。田んぼの活動を運営している小田良BASEの白川様から当日の注意事項と、作業の要領の説明を行っていただきました。トンボを用いて田んぼを整地し、8選手が1列になり、丁寧に1株ずつ苗を植えていきます。約2時間をかけて無事に苗を植えて終了しました。そこから5か月間の月日が流れ、11月2日に今度はすくすく育った稲刈りを実施。想像以上に多い稲束に選手たちは悪戦苦闘しますが、持ち前のチームワークを発揮し、全て稲を刈り上げ、はさ掛けを実施したところで終了。約2時間かけて終わりました。選手たちの多くが苗植えや稲刈りを実施するのが初めての体験とのことで、「いつも食べているお米を作るのに、どれだけの労力がかかっているかを身をもって体験することができました。」といった声が多く挙がりました。そしてなによりも、「ヴェルディのホームタウン内にこんなにも自然溢れる場所があるとは思わなかった」など、ホームタウン稲城市のことを更に知ってもらう機会になりました。



今後のアクションについて、収穫したお米について、様々な議論を行いました。クラブと地域の方の想いとしては、やはり稲城市で育てたお米は、地元で還元したいというものでした。今後、ヴェルディの選手が育てたお米は、また別の特産品とのコラボフードとして、スタジアム等での提供を目指すほか、市内の諸団体への寄付を検討しております。今回このような素晴らしい機会をくださりました、小田良BASE様、稲城小田良土地区画整理組合及び理事の皆様、誠に有難うございました。



FC町田ゼルビア

『ゼル塾』が子どもの学習環境をアシスト！ 1/2

2020年4月に緊急事態宣言が発令。「クラブとの関わりを継続したい」そして「子どもたちの学習環境をサポートしたい」という想いから『ゼル塾』を開講。オンライン配信や学童へ提供するなど、子どもたちの気持ちに寄り添いながら必要な教材を研究し続けた。開講初日から40日間連続で教材を制作・配信したのはクラブ社員。4年目を迎えたゼル塾はクラブとパートナー企業が力を結集し、主要教科・運動プログラム・調理実習などニーズに合わせた教材展開を実現し、すべての子どもたちが平等に学習できる環境づくりを目指している。



活動場所 オンライン・ホームゲーム会場・市内学童・公立小学校(学校預かり対応期間)



協働者

行政、企業、学校、ファン・サポーター、スタジアム、飲食店

協働者名

個別指導塾フォルテ・町田木曾食堂・久美堂・麻布大学・花王グループカスタマーマーケティング株式会社・荏原実業株式会社・浅田飴・HUB・Le Soleil・やさいのナイトウ・企業組合ワーカーズ・コレクティブ凡・町田市環境資源部・町田市保健所



協働者の声 個別指導塾フォルテ／北山 淳 氏



「ゼル塾」開講以来、楽しく学んで欲しい、町田やゼルビアに愛着をもって欲しい、学習成果も高めたい、という欲張りな目標を持って制作をお手伝いさせて頂きました。ホームゲーム会場まで教材を持参してくれる子どもたちも多く、ファンやサポーター、地域の皆様から愛されるコンテンツになってきていると感じています！



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [Sports for Social](#)
- 3 [サッカーキング](#)
- 4 [PR TIMES記事](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





FC町田ゼルビア

『ゼル塾』が子どもの学習環境をアシスト！ 2/2

Story

緊急事態宣言により小学校が休業となり、外出自粛を余儀なくされた子どもたち。すぐに学校や学童と連絡を取ると「生活リズムが乱れはじめている」「家庭ごとに環境が異なり、学習時間や方法にバラツキが生まれている」といった声を聞いた。「いまゼルビアにできること」は何かと考え、家庭でも学習のスイッチを入れる瞬間や楽しく学習するきっかけを提供することで、学習環境づくりに貢献しようと『ゼル塾』を開講。知人から教科書を借りたりネットで検索をしたり、子どもたちが楽しめる視点を意識し、クラブ職員ごとに担当教科の教材制作を開始。制作しては皆でチェックを繰り返し配信開始から40日間連続で届け続けた。



更に、おうち時間を楽しむことが学習に繋がらないかと考え、1つ目の協働者「アスレチッククラブ町田」による運動プログラム、2つ目の協働者「町田木曾食堂」による調理実習など個人だけでなく、家族や兄弟で楽しめる要素を取り入れることでゼル塾の導入機会を増やした。教材を追加提供する際やSNS上でも熱心に取り組む子どもたちの様子や声を耳にすることが社員のモチベーションとなった。緊急事態宣言解除後も長期休暇などを活用し教材を配信し続けることで学習環境づくりに取り組み続けた。

その一方で「答えが間違っている」「学校とペースが違ってわからない」といった新たな問題に直面した。そこで2021年から教材制作をアシストしてくれたのが『個別指導塾フォルテ』。1～6年生までの学習指導要領に沿った教材を提供し、自学年だけでなく他学年の教材で予習復習までもができるスキームを構築したことで、子どもたちから求められる教材へと進化した。



更に、ゼル塾の想いに賛同したパートナー企業が増えることで各社の特性をいかした科目教材は人気を博し、学習のきっかけづくりに貢献している。全ての企業・団体は、その特性を活かすことで子どもたちの学習環境づくりに貢献できる強みを持っていると、新たな気づきもあった。



川崎フロンターレ

人生100年時代。いくつになってもワクワク・ドキドキを。「健康長寿フェスタ」開催!! 1/2

「人生100年時代。いくつになってもワクワク・ドキドキ・ときめきを。」川崎フロンターレの直営するフットサル場「フロントタウンさぎぬま」の位置する宮前区は、地域の高齢化率が高く、坂道の多い地形は年を重ねると歩くのも一苦労。その課題を逆手にとり、シニア層向け「健康」がテーマの「健康長寿フェスタ」を、敬老の日に近い9月16日に開催しました。多種多様な8個ものブースを展開し、ご自身の健康に目を向け、新たな気づきがあるようなイベントを目指しました。少しでも川崎フロンターレが生活の一部になるよう、また気がいたら少し健康になっているという気づきを大切にしたい、たくさんの想いが詰まったイベントとなりました。

活動場所 フロントタウンさぎぬま

協働者

行政、企業、学生、民間団体、プロスポーツクラブ、地域住民の皆さん

協働者名

サントリーウエルネス株式会社、宮前区役所、國學院大学林ゼミナールの皆さん、依吹怜さん(ソニーミュージックアーティスト)、明治大学澤井ゼミナールの皆さん、シャボン玉おやじ、船津亜希子さん(ヨガ講師)、幸村晶子さん(体操講師)、地域住民の皆さん

協働者の声

サントリーウエルネス株式会社 / 村田 智美 氏



脚専用サプリメントであるサントリー『ロコモア』は「日本を世界で一番歩ける国にする」というビジョンのもと、川崎市のシニア層の足を元気にする街づくりのため川崎フロンターレ様との協業を開始しました。フロンターレ様の絆作りのお陰で、当日はたくさんのお客様の貴重なお声を伺い、笑顔に出会えた嬉しい一日となりました。



活動詳細情報

- 1 [スポーツナビ](#)
- 2 [フロントタウンさぎぬまHP](#)
- 3 [公式Twitter](#)
- 4 [公式サイト](#)

SDGs / カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





川崎フロンターレ

人生100年時代。いくつになってもワクワク・ドキドキを。「健康長寿フェスタ」開催!! 2/2

Story

フロンタウンさぎぬまが位置する川崎市宮前区は、川崎市内でも高齢化率が20%以上と高い地域であり、かつ坂道が非常に多い地形であることが問題視されていました。「それなら足腰を強化して、元気に街を歩けるようなお手伝いをしたい!」この逆転の発想から、川崎フロンターレの拠点であるフロンタウンさぎぬまでは「ポールウォーキング教室」を10年以上継続して行っています。コツコツと行い続け、いつしか大人気となったこの企画。しかし、お教室に通える人数は限られ、川崎市民全員を受け入れることができないという新たな問題も発生しました。「人生100年時代よ!」というご参加いただいている方からの声に背中を押され、もっとワクワク・ドキドキする体験を川崎フロンターレからお届



けしたいと強く思うようになりました。そこで、敬老の日に近い9月16日にフロンタウンさぎぬまにて、シニア層向け「健康長寿フェスタ supported by サントリー『ロコモア』」を開催するに至りました。当日は、ケーブルテレビ イッツコムで毎日放送中の「かわさきご近助ロコ体操」の実演や、自身の身体を客観的に知ることができる「体力測定ブース」「健康に関する講義ブース」、また”ミニ運動会”のように仲間と協力し頭と身体を動かす「運動で脳トレ!体験ゾーン」、「青空すこやかヨガ」など、計8個ものブースを展開。ご自身の身体の状態を知り、気づきに繋がる。また、少しでも健康に目を向けるきっかけになるよう、普段健康教室に通っていただいているシニア層の方に何度もご意見をいただき、さらに日々の健康事業を共同で進めているサントリーウエルネス株式会社様にご協力いただき、試行錯誤の結果、この思いの詰まった健康促進イベントを開催することができました。当日は30℃以上の猛暑、かつ平日の開催にも関わらず、約120名のシニア層の方に足を運んでいただき、「自分に足りないものがわかって今すぐ改善しなきゃと焦る気持ち。」「童心に帰ったみたいで本当に楽しかった。」との声も頂戴しました。実際の、「健康長寿フェスタ」の開催後、日々開催中の「ポールウォーキング教室」は、全クラス合計の定員



60名がキャンセル待ちになるほどの反響があり、さらにサントリーウエルネス株式会社様からは、シニア層のニーズに対して新たな発見があったとし、有意義なイベントであったと実感しています。サッカーや川崎フロンターレを全く知らなくても、なんだか楽しい。なんだか笑顔になる。川崎フロンターレがハブとなり、川崎市の方たちが少しでも繋がりが、笑顔になる機会を創出できるよう、第2回の「健康長寿フェスタ」を川崎フロンターレの各拠点(フロンタウンさぎぬま、フロンタウン生田、富士通スタジアム川崎)を活かし、さらにパワーアップしてお届けしていきます。



横浜F・マリノス

「Jリーグ初の知的障がい者サッカーチーム『横浜F・マリノスフトゥーロ』～共生社会の実現へ～」 1/2

横浜F・マリノスフトゥーロはJリーグ初の知的障がい者サッカーチームとして2004年に発足。障害者スポーツ文化センター横浜ラポール、横浜市スポーツ協会、横浜F・マリノスの3団体が協力して運営している。知的障がい者サッカー大会はもちろん、2018年には横浜市社会人リーグに参戦し、健常者と交わる機会や選手たちの活躍の場を増やしている。そして、「誰もが思いやりを持てる共生社会」の実現を目指す。



活動場所 横浜ラポール、谷本公園、長浜公園 等



協働者

行政、外郭団体

協働者名

障害者スポーツ文化センター横浜ラポール、
横浜市スポーツ協会



協働者の声 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール／小山 良隆 氏



「共生社会(インクルーシブ)」や「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方が根付く前から、スポーツの理念の”本質を共有”し、サッカーをキーワードに“ゼロから協働”させていただいた活動は、障がい者スポーツの分野の象徴的なひとつとして、組織を越えた広がりを見せています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [Sports for Social](#)
- 4 [ゲキサカ](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





横浜F・マリノス

「Jリーグ初の知的障がい者サッカーチーム『横浜F・マリノスフトゥーロ』～共生社会の実現へ～」 2/2

Story

【始まり】

障がいの有無に関係なくサッカーを楽しめる環境づくりをコンセプトに、Jリーグ初の知的障がい者サッカーチームとして、2004年に創設された横浜F・マリノスフトゥーロ。当初は約20名の選手でスタートしたが、現在は約100名の選手が在籍している。
「フトゥーロ」というチーム名には”誰もが思いやりを持てる共生社会”“誰もがサッカーを楽しめる環境”が当たり前にある「未来」へ、という想いが込められている。



【成長】

選手の多くは人とのコミュニケーションを取ることが決して得意ではない。友達との付き合いが苦手だったり、家に閉じこもってしまう選手も少なくなかった。しかし、フトゥーロ加入後は仲間が来て、待ち合わせをし、練習会場に行ったり、F・マリノスの試合を一緒に観戦するようにもなった。ファン・サポーターともボールを蹴り、仲良くなってゴール裏で一緒に応援するなど、自発的に行動するようになった。保護者から「フトゥーロのおかげで、加入してから多くの仲間ができ、表情も明るくなり、自分で考えて行動するようになった」という声もあがるなど選手たちはサッカーを通じ社会性を身につけ、着実に成長している。

【スタッフの想い】

選手たちは十人十色の”個性”がある。同じ言葉でも選手によって伝え方を変えるなど、スタッフにも繊細なコミュニケーションが求められる。F・マリノスのコーチ、横浜ラポール、横浜市スポーツ協会のスタッフがそれぞれ強みを発揮しながらも、試行錯誤の毎日だ。一人一人にあったアプローチの仕方を共有して、普段の練習やコミュニケーションに活かしていくなど、選手だけではなく、スタッフも一緒に成長している。



【未来】

2023年でフトゥーロは「20年目」を迎える。この20年で選手たちはサッカーだけではなく、地域イベント・サッカー教室・Jリーグの試合運営のサポート・小学校の授業等にも参加し、「障がい」という壁を越え、多くの活動をしてきた。選手も成長し、関わるスタッフも一緒に成長する。「共生社会の実現へのロールモデル」フトゥーロがそのような存在になれるよう、「未来」へ突き進んでいく。



横浜FC

「コンポスト」が地域の絆をつなげた横浜FCのシャレン！ 1/2

横浜FCは横浜の課題解決を考える仲間と共に、持続可能な開発目標としてスポーツの普及と「NO.11 住み続けられるまちづくりを」をSDGsのメインテーマとして「子どもたちが元気な街づくり」に取り組んでいる。これは横浜FCが地域の人々をつないでいく役割を担うことでもあり、それぞれの行動の結果と人とを結び目標達成に向けた行動を無駄にすることなく地域に広げていくことである。「コンポスト」をキーワードに横浜FCを中心に各所との取り組みから地域の人々をつなげていく活動へと発展し、協働者同士の報告会も開催できたことで「絆をつなげた活動」の着地とした。



活動場所 瀬谷第二小学校、瀬谷西高等学校



協働者

学校、学生、選手

協働者名

瀬谷第二小学校4年3組、瀬谷西高等学校



協働者の声

瀬谷第二小学校4年3組、瀬谷西高等学校／杉本 亘 氏、守屋 智貴 氏



それぞれの活動がつながり一つになり同じ区内で活かされたことは成果の一つとなった。児童や生徒たちは課題解決への意識が高まり、今後も様々な発想と行動につながっていくことになると思う。児童や生徒たち自身が考え地域に還元していくことが実現できた良い取り組みになり、三者での報告会で成果を共有できたことも素晴らしい着地ができたと思う。



活動詳細情報

1

[公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ



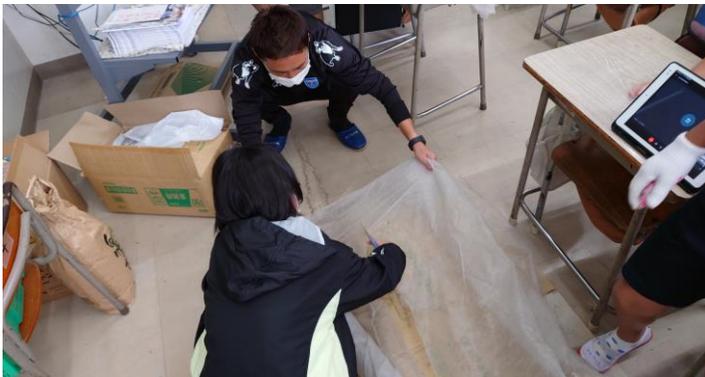


横浜FC

「コンポスト」が地域の絆をつなげた横浜FCのシャレン！ 2/2

Story

■瀬谷第二小学校とのSDGsの取り組みは3年目となり今回のテーマは「食品ロス」。同校では毎年、児童たちがSDGsのテーマを決め、横浜FCが推進するSDGsとマッチングさせるスタイルで進めている。今回は、4年3組が取り組む「食品ロス」に対する自分たちの課題と解決に向けた探求的な活動を基に、給食の大切さを知るきっかけとして「食育」と給食の調理中に出る野菜くずを使ったコンポスト活動に、横浜FCのC.R.O内田智也が参加。児童たちが考える「食品ロス」削減の活動は、食品ロスが生じた時にどうしたらゴミにせず済むのかをメインに考え「コンポスト」につながった。そこで「コンポスト」作りを経験している横浜FCが児童たちとコンポストを作成し、後の「フラワーロードプロジェクト」で



利用することになる「堆肥」作りに着手(この時点では瀬谷西高校と結びついていない)。横浜FCが実際に作っている「コンポスト」を児童に見ていただき完成を目指すことになった。(併せて、栄養管理のプロフェッショナルから食事の大切さや作る人の思いに触れることで、食事の良さや栄養面などを実感できるという児童たちの発想から、LEOC管理栄養士の西川さんの「栄養のおはなし」授業を実施。)

■瀬谷西高校は2023年3月31日に完校するため全体授業としてSDGsの学習を推進。「スポーツでSDGs」をテーマとするグループと共に瀬谷区の花軍道路に花を植栽する「瀬谷西高校フラワーロードプロジェクト」にC.R.O内田智也とオフィシャルクラブマスコットのフリ丸が参加することになった。そこで！瀬谷第二小学校の児童と共に作成した「コンポスト」を利用し花の植栽ができないかと、横浜FCから双方へ提案し快諾いただいた。11月2日、瀬谷西高校と日頃からお付き合いのある上瀬谷小学校の児童が参加し瀬谷西高校としては最後のフラワーロードプロジェクトを実施。

瀬谷第二小学校の児童たちは授業スケジュールの都合で植栽には参加できなかったが、一緒に作った「コンポスト」を瀬谷区の人々と瀬谷区の土に返していくことで、小さいけれど環境への負荷を減らした循環型社会を花の植栽で実現した。



■横浜FC・瀬谷第二小学校・瀬谷西高校 報告会リモートで3者で報告会を開催。「コンポスト」を利用して植栽した花がきれいに咲いていることなどを報告いただいた。今後のクラブの取組のステップアップを目指し選手も加わり活動の幅を広げていくために、横浜FCからは杉田隼人選手も報告会に参加。この取り組みを参考に選手の意識も高めていく。

★「絆をつないだ活動」横浜FCが参加する各所の独自の取り組みから、横浜FCが地域の人々の思いと行動の絆をつないだ実績となった。このように横浜FCを利用していただくことで地域への広がりにも期待が持てると思う。今後も瀬谷第二小学校とのSDGsの取り組みで地域を盛り上げつなげる「シャレン！」活動を続けていきたい。



Y.S.C.C. 横浜

Y.S.C.C.ファーム×寿地区 コラボ健康講座の取り組み 1/2

もともと、横浜市は農業が盛んな地域ではありませんでしたが、高齢化問題と若い世代の担い手不足により耕作放棄地が現在問題となっています。クラブ理念である「地域はファミリー」の観点から困っている人がいれば手を差し伸べる事は必然だと感じ、現在Y.S.C.C.では、選手が練習後の空いている時間を使い、神奈川区にある農家さんのお手伝いをしています。その中の活動の一環として、Y.S.C.C.がシャレン活動を行っている寿町の事業所の方々と、定期的に草刈りや収穫作業などを選手と一緒に活動を行っています。



活動場所 横浜市寿町健康福祉交流センター



協働者

行政、企業、農家、農業団体

協働者名

公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会、横浜市中区スポーツ協会



協働者の声

公益財団法人 横浜市寿町健康福祉交流協会／出口 淳一 氏



寿町では、日雇い労働者の街から福祉ニーズの高い街になってきました。Y.S.C.C.さんと協働で街の課題である高齢化問題の健康について一緒に克服するためにプログラムを考え一年間を通して活動しました。



活動詳細情報

1

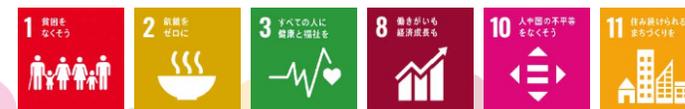
[公式サイト](#)

2

[公式Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





Y.S.C.C. 横浜

Y.S.C.C.ファーム×寿地区 コラボ健康講座の取り組み 2/2

Story

1986年のクラブ創立以降、「地域はファミリー！」のクラブ理念のもと、ホームタウンである中区を中心に様々な地域貢献活動を行ってきました。Y.S.C.C.では寿町の各種団体と協力をし「Y.S.C.C.元気プロジェクト」を立ち上げ、街の特性に起因する社会課題の解決に向けて「スポーツの力で全ての人の心と身体を元気に！」「地域を幸せに、世界を平和に！」をテーマに「健康体操」「食育・栄養」「睡眠」「体の痛み予防」などの老若男女、年齢や性別を問わずどなたでも参加できる内容で活動を実施しています。参加者の皆さんに楽しみながら学んでいただき、心も体も健康になるような取り組みを今後も実施していきたいと考えています。



その中で新たな取り組みとして、「Y.S.C.C.ファーム」を立ち上げました。高齢化問題と若い世代の担い手不足により耕作放棄地が現在問題となっている、横浜市神奈川区の農家さんのお手伝いを、Y.S.C.C.で行う事となりました。「地域はファミリー」の観点から、困っている人がいれば手を差し伸べるのは必然だと感じ、何か協力できることはないのかと模索したところ、地域の皆さん、企業の皆さんのご協力のもと、「眠っている土地を蘇らせる」「子どもたち、ファンの皆様に農業に興味関心を持ってもらう」「横浜で育った野菜を皆様に食べてもらう」という目標を掲げ、選手が練習後に畑に行き、地域の方々のご協力のもと選手自身が、農作物の栽培をし、実際にホームゲームや、地域のスポーツセンターでの販売、ネットでの販売を実施しています。農作業の活動には、Y.S.C.C.がシャレン活動を実施している、横浜市中区の寿町地区の作業所の方々にも定期的にご参加をいただいています。選手と一緒に、畑で草刈り作業をしたり、収穫作業を実施し、自然にふれあいながら、楽しく作業を行っています。



Y.S.C.C.では、すべての人々に元気を与え続けることが目標です。地域の人々と共に課題解決に取り組んでいけるよう、活動を続けていきたいと考えています。



湘南ベルマーレ

広げる久光選手の想い、小児がん支援の輪「ヒサと共に。」 1/2

小児がんは大人のがんほど啓発が進んでおらず、治療の開発や治療を終えた子どもたちへのサポートなど、課題の多い重要な問題です。この認識を広めるために始まった世界小児がん啓発キャンペーン「Global Gold September Campaign」に、日本は2021年から参加。湘南ベルマーレでは、フットサルクラブに所属し肺がんを患いながらも現役でのプレーを続け、多くの方々に自身の想い、元気、勇気、笑顔を届けた故・久光重貴選手の想いを受け継ぎ、同キャンペーン期間中に「ヒサと共に。」を開催しています。



活動場所 レモンガススタジアム平塚、小田原アリーナ、小田原市、平塚市、藤沢市、松田町



協働者

行政、企業、住民、ファン・サポーター、スタジアム、選手、一般社団法人

協働者名

一般社団法人Ring Smile、日本小児がん研究グループ、江ノ島電鉄株式会社、小田原市、平塚市、松田町、認定NPO法人Being ALIVE Japan



協働者の声 日本小児がん研究グループ(JCCG)広報室/加藤 希 氏

久光選手の思いや、その意思を継ぐ湘南ベルマーレの皆さんとの連携で、より大きな輪となりました。「ライトアップに励まされた」「あたたかい金色の光を眺め、闘病中の子や旅立った子、同じような思いをしているご家族に思いをはせたい」「選手たちの頑張りを見るとつらい治療も頑張れる」など多くの声が寄せられています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [フットサルクラブ公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





湘南ベルマーレ

広げる久光選手の想い、小児がん支援の輪「ヒサと共に。」 2/2

Story

19歳の誕生日までに320人に1人が罹患する小児がん。大人に比べ支援が不足する現状を啓発するため、小児がん経験者とご家族の強い思いにより「Global Gold September Campaign」が始まりました。

湘南ベルマーレでは2013年に肺腺がんと診断され、治療を続けながら現役選手としてプレーを続けたフットサルクラブ所属の久光重貴選手が、フットサルを通して小児がんに苦しむ子どもを支援する「フットサルリボン」活動を長年行っておりました。2020年12月19日惜しまれながら亡くなった彼の想いは実の弟 久光邦明氏に引き継がれ、活動が続けられています。



またサッカークラブでも2019年から小児がんを含む長期に渡る治療や療養が必要な子どもたちを地域で支える仲間を増やすため、選手として迎える認定NPO法人Being ALIVE Japanが企画運営する「TEAMMATES」活動に参画しています。

クラブとして久光選手の想いを継承し取り組みの輪を広げるため、2021年より「Global Gold September Campaign」期間に両クラブが連動し「ヒサと共に。」を開催しています。この活動ではホームゲーム会場でのチャリティサッカー教室や募金、TEAM MATESの選手を交えたブースでの活動、コレオグラフィでスタジアムをゴールドに染める演出の他、ホームタウン自治体やパートナー企業の協力により街のシンボルをライトアップすることによって啓発と連帯を示し、小児がんへの支援を募っています。

「兄が精力的に活動していた小児がんという病気を周知していただくことと、各サポーター(湘南ベルマーレはじめ2021年アビスパ福岡、2022年には川崎フロンターレ)の皆様からの募金のご協力により、当法人のフットサル教室に参加してくれた子どもたちが笑顔になり、ご家族、病院関係者の皆様の笑顔にも繋がっております。



この笑顔こそが小児がんの子ども、ご家族にとっての大きな希望です。また私たち家族にとっても兄がたくさんの方々に愛されていたという証を感じることが出来、心より感謝しております。」と、久光邦明さん。

これからも輪を広げるべく、活動は続きます。



SC相模原

「地域の先生」プロジェクト(さがみはらESD推進協議会) 1/2

「仕事ってこんな楽しさ、魅力があるんだ！」
 様々な職業に就いているオトナたち、会計士や介護福祉士、飲食業、塗装業、さらには、マジシャンやバルーンアーティストやお笑い芸人まで、青年経済人たちが自らの仕事の魅力を子どもたちへ伝え、子どもたちの可能性と生きる力を育む授業をします。いろいろな業界・職種の人たちが並ぶ「カタログ」から、学校の先生が生徒にぴったりの「地域の先生」を選んで職業講和を実施し、持続可能な社会の創り手を育む。生徒も、大人も受講してみたい「ESD教育」の取り組みが、2022年相模原で始まりました。



活動場所 相模原市内の中学校や小学校
 初年度の2022年は市内8中学校で実施



協働者

行政、企業、住民、学校、協議会、民間団体、公益社団法人

協働者名

さがみはらESD推進協議会、相模原市、相模原市教育委員会、公益社団法人相模原青年会議所

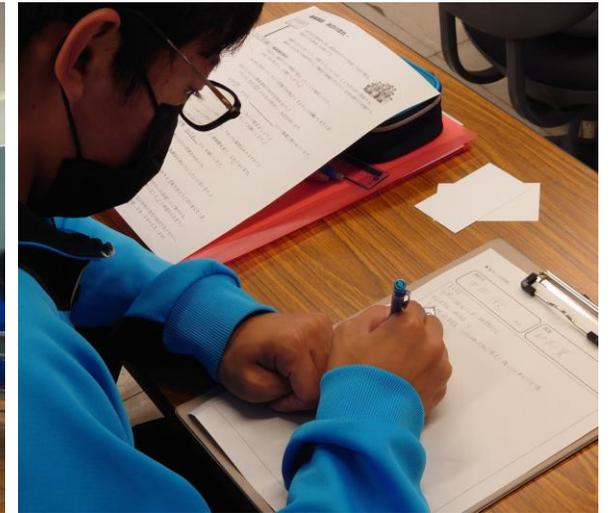


協働者の声

さがみはらESD推進協議会理事長／渋谷 渉 氏
 (株式会社アヤノ塗装代表取締役)



現代社会では核家族化やコミュニティの喪失により子供たちの育つ環境が様変わりし、地域教育が希薄化しています。そんな中、地域の大人たちが自らの仕事の魅力や楽しさ、困難をどう乗り越えてきたのか等を子どもたちへ伝え、子どもたちの可能性と生きる力を育ていけるよう継続的にこの取り組みを行って参ります。



活動詳細情報

- 1 [さがみはらESD推進協議会HP](#)
- 2 [神奈川・多摩タウンニュース](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





SC相模原

「地域の先生」プロジェクト(さがみはらESD推進協議会) 2/2

Story

■さがみはらESD推進協議会が立ち上がる
相模原市は、家庭、学校、行政に加えて地域住民等が目標や課題を共有しながらオール相模原で地域教育力の向上を図り、いろいろ変わっていく環境のなかでも、課題解決能力を育むことを目指しています。

未知の知識や体験に興味関心を持って、社会課題や可能性ある未来に挑戦する勇気と生きる力を子どもたちがみにつけ、将来の可能性や夢を描くことができるようになってほしい。目標にチャレンジし続ける意識を持った子どもたちがこの地域の一員として地域の活性化に加わってほしい。そんな願いを込め、立ち上がりました。



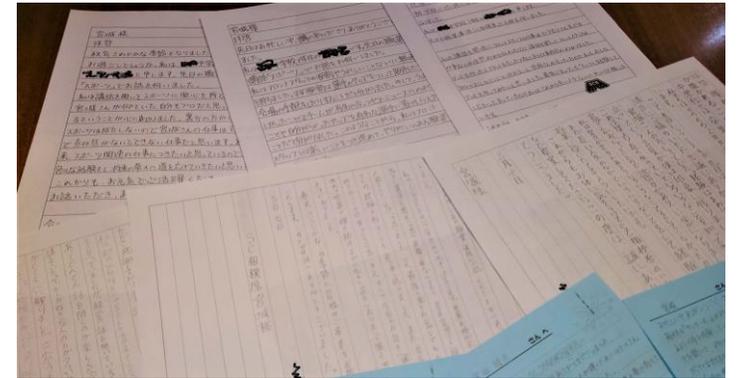
■思わぬ課題解決も
進路指導の担当は、新人ではないもののベテランでもない30代前半の先生が担っていることが多いようです。
職業講和依頼者の選定にあたり、「声をかける知り合いがおらず苦労した」とか、「同じような職種に偏っていた」といった、課題があったようです。

ベテラン教師であれば、教え子やPTAや地区協議会の知り合いに声掛けできますが、まだそこまで広くなく…と。

ESD協議会メンバーリストがあることで、普段つながりようのない業種の方にも来ていただけて、生徒と一緒に話を聞いている教員もワクワクしながら話を聞いています！という声をいただいています。

■SC相模原が加わる理由
これまでもSC相模原の選手たちが「仕事としてのサッカー」をテーマに子どもたちに授業を実施していました。

でもある年、選手たちが居ないオフシーズンに職業講和の依頼が来ます。



「グッズ担当とかスポンサー営業とか、フロント業務の者でもいいですか？」とフロントスタッフが出向いて授業を行いました。

「サッカーの仕事って選手・監督やマネージャー、審判以外にも、こんな仕事をしている人たちがいるんだ」「グッズ作る仕事って面白そう！」との反応。

“ボールを蹴らない・触らないサッカークラブのお仕事”の話は、「この街にJリーグクラブがある」からこそ、カジュアルにできるものですね。



ヴァンフォーレ甲府

Connect～就労支援施設とのタグ製作～ 1/2

クラブがSDGsに取り組んでいくことを表現すべく、甲府市自立支援協議会就労支援部会、ユニフォームサプライヤー『ミズノ』、クラブスポンサー『GLITTER』にご協力をいただき、2021シーズンより夏季限定ユニフォームに「ヴァンフォーレSDGs」ロゴを掲出しております。山梨県全域をホームタウンとし、これまでも積極的な「地域社会連携活動」や「地域課題解決」に取り組んできました。今後もホームタウンである”やまなし”が更により良く、かつ持続可能な地域社会になるためのクラブの決意として、この取り組みを行っています。



活動場所 甲府市内の就労支援施設、ホームゲーム会場



協働者

企業、NPO、スタジアム、選手、甲府市内就労支援施設

協働者名

ミズノ株式会社、株式会社GLITTER、甲府市自立支援協議会就労支援部会、甲府市内就労支援施設(SAKURA/ゆうき公房/ひかりハウス/わごころ/リッツカンパニー/ホープ/エスプランサ/ケイブ甲府/クリナース酒折/ぽぷら/ホワイトツリー/いろいろ)



協働者の声 ひかりハウス/兼田氏(左)、望月氏(右)



事業所利用者の皆さんから「以前から応援しているチームが着るユニフォームの一部を作ることに参加できて嬉しかった。」「作業自体は、むずかしいところは、手伝ってもらっての作業だったが、やりがいがあった。」「作業を通じて、応援チームを身近に感じることができた。」との声を聞くことができました。



活動詳細情報

- 1 [公式YouTube](#)
- 2 [公式サイト①](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [公式サイト③](#)
- 5 [公式サイト⑤](#)
- 6 [公式チャレン+SDGs Twitter](#)
- 7 [Sports for Social](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





ヴァンフォーレ甲府

Connect～就労支援施設とのタグ製作～ 2/2

Story

コロナ禍で多くの『就労支援事業所』にて「自信を持って作っているが販売出来ないことやお客さんの喜ぶ顔を直接見ることが出来ないのはつらい。」「自分たちの事業所でつくったモノを販売することで、仲間と目標を持ったり、やりがいを感じたい。仲間の中にはモチベーションが上がらずに閉じこもってしまう方もいました。」

という声を伺っていました。さらには「製作した商品の販売機会の減少⇒それによる収入減⇒障がい者の働く機会が奪われ自立を阻む」という悪循環が懸念されていました。

クラブとしては今回の施策で、『就労支援事業所』利用者の皆様が製作したタグを選手が着用している姿を自分たちで見ることにより、働きがいを改めて感じてい



ただき、スポーツを通じて少しでも活力のある豊かな生活に寄与することを目指しました。

このタグはユニフォームサプライヤー『ミズノ』にご提供頂きました。ユニフォーム製造過程に生じる端材など、廃棄処分となる端材生地をアップサイクルさせ、タグを作り出すことで、環境負荷を削減し、循環型社会に貢献することを目的としています。

そして作業工程の「切る」「縫う」「貼る」という部分を甲府市内の『就労支援事業所』に仕事として依頼させて頂きました。

【切る】ユニフォームの端材を指定されたサイズに裁断

【縫う】ミシンを使用した裁縫

【貼る】ユニフォームへの圧着作業

⇒クラブスポンサー『GLITTER』に圧着方法をご指導頂きました。

完成したユニフォームは2021/2022シーズンともに夏季限定ユニフォーム着用試合の3試合、計6試合で着用。さらにこれら試合時に、場外イベントブースにて、「作成したタグの販売」「ご自身のユニフォームへの圧着」を来場者の皆様向けに『就労支援事業所』利用者として『GLITTER』の方々に行って頂きました。

そして、「自分たちが製作をしたタグを選手が着用している試合を観戦していただくことで、利用者の皆様に働きがいを改めて感じてほしい！」との思いから、キックオフ後はスタンドから試合を観戦して頂きました。



就労支援事業所の利用者の皆様からは、「これを着て試合に出場した時、あのユニフォームの一部は私達が作ったんだと少し誇らしい気持ちになります。」

「伸縮性のある生地のため、裁断された生地が真四角ではなく、縫い線を正確に書くことが難しかった。」などの言葉を頂きました。

クラブは2021年4月にクラブの強みである皆様との間で築いてきた絆を基盤に「新たなクラブの可能性」として、SDGsを戦略機軸にした事業の高度化・差別化に積極的に取り組んでいくことを目的にJリーグクラブとして初めて「SDGs宣言」を行いました。今後もホームタウンである”やまなし”が更により良く、かつ持続可能な地域社会になるために引き続き活動を行います。



松本山雅FC

ママサポ企画実施！ 1/2

信州大学医学部「周産期のこころの医学講座」様より、コロナ禍において妊婦や子育て中のママさんたちが家で過ごす時間がさらに増加したことで、うつ状態になる方が増えているという社会課題についてご相談いただきました。サッカー観戦がママたちの外出するきっかけや気分転換になるようにしたいと考え、気軽に日頃の悩みを相談できるブースの設置や妊婦さんやママたちをご招待するなどの企画を実施しました。医師や助産師さんに観戦エリアでママたちをサポートいただき、安心してスタジアムに来場できる環境づくりにチャレンジしました。



活動場所 サンプロ アルウィン(スタジアム)



協働者

学校、選手、病院、助産院

協働者名

信州大学医学部周産期のこころの医学講座、助産院おりん、はぎもと助産院



協働者の声

信州大学医学部周産期のこころの医学講座／医師 村上 寛 氏



どれだけサッカーが好きな妊産婦さんやお母さんでも、赤ちゃんを連れてスタジアムでサッカー観戦をすることは簡単な事ではありません。しかし松本山雅と松本の医師や助産師など専門家が話し合い、出来る限りの準備をすればきっと来て下さるはずと思い、今回の企画を実施しました。実際に多くのママたちが来て下さいました。これが松本発、Jリーグと地域の新しい連携の形です。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)
- 5 [村上寛Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





松本山雅FC

ママサポ企画実施！ 2/2

Story

2021年、連携協定を結んでいる地元・信州大学医学部で「周産期のこころの医学講座」を開催されている村上医師より、「妊婦や子育て中のママさんたちが新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、家で過ごす時間がさらに増えたことでうつ状態になり、病院を訪れるママが増え続けている。1人でも多くのママを助けるために、松本山雅FCと一緒に何かできないか？」とご相談をいただいたことが始まりでした。



何度も話し合いを重ね、まず初めに実施したのが「ママサポお話ブース」でした。ホームゲーム開催日、専門の医師・助産師の皆さんに、試合観戦に訪れるママたちの話を聞いていただきました。日常生活の中で子育てや自身の体のことなど、病院に行って相談するほどではないが、気になることを気軽に話してもらうことができました。何度も実施するうちに、試合観戦に来たママだけでなく、スタジアムのある公園へ遊びに来たついでに、立ち寄ってお話いただけるママも増えました。次に、ママたちの気分転換になる場所を提供できないかと考え、「安心！ママサポチケット」という企画チケットを販売しました。小さなお子さんと安心して観戦できるエリアを設けた他、参加者には、選手からの子育て応援メッセージ入りの直筆サイン色紙をプレゼントし、大変喜んでいただきました。



22年は、「ママサポ安心フリーチケット」と題してママたちをホームゲームにご招待しました。それまでの経験やママたちの声を反映して、観戦エリアの近くまでベビーカーを利用できたり、ミルク調乳用のお湯、おむつ交換台の設置、観戦エリア内に、立って赤ちゃんをあやせる「あやしスペース」を設けるなどの工夫をしました。また、専門の医師や助産師さんが観戦席にいてママたちを見守りながら、必要に応じてサポートしていただきました。子どもが泣いて他の方の迷惑になるからと試合観戦に行くことを躊躇される方もいらっしゃいますが、周囲の方々がママたちの気持ちを理解し「共存」していくことが大切だと思っています。



AC長野パルセイロ

AC長野パルセイロのスタッフとボールで体操！ 1/2

AC長野パルセイロは、ホームタウン長野市と連携し、高齢化社会の課題解決へ向けて、フレイル予防事業～元気に100歳プロジェクト～の一環として「ボールで体操」プログラムを実施した。

初年の今年度はフレイル予防啓発のテレビCMや番組に出演したり、健康づくりの場へ選手やスタッフが13回出向き、209名の方に体験いただいた。パルセイロの選手やスタッフと共に楽しくボールを使った運動をすることで、地域住民の方々のフレイル(虚弱)改善や予防につながり、元気に100歳を迎えてほしい、という想いで活動している。



活動場所 長野市内の公民館・コミュニティセンター・自治会館・公会堂



協働者

行政、住民、選手

協働者名

長野市役所



協働者の声

長野市地域包括ケア推進課／湯本 千登勢 氏

選手出演のCMや情報番組は、高齢者のみならず若い世代も健康や介護予防に興味を持つ良いきっかけとなっています。また、地域の介護予防グループでのプログラムは大変好評で、終了後には参加者が「スタジアムにいったみたい」と目を輝かせています。今後も、チームとともに「健幸増進都市ながの」を目指していきます。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





AC長野パルセイロ

AC長野パルセイロのスタッフとボールで体操！ 2/2

Story

超高齢社会を迎えている日本において、フレイル（虚弱）は大きな社会問題になりつつある。フレイルとは、健康な状態と介護が必要な状態の中間の虚弱状態のことを指すが、早期に適切な運動、バランスの良い食事、外出、交流を行うことによって、健康で活動的な暮らしに戻れる段階のことである。「健幸増進都市」を目指すホームタウン長野市は「生きがいきづくり・健康づくりと介護予防の推進」を政策目標に掲げ、健康寿命を延ばすための施策を実施している。フレイル予防におけるスポーツ・運動の効果は大きく、AC長野パルセイロは地元のプロスポーツクラブとして、行政や地域活動団体と連携し、フレイル予防に取り組んでいる。



【周知・啓発(情報発信)】

選手がフレイル予防のテレビCMに長野市長とともに出演した。また、地元テレビ局の情報番組にも出演し、広く情報発信を行なった。

【健康づくりの場(参加型)】

普及スタッフがサッカーボールを使ったメニューを開発し、市内の公民館・コミュニティセンター・自治会館・公会堂などを訪問し、2022年7月から12月現在までに計13回の「AC長野パルセイロのスタッフとボールで体操！」を実施し、209名の地域住民の方々にご参加いただいている。

内容は、ストレッチなどで体をほぐした後、指折り体操や後出しジャンケンによる脳トレ、ペアになってボールキャッチや椅子に座った状態でのパス交換などの軽運動、ボールを足裏で転がしたり、落ちないように足で挟むなどの筋力トレーニングを行う。選手たちも「意外と難しい!」、「出来た!」などと、住民の方々とのコミュニケーションをとりながら活動している。

ご参加いただいた住民の方々からは、運動メニューについては「とても楽しい。身体も頭も鍛えられた!」「ボールでの体操は今後の活動に生かしていきたい。」という感想をいただいている。



また、AC長野パルセイロがフレイル予防に取り組むことについては「大変有意義な活動でサッカーに興味を湧いた!」「選手に会えて良かった!パルセイロを身近に感じることが出来た。」など、サッカーやクラブに興味関心をもっていただくことが出来た。今後はサッカー観戦をしていただくなどの生きがいきづくりにもつなげていきたい。

AC長野パルセイロは、地域住民の方々にも、楽しく元気に100歳を迎えていただくため、今後も健康づくり、生きがいきづくりのための活動を続ける。



アルビレックス新潟

応援で勇気と笑顔を！ 病院ビューイング 1/2

病院にスタジアムの空間をつくり、一緒に応援することで患者さんに勇気と笑顔届けたい、試合観戦を楽しんでほしいという思いから、サポーター有志の皆さんを中心に企画された病院ビューイングは、2014年4月に新潟大学医歯学総合病院で初めて開催されました。2019年までに県内7つの病院で計23回開催されている活動は、2018年には隣県のカターレ富山でも実施されており、新潟から全国へと広がっていく可能性を秘めています。選手だけでなく、患者さんご自身と周りの人々を、応援で勇気づけ、笑顔になることを目指しています。



活動場所

新潟大学医歯学総合病院、新潟県立中央病院、新潟県立新発田病院、済生会新潟病院、魚沼基幹病院、国立病院機構西新潟中央病院、新潟県立がんセンター新潟病院



協働者

企業、学生、ファン・サポーター、ボランティア、病院

協働者名

新潟大学医歯学総合病院、新潟県立中央病院、新潟県立新発田病院、済生会新潟病院、魚沼基幹病院、国立病院機構西新潟中央病院、新潟県立がんセンター新潟病院、DAZN、スカパー！、サポーター有志



協働者の声

新潟県立中央病院／診療部長 石田 卓士 氏



ストレスや不安が伴う入院生活。塞ぎ込む患者さんに「一緒にサッカーを観ませんか？」と声をかけると顔を上げてくれた。皆で一喜一憂し、得点シーンでは看護師と笑顔でハイタッチ！病棟では見られない光景だ。一人じゃない、皆で同じ目標に向かうんだ。一緒に応援することで、そんな前向きな気持ちが生まれたら嬉しい。



活動詳細情報

- 1 [新潟日報](#)
- 2 [公式サイト①](#)
- 3 [公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





アルビレックス新潟

応援で勇気と笑顔を！ 病院ビューイング 2/2

Story

アルビレックス新潟は、老若男女問わず、多くのファン・サポーターの皆様から温かく応援いただいているクラブです。一例を挙げると、新型コロナウイルス禍の中で日々ご尽力いただいている医療従事者の皆様は、お仕事のご都合で試合会場にお越しになることはできなくとも、熱心に応援されている方が多くいらっしゃいます。

病院ビューイングが初めて開催されたのは、2014年4月26日。スタジアムになかなか足を運べない患者さんにも試合を体感してほしい、患者さんに勇気と笑顔を届けたいという思いから、病院内でも試合観戦を楽しめるようにとサポーター有志「えがお応援団」の活動がきっかけとなり、新潟大学医歯学



総合病院、クラブが連携して実施。試合会場さながらの臨場感・一体感を演出するため、マスコットの「アルビくん」や選手の等身大バナーが登場することに加え、ずっと同じ体勢で座る患者さんの身体が固くならないようにストレッチ運動を実施するなど、さまざまな工夫が施されました。患者さんは、ピッチで躍動する選手から勇気をもらい、笑顔になったことに加え、病院が実施したアンケートでは「感情を共有することで一体感が生まれる」と入院による孤独感から解放されていました。また、病院スタッフとの距離も縮まり、診療にプラスの効果が生まれました。

2019年までに賛同いただいた新潟県内7つの病院で、計23回開催された病院ビューイングは、新型コロナウイルスの影響で、2020年からは実施を見送らざるを得ない状況に。念願のJ1リーグ昇格に向け、新潟が一丸となって戦った2022年。新潟県立中央病院を中心に、DAZN、Jリーグ、クラブで連携して入念な感染対策を施して開催する方向で、6月から準備を進めていました。しかし、開催予定日の約1週間前、クラスター発生の影響で開催を断念しました。

2023年、6シーズンぶりにJ1リーグで戦う選手たちがさらにピッチで躍動するには、応援の力が必要



です。応援には、選手たちを勇気づけるだけでなく、患者さんご自身と周りの人たちをも勇気づける力があることを、病院ビューイングが示しています。

活動に参加していた学生の一人は、卒業後に医師となり、現在勤務している病院での実施を希望しているそうです。また、活動は新潟県外にも伝播しており、2018年には隣県のカターレ富山でも実施されました。新潟から全国への拡がり期待されます。



カタレ富山

選手の汗と情熱がしみこんだ堆肥「芝～レ！」カタレ食農プロジェクト～紅はるか～ 1/2

「この街に住んでいてよかった」と実感していただけるような街づくりに向けて「Kataller the Utopia～RISOUのまちを創造する～」を掲げてSDGs活動を推進しています。
2021年より練習場の刈芝から堆肥「芝～レ！」を製作。翌年より芝～レ！を使用した土壌で未来を担う子供たちにサツマイモの植え付けから収穫、実食、販売までを体験してもらう食農プロジェクトがスタートしのべ200名が参加しました。循環型社会を目指し地域の食と農業を繋げる食農教育のみならず、脱炭素問題など多様な社会課題にもアクションしています。

活動場所 富山市内の畑、富山県総合運動公園陸上競技場、カタレ富山 草島グラウンド、フューチャー シティー ファボーレ

協働者 企業、住民、ファン・サポーター、選手、農家

協働者名 株式会社ファニーファームベジタブル、株式会社サカエグリーン、北陸電力株式会社、大松青果株式会社、丸紅株式会社、サクラパックス株式会社、十全化学株式会社、イセ食品株式会社、株式会社エススリーブランディング

協働者の声 株式会社ファニーファームベジタブル／前川 和人 氏



農業を通してどんな地域貢献ができるか。2022年にカタレ富山と新たな挑戦をしました。初めは長靴すら持ってこなかった参加者。クラブと一緒に活動することによって普段農業に関わらない方が土に触れ、食の大切さを学ぶことができ、それが販売にも繋がりました。来期はさらに拡大し多くの地域企業を巻き込んでいきます。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





カタレ富山

選手の汗と情熱がしみこんだ堆肥「芝～レ！」カタレ食農プロジェクト～紅はるか～ 2/2

Story

選手が毎日汗を流している草島グラウンド。年間約40t程度の刈芝が発生しています。この量の刈芝を焼却したとなれば20t前後のCO2を排出すると推測されます。日本のCO2排出量は世界で総量5番目といわれており、持続可能な世界のためにCO2削減は必須です。カタレ富山はこの刈芝を利用した堆肥「芝～レ！」を製作し、資源の再利用を図り循環型社会にアクションすることにしました。堆肥化する際に混ぜる炭には、北陸電力株式会社様の水力発電のダム等の流木を利用しさらなる資源の有効活用を図りました。堆肥で栽培試験を行うと葉長、葉重などの向上が示されたことで、芝～レ！を使って農業ができないかと考えました。



そこで富山県内で農業を営むファニーファームベジタブル前川社長と立ち上げたのが、子供たちが土に触れ、農業を通じて食を学ぶ食農プロジェクトでした。「食」がもつ多様な役割、「食」を支える根本である農業に関する知識・体験も含んだ「食農教育」の大切さを伝えていくこのプロジェクトは協賛6社の従業員のご家族のべ200名が参加しサツマイモ「紅はるか」を栽培。4月～10月富山市にある畑で堆肥散布、畝立て、苗の植え付け、草抜き、つるの根切り、芋掘りを行いました。『サツマイモの成長もその脇に生えている雑草の成長スピードも人間と同じように水分、栄養、日当たりで全く違う。それぞれに個性があって性格もあるんだろうな。』そんな発見も参加者から聞かれ、土に触れたことのないという大人も童心に帰り親子で楽しく育てました。収穫したサツマイモは最愛の娘を嫁に出すような気持ちで、スタジアムグルメで焼き芋やスムージーを参加者の子供たちが中心になって大きな声を出して販売。地元出身の高橋駿太選手も参加した県内ショッピングモールでの販売会では2時間のイベントにもかかわらず普段の1日の販売数を超える売り上げを記録。多くの皆様がこのサツマイモが生まれたストーリーも知っていただいた上で購入してくださいました。



循環型社会を目指し刈芝から始まった食農プロジェクト。数多くの方が携わっているこの活動で感じるの、食が繋げる人の縁と輪。来年はじゃがいも、小松菜も育てる予定で、多くの企業から協賛や参加希望をいただいています。近年、自然災害が頻発しています。地域があつてこそそのサッカーというを感じさせられる出来事です。豊かな環境を守っていくため、地域の笑顔のため、食農プロジェクトをさらに拡大し富山の農業を盛り上げていきたいと思ひます。



ツエーゲン金沢

“TEAMいしかわ”で石川県を子どもの幸福度No.1に！ 1/2

石川県を「笑顔が溢れる街にすること」、それはつまり、この街の子どもたちを笑顔にし続けること。「子どもたちにお腹いっぱいご飯を食べてほしい」という一人の選手の想いが、チームに広がり、街に広がり、2021年7月に「Kids Smile Project」として立ち上がった。それから毎月、全選手とクラブスタッフ、そして「子どもたちが抱える課題」に詳しい専門の方に講師を務めていただき勉強会を実施している。その結果、選手が子どもたちに何ができるかを自発的に考え、実際に活動を始めてくれるまでになった。



活動場所 石川県内



協働者

行政、企業、住民、NPO、ファン・サポーター、選手

協働者名

石川県社会福祉協議会、NPO法人いしかわフードバンクネット、県内各児童養護施設、金沢市子育て支援課、サンFC白山、他



協働者の声

児童養護施設「享誠塾」／塾長 北川 茂樹 氏



KidsSmileProjectの始まりは、虐待など様々な理由で児童養護施設に入所している子どもたちの話を真剣な表情で聴いて下さる選手の皆さんでした。その後、子どもたちへの試合招待があり、試合後のピッチに立ち、はにかみながらサッカーボールを受け取る笑顔が印象的でした。これからも子どもたちを応援して下さい。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [公式サイト④](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





ツエーゲン金沢

“TEAMいしかわ”で石川県を子どもの幸福度No.1に！ 2/2

Story

家庭で眠っている食品を寄贈し、支援が必要な福祉団体等に無償で提供する活動「フードドライブ」。2020年、コロナ禍の影響でフードドライブの窓口が休止した一方、休業等による生活困窮者からの需要増加により、在庫が枯渇する状況が起きた。クラブではまず、NPO法人いしかわフードバンク・ネットへ、グッズ商品であるレトルトカレーを100個寄贈。

すると、当時のキャプテン廣井友信選手が、自身も子を持つ親として「子どもたちにお腹いっぱいご飯を食べてほしい」という思いから、趣旨に賛同した計7選手による毎月の食料品寄贈が始動。翌年には全選手が取り組みに賛同し、継続的且つ多角的に取り組みが行えるよう本PJを立ち上げた。

立ち上げ時から毎月実施している勉強会の第一回では、「児童養護施設」をテーマに「享誠塾」の塾長からお話を聞き、互いにディスカッションも行った。選手たちは課題を「知る」だけでなく、児童養護施設の子どもたちをホームゲームに招待するところまで自分達にできることを考え、実施してくれた。

これらの取り組みをクラブのHPやSNSで発信したことで、サポーターを中心に地域課題の認知が徐々に広がりを見せた。食品寄贈に関しては、ホームゲームでサポーターに協力を呼び掛けたフードドライブや、趣旨に賛同くださったパートナー企業からの協力もあり、これまでの合計で約4tの寄贈が実現。

また、小野原和哉選手はホームゲームのチケットを自ら購入し、スタジアム観戦がなかなかできない一人親家庭の子どもたちの招待企画を実施。「何かしたいと思っていてもどうすれば良いか分からなかった。勉強会を通じて行動に起こすことができた」と話してくれた。



子ども達の抱える課題は多岐に渡り形も変化し続ける。そのなかで大切なのは、一時の支援ではなく細く長く継続すること。今後も子どもたちの笑顔のために地域課題に取り組もう。

いつか今の子どもたちが大人になったとき、同じように「石川県」のチームメイトの笑顔を繋いでくれることが、この街の伝統になることを願って。

「Kids Smile Project」の目的と目指す将来像

目的

- 選手達の活動を通して子ども達が抱える課題を発信する
選手達が学びの様子をメディア、SNSで発信することで、ツエーゲンサポーターを中心とした石川県民に、現代の子ども達が抱える課題について理解を促す。また、選手達自身も発信することで、より多くの人を巻き込む。
- 選手の方々に「新しい視点」をもってもらう
地域の子も達が抱える課題について学ぶことにより、「サッカー」以外のことに目を向け、「新しい視点」をもってもらう。将来的に選手達自身の「価値」も高まる。
- 継続的な活動にしてゆく
選手達みんなで取り組むことにより、5年後10年後も続いていく継続的な活動にしてゆく。

目指す将来像

石川県を「子ども達の幸福度」No.1のまちにする！

選手達の学び・活動を通して、子ども達が抱える課題を発信していくことで「子ども達の課題」を「我が事」化して考えることができるツエーゲンサポーター、県民を増やす。その結果として、石川県を「子ども達の幸福度」No.1の街にすることを目標とする。

Copyright© 2021 Zweigen Kanazawa All Right Reserved



清水エスパルス

あなたとエスパルスでまもる。～エスパルスエコチャレンジto2050～ 1/2

サッカークラブがなぜゼロカーボン!? 2050年、私たちは今と同じようにスタジアムでサッカーに熱狂し、プロ選手を夢見てピッチを駆け回る子どもたちの姿を見ることができるのだろうか…。

エスパルスは2007年より「地球にやさしいサッカークラブであるために。次世代に快適にサッカーのできる環境を引き継いでいくために。」をコンセプトに環境への取り組み『エスパルスエコチャレンジ』を継続しています。
Jクラブのチカラで環境問題を『身近な自分ごと』に。Jクラブ初の「ゼロカーボンプロスポーツクラブ宣言」表明クラブとして挑戦を続けます。

活動場所 IAIスタジアム日本平、エスパルス三保本社・グラウンド、エスパルスドリームフィールド、静岡県内各所(行政、企業、教育機関等)等

協働者 **協働者名**

行政、企業、住民、学校、学生、NPO、ファン・サポーター、スタジアム、民間団体、飲食店、選手、一般社団法人、ボランティア、プロスポーツクラブ

静岡県地球温暖化防止活動推進センター、静岡市、静岡大学、KPMGジャパン、しずおか校庭芝生化応援団、静岡県内企業、静岡県内小中学校・高校、スタジアム飲食店、ファン・サポーター他

協働者の声 静岡県地球温暖化防止活動推進センター 次長/服部 乃利子 氏



2007年に始まった同チャレンジは、2019年には「SDGs ACTION」、そして昨年プロスポーツ界初の『ゼロカーボン宣言』と大きく進化してきました。それはクラブが持つ素晴らしい力であり、サポーター・パートナー・地域と共に取り組んだ証。ファンとして誇りに思います。今後も更なる広がりに向けて連携していきましょう。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [静岡市公式HP①](#)
- 5 [静岡市公式HP②](#)
- 6 [静岡市公式HP③](#)
- 7 [静岡県地球温暖化防止活動推進センター](#)
- 8 [静岡大学](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





清水エスパルス

あなたとエスパルスでまもる。～エスパルスエコチャレンジto2050～ 2/2

Story

◆HISTORY(2007-2020)

2007年にCO2排出権購入について日本プロスポーツ界で初めて取り組んだことをきっかけに『エスパルスエコチャレンジ』を開始。
(2010,12年環境大臣賞受賞)

2009年校庭・園庭芝生化(～2021 計60園)、試合時の紙コップのトイレトーパー再生化をスタート。2012年新たに5年分のクレジットを購入、2014,15年に環境省と連携した試合企画、2016年より静岡市とCOOL CHOICE啓発活動を実施。2019年SDGs ACTION始動、クラブの優先SDGsに「13番 気候変動に具体的な対策を」を



選定、2020年環境事業の一環で静岡市シェアサイクルPULCLEにブランド協力。

◆CHALLENGE to 2050 (2021-)

上述の通り、スポーツ界の先陣を切って環境省をはじめ各所と連携し活動を推進してきたエスパルス。しかし近年直面する気候危機と改めて真剣に向き合うべく、2021年にゼロカーボンプロスポーツクラブ宣言を表明しました。

まず全社横断プロジェクトを立ち上げ、静岡大学と連携しクラブ活動の中で排出される温室効果ガスを算定。2050年に向け排出量を実質ゼロにするロードマップ作成に取り組みました。クラブの発信力で環境問題を「自分ごと」にさせていただき特設ページを公開し、企業や行政とクラブの今後の活動を考えるワークショップを開催、個人や法人で活動へ賛同登録いただく仕組み作り(2022.11現在87名22団体登録)等を行いました。

これまでの活動に「環境目線をプラスする」ことで発展を図り、販促品の環境配慮型素材切替、サステナブルグッズ販売や循環型食器の試験導入、フードドライブ等を実施。



また、未来を担う子どもたちへ市民と作成したエコかるたや環境授業を行政・企業と共同で実施したり、サッカー+環境をテーマとした親子クリニックを開催。市内の高校と連携し生徒考案のフードロス削減レシピ展示、子ども服の回収企画等を行い、若い力を借りて活動の拡充を図り2021年はクラブの環境活動へ6,302人の方にご参加いただきました。

今後はクラブハウスに太陽光発電を導入し電力を一部再エネ化し、PULCLEを活用した施策や県内プロスポーツクラブとの連携企画を検討中。

サッカーを楽しめる環境を次世代へ、清水から未来へ今後も様々な取り組みを行います。



ジュビロ磐田

お花で笑顔に！プロジェクト 1/2

皆様が住む地域の小学校の花壇には、いつもお花が咲いていますか？長い間、土の見える学校もあるのではないのでしょうか。「教員は忙しくなかなか花壇に手を掛けられない。誰かがやらなければ。」という花屋の想いをきっかけに、地域企業と行政・小学校を巻き込んだ『お花で笑顔に！プロジェクト』が発足しました。小学校の授業の合間や登下校時、児童たちに『ささやかな癒しをプレゼントすること』をテーマに、今回は浜松市立芳川小学校栽培委員会と浜松市内外6企業と一緒に花の植え込みを実施。この活動は今後、静岡県西部地域の他市町にも広げていきたいと考えています。



活動場所 浜松市立芳川小学校



協働者

行政、企業、住民、学校、学生、ボランティア

協働者名

有限会社グリーンハート・ヤマムラ、浜松市役所、浜松市立芳川小学校、スズキ株式会社、静岡銀行、イエスオート株式会社

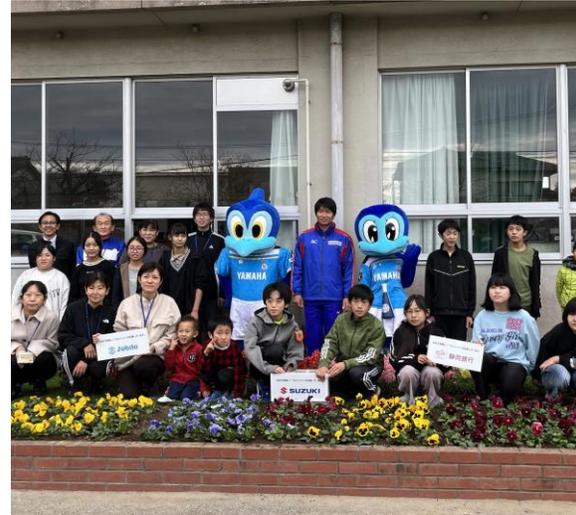


協働者の声

有限会社グリーンハート・ヤマムラ／山村 克孝 氏



たくさんのゲストと一緒に花を植え込み、児童たちにとって心に残る委員会活動になったのではないのでしょうか。広い花壇に通路を作ることで、児童たちが管理しやすい花壇になりました。担当の先生、地域ボランティアの皆様のご協力があって完成することができたので、今後も行政と連携しながらこの活動を続けていきたいです。



活動詳細情報

- 1 [浜松市HP](#)
- 2 [静岡新聞](#)
- 3 [中日新聞](#)
- 4 [シャレン！HP](#)
- 5 [公式サイト](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





ジュビロ磐田

お花で笑顔に！プロジェクト 2/2

Story

「小学校の花壇にお花を植えて、子どもたちを笑顔にしたいんです。」浜松市内に店舗を構える花屋、有限会社グリーンハート・ヤマムラ 山村社長の一声からプロジェクトがスタートしました。教員は忙しくなかなか花壇に手を掛けられず、児童たちも正しい水やりのルールが理解できていない。課題を目の当たりにした山村社長は、小学校の花壇を整備するため、『企業協賛を活用した学校花壇の整備実証実験事業(浜松市教育委員会)』を始めました。



中村明彦選手(スズキアスリートクラブ所属)

■お花を通して子どもたちに笑顔
「子どもたちを笑顔にしたい」という山村社長の言葉からもわかるように、心理的効用が大きいとされる花の栽培ですが、教育面でも欠かせない効果を発揮します。それは、『花育』と呼ばれ、「花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと(農林水産省)」と定義されています。

■「笑顔が咲き続けますように」
植え込み当日、スズキ株式会社から参加した中村明彦選手(スズキアスリートクラブ所属/陸上競技・十種競技/オリンピック出場経験有)は、「積極的に花を植えている子どもたちの姿が印象的でした。今咲いているパンジーの後、下に植えたチューリップの球根が花を咲かせるため、長期間花壇を楽しめるそうです。私も、子どもたちの笑顔が咲き続けるように、と願いを込めました。」と、スズキ株式会社創業者の母校・芳川小学校で、花が時間をかけて成長する姿に思いを馳せながら花を植えました。栽培委員の児童からは、「花壇のお世話は私たちに任せてください！」と頼もしい言葉もいただきました。



■今後の展開
本事業の協賛企業は、花壇にそれぞれの企業名入り銘板を設置。公立小学校の活動に企業名が入ることは特殊な事例で、手続きが滞ることもありました。しかし植え込み後、花壇の横を通る児童たちの「きれい！」という声や、自発的に水やりをしようとホースを手を持つ姿が忘れられません。「磐田市にも働きかけをし、広い地域で実施できる事業にしていきたい」と山村社長も語りました。すでに各市町にあるまち美化の取り組みを活用しながら、『お花で笑顔に！プロジェクト』を静岡県西部地域に広げていきたいです。



藤枝MYFC

やいづ ふっとさる かつぱ 1/2

ホームタウンである焼津市は水産加工業が盛んで、技能実習生を雇用している企業は多数存在します。

ただ、昨今の新型コロナウイルスの影響により職場や地域でのコミュニケーションをとる機会が減っています。

外国人の「地域生活」は現在の大きな課題となっています。

藤枝MYFCとして、生業としているサッカーで企業で働く「技能実習生」の生活を豊かにできるのではないかとこの想いから「日本に来てよかった」、「日本に定住したい」などと思ってもらえるイベントを創出しました。



活動場所 焼津市、藤枝MYFC練習場



協働者

行政、企業、焼津市国際友好協会

協働者名

山福水産株式会社、焼津冷蔵株式会社、株式会社南食品株式会社南伸商、FPKナカタク株式会社、協同組合焼津水産加工センター、株式会社クラスターワン、焼津市、焼津市国際友好協会



協働者の声

山福水産株式会社 代表取締役／見崎 真 氏



焼津の技能実習生は殆どが東南アジア出身、彼らのサッカー好きは我々以上です。

ホームタウンならではの体験をしてもらいたいと考え、MYFCさんに相談したところ「やりましょう！」と快諾を頂き、MYFCさん主催での大会が実現し、実習生も大変喜んでおりました。

今後は近隣の地域企業も巻き込み盛り上げていきたい取り組みです。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





藤枝MYFC

やいづ ふっとさる かつぱ 2/2

Story

焼津市で盛んな水産加工業の現場において、技能実習生を雇用している企業は数多く存在します。技能実習制度は本来 外国人が日本で働きながら技術を学ぶための制度です。発展途上国の人材育成を主な目的とする一方で、実際には労働環境が厳しい業種を中心に人手を確保する手段になっているといった指摘もあるなど、目的と実態の乖離をなくすべく制度の見直しも検討されています。昨今のコロナ禍の影響により職場や地域でのコミュニケーションの場が減少、日本の生活習慣になかなか慣れられない等の課題も明らかになるなか、藤枝MYFCでは課題解決に向け サッカーの力で技能実習生の生活を豊かにすることをテーマにこの取り組みを開始しました。



「日本に来て良かった」と思っていただけのイベントを企画することで地元企業の価値、ひいては焼津市・ホームタウン地域全体の価値の向上にも繋がればと考えています。

技能実習生の新たな余暇の過ごし方を提案するだけでなく、クラブを軸に企業間の交流を図ることも目的とし、この度初めて開催されました。

6チーム72名が参加した今大会はA League・B League(各3チーム)の総当たり戦を行った後、1位・2位・3位がそれぞれ対戦し順位を決定します。

<参加チーム>

- ・焼津水産加工センターA
- ・焼津水産加工センターB
- ・山福ヤキレイ連合(山福水産・焼津冷蔵)
- ・FPKナカタケ
- ・南食品
- ・南伸商

大会では一つひとつのプレーに歓声が沸き、想像以上の盛り上がり。応援団も含め、チーム全体が一体感を持って楽しむ姿が印象的でした。ミャンマーや中国、ベトナムなど様々な国の人が集まる中、スポーツの力が国を超えることを感じられる貴重な機会となりました。

外国人の抱える課題として、



地域生活

(日本語でのコミュニケーションが困難・日本の生活習慣に慣れていない)

子供の教育

(日本語による授業についていけない・不就学や不登校になりやすい)

医療・保険

(保険制度に加入していないケース・病院で症状を伝えるのが困難)

労働

(派遣労働による不安定な雇用)

が挙げられます。藤枝MYFCとして、サッカーを通じて外国人の生活を豊かにできるよう行政・企業と連携し活動を進めて参ります。



アスルクラロ沼津

ホームゲームのゴミ袋にリサイクル！エコキャップ回収プロジェクト 1/2

アスルクラロ沼津、第一生命保険株式会社沼津支社、株式会社サティスファクトリーの協働で、ファンやサポーターや地元の企業、学校で集めたペットボトルキャップを、スタジアムで使用するゴミ袋へとリサイクルするプロジェクトを立ち上げました。このゴミ袋は再生材を使用したもので、通常のゴミ袋よりCO2排出の削減が可能なものとなっており、地球温暖化の防止に向けた活動です。ペットボトルキャップはホームゲームを中心に集め、延べ3663名から約19万個も集めることができました。



活動場所 ホームゲーム会場、第一生命沼津支社



協働者

企業、住民、学校、学生、ファン・サポーター

協働者名

第一生命保険株式会社沼津支社、株式会社サティスファクトリー



協働者の声 第一生命保険株式会社沼津支社／山崎 康貴 氏



アスルクラロ沼津様と一緒に取り組ませていただくことで、非常に多くのサポーターの皆さんにこのプロジェクトに協力していただくことができました。また、シャレン活動というスキームを利用させていただくことで、地元の企業様とコラボする等、地域の皆さまと一体感を実感できただけでなく、学校等の教育分野にも活動を発展させることもできました。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





アスクラ沼津

ホームゲームのゴミ袋にリサイクル！エコキャップ回収プロジェクト 2/2

Story

第一生命保険株式会社沼津支社では以前よりペットボトルキャップを地域貢献の一環として集めていましたが、集まる個数が少ないことや集めた後の使い道について悩んでいました。そこでホームゲームで多くのサポーターやファンが来場するアスクラ沼津と廃プラスチックを使用したゴミ袋「FUROSHIKI」を製作・販売している株式会社サティスファクトリーと協働でペットボトルキャップをゴミ袋に再生するプロジェクトを立ち上げました。

この「FUROSHIKI」は再生材を使用している為、一般のゴミ袋に比べCO2の排出量を少なく、他社から切り替えたところ年間で約36.9トンものCO2排出量削減効果があるなど、地球温暖化対策にも役に立つものです。

アスクラ沼津では2023シーズンからこのプロジェクトで集めたペットボトルキャップを原料として一部使用した「FUROSHIKI」をホームゲーム時のスタジアムで使用する予定となっており、来場者が集めたペットボトルキャップがスタジアムに帰ってくる、循環型のプロジェクトとなっております。

これを一過性の活動として終わらせない為に、回収のための専用の箱を配布し、それに入れて持って来ていただくことで毎試合違うデザインのアスクラ沼津の缶バッジを配布しました。また、5回お持ちいただくことでサイン入りシャツや限定賞品が当たる企画も行い、たくさんの方に複数回参加いただきました。



更にこの活動が自治体に伝わり、地元の学校で環境問題について考える授業を行うきっかけとなりました。この授業ではリサイクルについてやシャレン！活動についてを学んだり、ペーパークラフトでオリジナルのペットボトルキャップ回収箱の作成を行いました。中にはこの回収箱をホームゲームに持ってこる方もおり、シャレン！活動がホームゲームに直結するいい事例となりました。

2023シーズンにはこのゴミ袋を使うことや他の活動を含めてどれだけのCO2が削減できるかを算出し、脱炭素に向けた活動を視野に入れて、より多くの方々と共に環境問題に取り組んでいきたいです。



名古屋グランパス

在留ブラジル人の子どもたちのお仕事体験 1/2

名古屋グランパスは、在留ブラジル人の活躍や日本語習得を目的に、取り組みを始めています。ホームタウンである豊田市は、在留ブラジル人の多い地域です。そのコミュニティでは母国語がメインで使用されており、日本語や日本社会への理解が乏しいことは、本人たちの可能性を狭めているように感じます。サッカーを通じ、在留ブラジル人が日本語を学習するきっかけや、日本社会でチャレンジしたいと思うきっかけを提供することで、日本人との相互理解も進み、より住みやすいホームタウンへのまちづくりに寄与できると考えています。

活動場所 豊田市、豊田スタジアム

協働者 行政、学校、学生、NPO、ボランティア

協働者名 豊田市役所、伯人学校イーエーエス豊田、ブラジル人学校エスコラ・ネクター・NPO法人希望の光・グランパスボランティア

協働者の声 伯人学校イーエーエス豊田／通訳 アギアル・ジェジソン 氏



スタジアムでのお仕事体験は、生徒たちにとって良い交流となりました。体験会の後の試合では、自分たちと同じブラジル国籍選手が活躍している姿を見ることが出来て、とても嬉しかったです。生徒たちはサッカーが大好きなので、これからも名古屋グランパスとの交流や応援を通じて、様々な経験をしてほしいです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式Twitter](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





名古屋グランパス

在留ブラジル人の子どもたちのお仕事体験 2/2

Story

名古屋グランパスは、2022/3/20(日)名古屋グランパス対柏レイソル(@豊田スタジアム)開催時に、在留ブラジル人の子どもたち向けのお仕事体験会を実施しました。当日は伯人学校イーエーエス豊田と豊田市立保見中学校の生徒、合わせて約80名が参加しました。

保見中学校には在留ブラジル人も多く在籍していることから、ポルトガル語を理解できる生徒が多く在籍しています。語学をサポートする日本人生徒も一緒に活動に参加することで、多文化共生社会の理解や、語学習得のきっかけとなるようにと考えました。在留ブラジル人の子どもたちが日本語を理解することで、活躍の場は大きく広がっていくと思います。



また、スタジアム開場前には社会で活躍されている在留ブラジル人のキャリア講話を実施し、それぞれのキャリア形成を考えるきっかけを作りました。講話は2か国語での講話を実施し、子どもたちは真剣に聞き入っている様子でした。

そして、お仕事体験会の中では、主にボランティア業務を交代で担当してもらい、お客様へのおもてなしを通じて、地域への愛着や社会への理解を深める場を作りました。参加した在留ブラジル人生徒からは、「サッカーに関わる他の職業について知りたい」「名古屋グランパスに関わる仕事に就くためにはどうしたら良いか」「今度は家族と一緒に応援に来てみたい」などの声を聞くことができ、今回の体験を通じ、将来へ向けてモチベーションを高める機会になったと思います。

体験会後には全員で試合を観戦し、同じブラジル国籍選手を中心に応援していただきました。このお仕事体験会の活動の他にも、2022/7/10(日)名古屋グランパス対清水エスパルス(@豊田スタジアム)では、在留ブラジル人の観戦招待企画を実施したり(100名以上が参加)、2022/10/10(祝・月)に開催されたブラジル人学校エスコラ・ネクター主催のサッカー大会へ協力したり、様々な取り組みを始めています。



在留ブラジル人(在留外国人)との関わりは、地域の課題として取り上げられるケースも少なくないと思います。名古屋グランパスは、在留ブラジル人とのポジティブな関わりを増やしていくことで、日本語習得や社会参加を促し、地域社会での活躍を応援して参ります。

そして、日本人との相互理解が深まり、ホームタウンに国籍を超えたコミュニティが広がるきっかけを作っていきたいと思います。



FC岐阜

FC岐阜のパラスポーツにかかる取り組みについて 1/2

FC岐阜は、障がいのある方にもサッカーやスポーツを楽しんでもらいたいという想いから、障がい者スポーツの普及に取り組んできました。2022年11月には、FC岐阜が初めて主催者として、パラスポーツイベントを開催しました。「障がいがある方もない方も、誰もが参加し楽しむことができるパラスポーツを体験し、一緒にサッカーやスポーツを楽しむ！」をテーマとして実施し、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる社会を願っています。



活動場所 JAぎふアグリパーク鈴ヶ坂



協働者

企業、ファン・サポーター、都道府県サッカー協会、選手、一般社団法人

協働者名

モレラ岐阜、一般社団法人岐阜県サッカー協会、JAぎふ、FCプログレッソ、IGSユニバーサルスポーツクラブ



協働者の声

モレラ岐阜／森島 愛 氏



日々地元スポーツの底上げ貢献として、FC岐阜様と様々な取り組みをしております、その中のひとつとして今回の「パラスポーツフェスティバル」の開催をしました。たくさんの方にスポーツの楽しさや、“パラスポーツ”の存在を知ってもらうきっかけ作りができた実感しています。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC岐阜

FC岐阜のパラスポーツにかかる取り組みについて 2/2

Story

FC岐阜は、県内初のプロスポーツクラブとして、これまで多くの地域貢献活動を行ってきましたが、スポーツを不自由なく楽しめる方はもちろん、障がいのある方を対象とした様々な活動も行ってきました。

活動の事例としては、2008年のクラブ創設以来実施している進行性筋ジストロフィーの患者さんを中心に結成された電動車椅子サッカーチームとの交流事業、就労支援センターで働く方の自立支援を目的として、FC岐阜のホームゲームゲーム運営に携わっていただく障がい者就労支援企画、県内各地での特別支援学校を対象としたサッカー教室等の実施、CPサッカーへの参画など、その活動は幅広いものになります。



2022年11月に実施したFC岐阜主催のパラスポーツフェスティバルは、障がいのある方だけではなく、障がいのない方も一緒に楽しめる体験型のパラスポーツイベントです。トップチームの選手やFC岐阜のチアメンバーも参加し、皆でイベントを楽しみました。

参加にあたっては、多くの方にご応募をいただきましたが、どの参加者も、CPサッカー(脳性麻痺者7人制サッカー)、ブラインドサッカー(視覚障がい者サッカー)、ポッチャ(ボール同士を当て合って競うパラリンピック正式種目)を体験することができるだけでなく、スクールコーチによるサッカー教室にも参加できるなど、障がいのある方もない方も一緒に体を動かし、楽しむことができました。

また、当日はテレビ局が取材に訪れ、テレビでその様子が放送されるなど、多くの方にサッカーやスポーツのもつ楽しさを届けたいというFC岐阜の想いが伝わったのではないのでしょうか。

イベント実施後、参加した方によるアンケートでは、障がいのない方からは「日常とは全く異なる体験ができた」、「パラスポーツの楽しさを体験できた」、「見ているだけでは分からない体験ができた」などのお声をいただき、障がいがある方からは「自身が専門の競技外のスポーツを体験でき、その楽しさを知った」などのお声をいただくなど、



それぞれが非日常を体験いただけただけでなく、身をもってパラスポーツの楽しさを体験できたのではないかと考えています。

一方で、ブラインドサッカーは音を頼りに行う競技であることから、実施場所の選定を考慮しなければならぬなど、改善点も見つかりました。FC岐阜は、今回のイベントの反省点を踏まえながら、引き続き、障がいのある方もサッカーやスポーツを生涯楽しんでいただける環境をつくっていきけるよう努力していきたいと考えています。



京都サンガF.C.

はあとフルサンガ!! ～障がいのある方との協働～ 1/2

誰もが一緒にスタジアムを楽しみ、笑顔で生き生きと輝ける機会を創出するため、TEAM京都コンソーシアム及び障がいのある方との協働でスタジアムを盛り上げる取り組みを実施しました。

京都府内の障がい者福祉サービス事業所で作られた「ほっとはあと製品(授産製品)」をプロモーションするブースの出展、ホームゲーム運営の就労体験、特別支援学校の生徒が作成した絵画を展示する「サンガギャラリー」など障がいのある方と協働した様々な企画で来場者をおもてなしました。



活動場所 サンガスタジアム by KYOCERA



協働者

行政、企業、学校、NPO、障がい者福祉サービス事業所

協働者名

TEAM京都コンソーシアム(ホームタウンを中心とした各行政や団体等が一体となってサンガを応援し、地域コミュニティ活性化等に寄与するため設立された組織)、京都府障害者支援課、亀岡市障がい福祉課、特定非営利活動法人 京都ほっとはあとセンター、京都府立宇治支援学校、京都府立丹波支援学校等



協働者の声 特定非営利活動法人 京都ほっとはあとセンター／事務局事業主任 澤田 雄児 氏



コロナ禍のここ数年は十分なPR活動が行えない日々でしたが、スタジアムでは福祉施設の職員や利用者と安心してPR活動を行うことが出来ました。

また試合を観戦することで、何かしらの共通する価値を分かち合えるスポーツのパワーを感じることができました。このような地域に密着した事業に引き続き携わりたいと考えています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式Twitter](#)
- 4 [公式サイト③](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





京都サンガF.C.

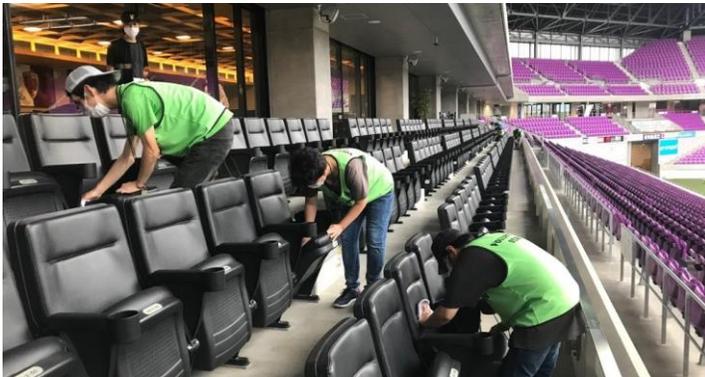
はあとフルサンガ!! ～障がいのある方との協働～ 2/2

Story

京都サンガF.C.は「みんな輝け ～サンガに関わる全ての人々が“笑顔で生き生き”と～」を2022シーズンクラブスローガンとして掲げ活動しました。

その取り組みの中の一つとして、誰もが一緒にスタジアムを楽しみ笑顔で生き生きと輝ける機会を創出するため、行政・京都ほっとはあとセンター・就労支援施設・特別支援学校などと協働してスタジアムを盛り上げる取り組みを実施し来場者をおもてなしました。

1つ目の“協働”は府内約150の施設を支える京都ほっとはあとセンターと協力し、ホームゲーム開催時のスタジアム北広場で、障がいのある方が手掛けられた“ほっとはあと製品”を販売するブース



を出展していただきました。ブースでは京都産食材を使用した食品やオリジナリティある雑貨、有名百貨店にも出品された人気スイーツなどをプロモーションし、スタジアムを訪れた多くの方が足を止めて「ほっとはあと製品」を手にとったり、つくり手の思いに耳に傾けるなど、関心を寄せていただきました。

2つ目の“協働”は亀岡市内の就労支援施設と協力し、障がいのある方が生きがいや働きがいを持ち、自分らしく暮らしていくことのできる「共生」社会を目指すため、障がいのある方の就労体験としてホームゲーム開始前の座席清掃や配布物準備、サンプリングの実施などの運営業務に携わっていただきました。

3つ目の“協働”は特別支援学校の協力のもと、ホームゲーム開催時のスタジアムコンコースに障がいのある方のアート作品を展示する「サンガギャラリー」を設置し、スタジアムに彩りを加えるとともに来場者が障がい者芸術に触れる機会を創出しました。

また、協働していただいた方に自分たちが試合に携わっているという意識をもってもらい、今後の取り組みにつなげていければとの思いで、



(株)堀場製作所様にサポートしていただいている「ハートフルシート」で試合を観戦していただきました。

今後もホームタウン市町の方々が生き生きと輝ける場を提供し、地域に寄り添えるクラブであり続けたいと思います。



ガンバ大阪

子どもたちの未来のきっかけづくりに！児童養護施設サッカー教室開催！ 1/2

ガンバ大阪ホームタウンの北摂地域内にある児童養護施設と児童心理治療施設の子どもたちを対象とした「サッカー教室」を開催いたしました。ガンバ大阪では、子どもたちの未来に寄り添って多くの方に笑顔になっていただくこと、将来に向けて何かの気づきやきっかけを見つけてほしいという想いから、社会に貢献できる活動をより推進するために本イベントを開催いたしました。本イベントは「GAMBASSIST」(ガンバ大阪のホームタウンを中心とした地域貢献活動へのご協賛)企業様、北摂児童養護施設連盟様との協働により開催が実現しました。



活動場所 パナソニックスタジアム吹田



協働者

行政、企業、児童養護施設、児童心理治療施設、OB木村敦志氏

協働者名

吹田市、GAMBASSIST企業(地域の企業294社)、北摂児童養護施設連盟



協働者の声

北摂児童養護施設連盟 社会福祉法人 大阪西本願寺常照園／芦田 拓司 氏



「まじで！パナソニックスタジアムでサッカーできるん？」これが、子どもたちに今回のイベント開催を伝えた時の第一声でした。もちろん、当日スタジアムに来た時の目はみんなキラキラ輝かせ、スタジアム見学ツアーの時も皆大興奮でした。OBの木村選手やコーチの方々の教え方も素晴らしく、初めて会う子どもたち同士もすぐに仲良くなっているのには我々も驚かされました。子どもたちにとって一生の宝物になったと思います。本当にありがとうございました。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ガンバ大阪

子どもたちの未来のきっかけづくりに！ 児童養護施設サッカー教室開催！ 2/2

Story

現在、日本では児童養護施設が612ヶ所、施設に通う子どもたちがおよそ25,000人います。さらに大阪府は日本国内においても、児童養護施設に在籍している子どもの人数の割合が国内でも多い都道府県となっています。このような社会課題を受け、ガンバ大阪ではこれまで児童養護施設に通う子どもたちを対象にホームゲームに招待する活動や記念ユニフォームシャツの贈呈を実施してきました。そしてこの度、吹田市の職員を通じて、児童養護施設の方を紹介いただき、話し合いをする中で、様々なバックグラウンドを持ちながらも生活をしている子どもたちに少しでも笑顔になってもらえるような企画を考え、将来に向けて何かの気づきやきっかけを見つけてほしいという願いから、ガンバシストの協

賛企業とともにパナソニックスタジアムを使用したイベントの開催を共創しました。北摂地域内に児童養護施設と児童心理治療施設の10施設、113名の小学生がスタジアムに集いイベントが始まりました。スタジアムツアーでは選手が使用するロッカールームに入って、選手のように振る舞いながらポーズを取る子どもが居たり、グラウンドでのサッカー教室では、初めて足を踏み入れるピッチに「芝生が柔らかくて気持ちがいい」「座席が近くて応援の声がよく聞こえるかもね」と興奮気味に話されていました。夢中になってボールを追いかけている子どもたちには笑顔が溢れていてとても楽しそうでした。今回が第1回の開催となった児童養護施設サッカー教室ですが、今後も継続的な開催を目指し、サッカー(スポーツ)を通して多くの仲間と交流し、ゴールを目指す喜びや達成感を感じることのできる機会の提供や、子どもたちの笑顔を作り出し、多くの方々に愛していただけの教室にしていきたいです。





セレッソ大阪 青少年育成への寄与 1/2

セレッソ大阪の青少年育成に寄与する代表的な活動として、読書推進プロジェクトとランドセルカバーの贈呈があります。大阪という大都市圏において、この数年来継続している活動です。スタート当初は、サッカーに直接関係する内容ではなかったこともあり、活動内容や範囲が限られていましたが、継続することで、賛同・支援いただける企業団体が増え、その思いは着実に浸透しつつあります。毎年発行する読書手帳は12万部、また配布するオリジナルランドセルカバーは2万枚を超えます。こうした規模感での取り組みには相応の負担もありますが、子どもたちの健やかな成長を願うクラブとして、今後も可能な限り続けていきたいと考えています。

 **活動場所** 大阪市、堺市

 **協働者**

行政、企業

協働者名

株式会社モリトク、大阪市立図書館、堺市教育委員会など

 **協働者の声** 株式会社モリトク／森 一弘 氏



現役時代の時から森島社長が好きで応援をしていた。自分にも小学生の子どもがいるが街を歩いても急に飛び出したりするから危なっかしいと思っていました。子どもたちの交通安全を地域の企業として地域に貢献したい。



 **活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [読売新聞](#)
- 3 [公式サイト②](#)

 **カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





セレッソ大阪

青少年育成への寄与 2/2

Story

1. 読書推進プロジェクト

2019年、小中学生が受ける全国学力調査の大阪市の平均正答率が、一部の教科で全国20の政令指定都市の最下位になりました。また子どもの読書率の低下という社会課題を受け、セレッソ大阪では、小学生のうちに読書習慣をつけてもらうこと、そして子どもたちの学力向上に少しでも貢献したいと考え、2019年に大阪市立図書館と協働で、「読書推進プロジェクト～本を読んで、人生を豊かに～」をスタートしました。2021年からは堺市教育委員会とも参画し、活動の幅を広げています。

本を読むことの楽しさを感じてもらうため、ホームタウンである大阪市と堺市の小学生全員にオリジナル読書手帳を配布しました。



また読書チャレンジとして、読んだ本の冊数に応じた賞品の授与も行いました。その他、いくつかの地域図書館にセレッソ大阪所属選手の等身大パネルやスパイクなどを展示するセレッソ大阪巡回展示を行い、図書館に足を運んでいただくきっかけを作りました。

2. ランドセルカバーの贈呈

毎年4月から5月にかけて、小学1年生の児童が巻き込まれる交通事故が多発するそうです。このような痛ましい事故を少しでも減らしたいと考え、セレッソ大阪では2019年から大阪府警察本部交通総務課の協力と株式会社モリトクの協賛のもと、大阪市内の小学校の新一年生にランドセルカバーを贈呈しています。

2022年は、約23,500名の新一年生にランドセルカバーを贈呈しました。このランドセルカバーは暗い夜道でも安全性が増すように反射テープがあしらわれており、運転手の目に留まりやすいという特徴があります。ランドセルカバーを使用することで、事故の軽減はもちろん、学校やご家庭、地域での交通安全意識の向上につながると期待しています。



セレッソ大阪では、これらの活動を通じて地域の子どもたちが健やかに成長できる環境を作っていきたいと考えています。そして、この活動を機に、子どもたちがセレッソ大阪に興味を持ち、サポーターになってくれることを願っています。今後も地域の皆様と連携しながら、子どもたちの笑顔のために、子どもたちに寄り添った様々な取り組みを行っていきます。



FC大阪

FC大阪カーボンニュートラルアクション！サッカーを通じた未来の共創。 1/2

FC大阪は国の掲げる2050年脱炭素社会目標達成に向けて、OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーションへの参画、また試合運営をはじめとしたCO2排出量の算定、可視化を実施し、脱炭素社会を目標とした「カーボンニュートラルアクション・プラン」を策定。循環型社会に向けてホームゲームではパートナー企業と共に廃食油を回収し、将来的にはリサイクル燃料としての活用を目指す活動を実施。プロスポーツクラブとして国内初のSBT認証を取得。主体となって脱炭素社会を目指して普及啓発や行動変容を訴求することで、今後の持続可能なまちづくりに貢献していきます。

活動場所 東大阪市花園ラグビー場

協働者 **協働者名**

行政、企業、ファン・サポーター、一般社団法人

植田油脂株式会社、株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所、OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーション

協働者の声 植田油脂株式会社 総務経理部／松本 奈美 氏



クラブで集めた廃食油がハンドソープとなり、一部のトイレで使用させていただきました。家庭から出る廃食油がバイオ燃料や再利用できる資源になるという認識はまだ低く発生量も少なく9割が廃棄されております。家庭の廃食油を回収し再エネルギーに利用するという取り組みは持続可能な社会を形成する活動に必ず繋がります。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [産経新聞](#)
- 4 [OSAKAゼロカーボンファウンデーションHP①](#)
- 5 [OSAKAゼロカーボンファウンデーションHP②](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





FC大阪

FC大阪カーボンニュートラルアクション！サッカーを通じた未来の共創。 2/2

Story

2050年脱炭素社会目標達成に向けて、CO2排出量の可視化と削減を目的とした活動を開始。大阪府と多様な立場の関係者から構成されるOSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーションに理事企業として参画。また2022年5月に株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所と業務提携を締結し、同社が開発、提供する会計情報等からCO2排出量の算定や削減効果測定を可視化するシステム「環進帳」を用いて組織運営、試合運営の全般に渡るCO2排出量の算定、可視化。結果としては、2021年シーズンの事業活動によるCO2排出量は205.77トンで、観客の移動による排出量が8.36トンとコロナ禍の影響により思ったよりは少なかったが、遠征に伴う排出量や試合規模により観客移動の排出量が増えることが明確になりました。



これらの結果を用いて「カーボンニュートラルアクション・プラン」を策定し、活動を推進しています。10月にはプロスポーツクラブ国内初のSBT認証を取得し、国際機関に登録することでより一層活動ゴールを明確に設定しました。オリジナルクリアファイルなどのグッズの素材をOSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーション参画企業の石灰石を主原料とした素材「LIMEX」で制作し、サッカー教室等のイベントにて配布し、参加者の皆さんにも手に取って環境保護を感じてもらえるよう工夫を重ねています。また年間を通じて、パートナー企業である植田油脂株式会社の協力の下、ホームゲーム開催時に家庭で出た廃食油の回収を実施。回数を重ねるごとに廃食油を持って会場を訪れるサポーターが増え、クラブ、パートナー企業、そしてサポーターが三者一体となって循環型社会への一歩を踏み出すことができました。将来的にはリサイクル燃料としての遠征などの移動に活用することを目標とし、サポーターと共に進めた循環型社会への取組みがクラブを支えていると実感できる活動とすることを目標としています。



地域行政、企業や地域団体とクラブが両者の情報を共有し、相互に認識した上で課題解決に行動することこそが、多様なステークホルダーとの接点を持つスポーツクラブの使命であると捉えており、クラブが主体となって様々な問題に関する普及啓発や行動変容を訴求することで、さらなる持続可能なまちづくりに繋げていきます。



ヴィッセル神戸

GOAL for SMILE プロジェクト 1/2

「GOAL for SMILE プロジェクト」～ゴールの先に子どもたちの未来がある～は、神戸市、教育委員会、クラブが連携し、ヴィッセル神戸の公式戦(リーグ戦・リーグカップ戦・天皇杯)で1ゴールにつき、サッカーボールを神戸市立の小学校に寄贈する取組です。クラブ創設15周年を迎えた2010年からスタートし、毎年神戸市内のすべての小学校(全164校)に選手たちが直接訪問し、ボールをお届けするとともに、子供たちに夢を与えられる存在になることを目的に実施しています。
※20年～21年はコロナ禍で選手訪問を見送り、映像を全校に配布



活動場所 神戸市内の全市立小学校



協働者

行政、学校、選手

協働者名

神戸市、教育委員会、市立の各小学校、PTA



協働者の声

神戸市市長／久元 喜造 氏



ヴィッセル神戸が2010年3月に本取組を開始してからもう12年が経過し、プロジェクト開始から1年後の2011年4月には神戸市内の全小学校(当時は166校)への訪問を達成、神戸市内の小学生に夢を与えてきています。当市としても、神戸の子供たちの笑顔に繋がる本プロジェクトを引き続き支援していきたいと考えております。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式Twitter](#)
- 3 [公式YouTube①](#)
- 4 [公式YouTube②](#)
- 5 [公式YouTube③](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ヴィッセル神戸

GOAL for SMILE プロジェクト 2/2

Story

「GOAL for SMILE」プロジェクトは、1995年に創設され、神戸の皆様とともに歩んだクラブ創設15年という節目に始動しました。

サブタイトルを「ゴールの先に子どもたちの未来がある。」としています。これは昨今、サッカー人口減少や子どもの体力低下が危惧されている中で「もっと子どもにサッカーをしてほしい」「スポーツに触れる機会を増やしたい」という想いが込められています。また、ヴィッセル神戸の選手が決めたゴールがきっかけで子どもが笑顔になり、配られたボールでプロサッカー選手を初めとした夢に向かって未来に希望を持つ子どもが増えてくれればという想いが込められています。毎年、神戸市内全164校の小学校に訪問しています。



実際に夢を実現させた選手を間近で見ると「僕もサッカー選手になりたい」という夢を話す子供たちが沢山います。

2022年10月に槇野智章選手が小学校を訪問した際は「僕も槇野選手のようにプロのサッカー選手になる！という夢を、目に見えるところに書いて頑張りたい」と目を輝かせる児童もいました。

また、長年活動していると嬉しい事もあり、当時小学生だった小林友希選手(ヴィッセル神戸→セルティックFC)は子供の頃に学校にやってきたヴィッセル神戸の選手と接して夢を追いかけて、「夢」が花開くこととなり、今度は逆に夢を与える選手として本プロジェクトに参加しました。

これからも選手たちが神戸の子供たちに夢を与え、彼らが夢を実現させることで地域社会に貢献するという良い循環を根付かせていくために、このプロジェクトを継続していきたいと考えています。また、本プロジェクトは地域の子供たち、学校、行政等とクラブを繋ぐ大切な機会ともなっています。本プロジェクトを実施するにあたっては、訪問先である小学校の先生たちはもちろんのこと、教育委員会、PTAなどと連携も必要となります。また、今後は企業との連携も取り入れて実施していくように考えています。



活動には教育委員会や市役所の担当部署とも十分な調整が必要となります。このプロジェクトを12年継続させる中でクラブと地域・行政との繋がりはより強固なものとなりました。この繋がりはクラブが地域で様々な活動をする上での礎となっています。Jクラブは「それぞれのホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブづくり(社会貢献活動を含む)を行う」とこととされています。またSDGsとしても「4.質の高い教育」「17.パートナーシップで目標を達成」に該当し、今後もヴィッセル神戸が地域に愛され、地域に根差したスポーツクラブであり続けるために、今後も一人でも多くの子供たちに「夢」を与え続けていきたいと考えています。



奈良クラブ

ランドセル・夢プロジェクト 1/2

奈良クラブと地域産業のランドセルメーカーが協働して、ホームゲームの奈良クラブのゴールの数分だけ、県内施設の子どもたちにランドセルを寄贈する夢あるプロジェクト。奈良クラブを応援するスタジアムの熱い声援が、サポーターの熱い想いが子どもたちへの支援というカタチとなり、笑顔の輪が繋がっています。



活動場所 ホームスタジアム、奈良県内各所



協働者

行政、企業、協議会、ファン・サポーター、スタジアム、選手、プロスポーツクラブ、児童養護施設、母子生活支援施設

協働者名

有限会社カザマ、奈良県文化・教育・くらし創造部こども・女性局こども家庭課、奈良県児童福祉施設連盟、奈良県母子生活支援施設協議会



協働者の声 有限会社カザマ 専務取締役／風間 智紀 氏



“子どもたちの成長、挑戦、そして未来をランドセルを通じて応援したい”
 “子どもたちがカザマランドセルと共に楽しく学校へ行き過ぎてほしい”
 そんな想いがきっかけです。奈良クラブと奈良県を通して、たくさんの子どもたちに寄贈することができるようになり、一つ一つのゴールが子どもたちの笑顔に繋がっています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [奈良テレビ放送YouTube](#)
- 3 [カザマランドセルHP](#)
- 4 [毎日新聞](#)
- 5 [朝日新聞](#)
- 6 [奈良県HP](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





奈良クラブ

ランドセル・夢プロジェクト 2/2

Story

奈良県桜井市から全国へ製造販売する人気のランドセルメーカー有限会社カザマ様と協働し、奈良クラブのホームゲームゴール数分だけランドセルを寄贈する「ランドセル・夢プロジェクト」。

当初、クラブパートナーの有限会社カザマ様に児童福祉施設からご相談で、施設の子もたちが使うランドセルには古くなったものが多く、使いまわしで使用されることもあると知りランドセルを寄贈。一方で奈良クラブが児童福祉施設でサッカースクールを実施し子どもたちが非常に喜んでいた様子を見知され、何か協働で子どもたちに喜んでもらえる、継続的で広く支援できる手だてをとプロジェクトがスタートしました。



奈良県(女性局こども家庭課)を通じて、児童養護施設や母子生活支援施設の子もたちにランドセルをお届けします。

奈良クラブを応援するスタジアムの熱い声援、サポーターの熱い想いが選手の力となり、さらにはランドセルとなって子どもたちの支援に繋がる笑顔のループの事業となっています。

開幕の時期に合わせて前シーズンの贈呈式、および新シーズンのプロジェクトキックオフの会見を開き、選手の呼びかけで多くの方に参加してもらうプロモーションを実施しています。これまで5年間で60個以上のランドセルを寄贈しました。

新入学児童だけではなく、年間を通じて保護される母子の方々や、中には着の身着のままランドセルも持ち出せないで入所されるケース、海外からの難民受け入れで外国人児童への寄贈もあります。ランドセルは高価品で誰でもがすぐに入手しやすい物でもなく、それだけに連盟や協議会を介することで、より必要な時に困っている方の下へ届けることができる仕組みとなりました。



選手は「ゴールが誰かのためになる、1点でも多く取ろうと頑張れる。」とモチベーションになり、また賛同者はスタジアム応援の形で、みんなが社会参加でき笑顔のループを形成するサスティナブルで、たくさんのステークホルダーが関わるサッカークラブ、スポーツの力の成せる事業となっています。

近年は少子化や学校形体も多様化していますが貧困家庭や施設入所児童のいる状況は変わらず、まだまだ活動の輪を広げ新しいことにも挑戦し有意義な活用していきます。そして活動を通じて子どもたちに夢や希望を与え、サポートの輪が広がっていく事を期待しています。



ガイナレ鳥取

継続は笑顔なり。20年続けてつながった2つのシャレン 1/2

あの時あきらめなくてよかった。2022年クラブで作った芝生をみんなで運んで小学校を芝生化、その上で選手たちがこどもたちと本気で遊ぶ。2003年から続く地域のガキ大将づくり「復活！公園遊び」と2017年に始めた芝生で地域課題解決を目指す「しばふる」という2つのシャレンがつながることができました。

共通する言葉は「こどもたちの笑顔」。校庭の芝生化を進めたい行政、校庭で思い切り体を動かしてほしい先生方、クラブを応援して下さる企業。みなさんの想いとつながりで新たなシャレンの輪が生まれました。

活動場所 米子市はじめ鳥取県全域

協働者

行政、企業、学校、NPO

協働者名

米子市、本田技研株式会社(HONDA)、三光株式会社、ミライズ永伸商事株式会社、株式会社チュウブ、有限会社岡田商店、株式会社まるごう、鳥取県トライアスロン協会、NPO法人やまつきスポーツクラブ、鳥取県スポーツ課、鳥取市スポーツ課、米子市こども家庭課、境港市教育委員会、社団法人鳥取福祉会、境港市、鳥取市各小学校

協働者の声

米子市市長／伊木 隆司 氏



未来を担う子供たちが健康でたくましく育つよう、米子市ではガイナレ鳥取と協力し、「校庭の芝生化」を進めています。芝生で遊ぶ子供たちののはじける笑顔を見ると、私も一緒に遊びたくなります。ガイナレ鳥取は、地域の活性化に取り組む大切なパートナーであり、手を携え活動していきます。



活動詳細情報

- 1 [米子市HP](#)
- 2 [成実小学校芝生化の様子\(動画\)](#)
- 3 [Jリーグニュース](#)
- 4 [Jリーグニュース](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ガイナーレ鳥取

継続は笑顔なり。20年続けてつながった2つのシャレン 2/2

Story

「この校庭の芝生、ガイナーレがやったの？」

「そうだよ」「これ全部？」

「うん」「すげー」

そう言いながら目の前に広がる芝生の感触を確かめる選手たち。公園遊びが始まる前の会話です。

2022年「しばふる」でつくった芝生をクラブスタッフをはじめトップチーム、アカデミーの選手やスタッフ、ボランティア、保護者、先生方がバトンをつなぎ地元の小学校に5000㎡の芝生の校庭が完成しました。そして、できあがった芝生の校庭でトップチームの選手たちが子どもたちと「復活！公園遊び」をする、こうして2つのシャレンがつながりました。



シャレンがつながった

校庭芝生化の進め方を模索していた米子市や学校関係者の方々。クラブでつくった芝生で校庭を芝生化できないかと考えていたガイナーレ鳥取。そんな中で米子市が開設した公民連携対話窓口「いっしょにやらいや」に応募したのがきっかけでした。

結果、以下3つが採択されることになりました。

- ① ガイナーレ鳥取が米子市内で生産した芝生で校庭を芝生化すること
- ② 維持管理をガイナーレ鳥取のノウハウを活かしておこなうこと
- ③ ガイナーレが行う「復活！公園遊び」などを通して子どもたちと芝生広場の活用をすること

「芝生にしてよかった」「ふかふかできもちいい」

児童、保護者、先生方にアンケートを実施したところ「子どもたちの擦り傷が随分減りました！」「ロボットの導入で管理の心配がないから安心で」など多数の方が満足しているという結果になりました。



継続は笑顔なり

かつて活動を継続できないクラブ状況になった時、これだけは続けようとスタッフ総出で取り組んだことや、畑での膨大な作業にくじけそうな時もありましたが、いま振り返るとそれらを続けられたのも、つながりを生んだのもその先に地域の「たくさんの笑顔」があるからでした。これからも「継続は笑顔なり」を信じてガイナーレ魂で歩みを進めていきたいです。そしていつか親子のこんな声が聞こえてくる日がくるのを信じています。

「やっぱりそとであそぶのがたのしいね」
 「むかしガイナーレの選手とここの芝生を敷いて鬼ごっこしたんだよ。ほら、このメンコの選手と」



ファジアーノ岡山

あつまれファジ商店街！～学生連携シャレン！企画～ 1/2

岡山に貢献したい学生と地域の課題解決を学生団体とクラブが連携し学生募集を行い、多くの学生メンバーが集結。商店街や企業からの理解・協力を得るため、学生たちとクラブで何度も会議を重ね考案した。約5カ月間の準備期間を経て、9月24・25日に奉還町商店街、およびホームゲーム会場で「あつまれファジ商店街」を実施。コロナ禍で、子どもたちの「交流」の場や、心の「繋がり」が希薄化している中、奉還町商店街が「交流」の場として子どもたちの新たなコミュニティ作りのきっかけになることを目指した。

活動場所 奉還町商店街、シティライトスタジアム

協働者

企業、学生、商店街

協働者名

上智大学公認学生団体「Sircl(シャクル)」、おかやまプロスポーツ文化まちづくりサークルSCoP、奉還町商店街、地元企業

協働者の声

上智大学公認学生団体「Sircl(シャクル)」／内海 貴一 氏



シャレン！を通じ、首都圏学生と地方学生が繋がり、企業・自治体を巻き込みたいという想いに、ファジアーノ岡山をはじめとした協働者の方々には全力で応えていただきました。ファジアーノ岡山を楽しんできた学生サポーターが今度は楽しませる側へ、そして今度は活動を通じて、このサイクルがまた続いていって欲しいです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [山陽新聞](#)
- 3 [KSB瀬戸内海放送局](#)
- 4 [公式YouTube](#)
- 5 [学生団体Sircl「シャクル」公式YouTube](#)
- 6 [上智大生のためのキャンパスメディア](#)
- 7 [SCoP公式Twitter](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





ファジアーノ岡山

あつまれファジ商店街！～学生連携シャレン！企画～ 2/2

Story

上智大学公認学生団体「Sircle(シャクル)」と連携し、岡山県の地域課題やSDGs等の問題に取り組み地域貢献をしたい学生を募集しました。おかやまプロスポーツ文化まちづくりサークルSCoPの皆さんや多くの学生が「君と作るシャレン！社会連携プロジェクトwithファジアーノ岡山」企画の参加に応募してくれました。集結したメンバーでゼロから企画を考え、何度も会議を重ねていき、様々な地域課題がある中で学生たちが調べた結果、特にコロナ禍により人との「繋がり」、特に子どもたちの心の「繋がり」が希薄化したことがあげられました。そこで、ファジアーノ岡山のホームスタジアム「シティライトスタジアム」に近い奉還町商店街という場所で、



子どもたちの「交流」の場となるようなイベントを目指し、「あつまれファジ商店街」を実施。

9月24日、25日の2日間のイベントとして奉還町商店街にてイベントを開催しました。

5つのブースは、すべて学生の皆さんが企画・運営を行いました。SDGsについて学べるワークシートに楽しく取り組みながら学ぶブースや、まだ食べられる廃棄予定食品を用いたピザ作り体験などのブース、ファジアーノ岡山の選手のヘディングの高さを再現したパネルやキックターゲットといったサッカー体験ブースなどを運用しました。会場では各ブースをスタンプラリーで回る企画も実施し多くの子どもたちの楽しそうな声が商店街に響いていました。

2日目の25日にはホームゲームに合わせてスタジアムにも会場を追加し、開催。スタジアムでは、使わなくなったTシャツでエコバッグ作りブースやスタンプラリー景品交換などを運用し、1日目同様にたくさん子どもたちが参加してくれました。これらの活動に対して地元企業から、まだ食べられる廃棄食品や使わなくなった服等を提供していただきました。また、イベントを行うための場所を奉還町商店街からご提供いただきました。



ファジアーノ岡山の集客力、発信力と、学生の企画・思い、そして奉還町商店街の皆様のご協力、地元企業の皆様の物品提供など、それぞれの強みを生かして実施したこのイベントは、サッカーを通じて地域の課題に取り組むことができました。サッカーは年齢、職業などの枠を超え人と「繋がる」きっかけになると改めて実感し、この活動を通じて、これからもクラブがハブになって地域課題の解決に取り組んで参りたいという思いが強くなりました。



サンフレッチェ広島 ぶち紫大作戦 1/2

クラブ創立30周年を迎えた2022シーズン。サンフレッチェ広島は、広島県内の新小学1年生すべてを対象に、紫色のオリジナルキャップを贈呈する事業をスタートさせた。株式会社高宮運送様協力の元、広島県教育委員会や県内23市町の教育委員会の承認を得て、約25,000人の児童に帽子を配布。広島東洋カープの赤いキャップが街にあふれる中、新小学1年生に紫の帽子を毎年贈呈することによって、6年かけて県内の小学校すべてを紫色に染める「ぶち紫大作戦」を計画した。ここ数年はコロナ過で外遊びをする子供たちの数も減り、運動不足も叫ばれている。地球温暖化の問題もあり、熱中症対策の意味も含めて活動を継続していきたい。



活動場所 広島県内の全小学校



協働者

行政、企業、学校

協働者名

株式会社高宮運送、広島県教育委員会、県内23市町の教育委員会、県内461小学校



協働者の声

株式会社高宮運送 代表取締役／高宮 徳和 氏



多くの子ども達から「帽子をずっと大切にします。ありがとう。」という声を頂いており、登下校で紫色の帽子をかぶった児童の姿を多く見かけるようになりました。今回の取組により、持続可能な環境・経済・社会の実現・貢献していくことを大きく宣言することにつながりました。広島という街のことについて皆が深く考えていく、街づくりの輪が一層広がっていることを確信しています。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [森崎浩司のFoot style\(YouTube\)](#)
- 3 [よんななニュース](#)
- 4 [中国新聞](#)
- 5 [さんふれ☆ぽと\(ファンブログ\)](#)
- 6 [NHKニュース](#)
- 7 [dmenuニュース](#)
- 8 [livedoorNEWS](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





サンフレッチェ広島 ぶち紫大作戦 2/2

Story

2017年にクラブ創設25周年企画として、小学1年生パスポート事業(パスポートサイズの手帳にスタンプを押印し、ホームゲーム全試合招待。来場数に応じて3回目、5回目、7回目、10回目にグッズをプレゼント)を開始した。低年齢の時から“本物”を感じる事でサッカー文化の醸成を図ろうと試みたが、申込者や来場数が年々減少していき、2019年には申込率が1.5%(25,000人の対象に対して380件)、1試合平均の来場者数は約3割(100名前後)まで落ち込んだ。見直しを迫られたパスポート事業は、コロナ過もあり2年間休止となり、2021年をもってわずか3年の稼働で終了した。

2022年のクラブ創設30周年を機に方針を交換。

試合会場に来てもらう招待事業から、新小学1年生



全員に帽子を配布することにより、サンフレッチェを“日常的に感じてもらう”方向へ舵を切った。この企画を実施するにあたり、広島県教育委員会をはじめ、県内23市町の教育委員会の理解もいただき、国立、公立、私立の小学校467校、約25,000人の新1年生に帽子を配布した。広島県は指定された制帽がある小学校がほとんどなく、近年の地球温暖化現象への危惧もあり、学校現場からは感謝の言葉を多くいただいた。また、コロナの感染状況が徐々に好転していく過程で外遊びの機会も増えてきた。熱中症対策という意味でも保護者からのお礼のメール、新聞への投稿などポジティブなフィードバックもたくさんいただいた。

帽子と言えば野球、野球と言えば広島東洋カープという土壌の中、街で見かけるのは赤いキャップばかり。つまり現状の「プチ紫」状態から、「ぶち紫(ぶち=とても、すごく、という意味の広島弁)」に反転するためには地道な活動が必要と考えた。毎年この活動を継続すれば、5年後の2027年には広島県内のすべての小学生が紫の帽子を保有することになる。普段の生活で“紫”を身に付けた子供たちや、それを見た周辺地域の住民の方々にとって、サンフレッチェ広島が身近な存在となっていくことを願っている。

初年度となった2022年は、趣旨に賛同していた



いただいた株式会社高宮運送様の協賛と、JリーグtoC施策予算で制作費用をカバーした。森崎浩司アンバサダー(広島市立基町小学校)、仙田社長(府中市立府中北小学校)が直接子供たちに帽子をかぶせる贈呈式が民放4局とNHKのニュースで報道され、WEBメディアでも広く周知された影響もあったからか、活動2年目となる2023年は、SDGsの観点から10社が協賛に賛同し、toC予算に頼らず自走できるようになった。

クラブ、各市町の教育委員会、学校、協賛企業の連携の元、サンフレッチェ広島の「ぶち紫大作戦」を今後も継続していきたい。2024年の新スタジアム開業、そしてその先に続く子供たちの笑顔のために。



レノファ山口FC ALSアクションデー 1/2

レノファ山口は、プロスポーツチームの持つ、「発信する力・繋げる力」を活かし、地域の課題解決に取り組んでいます。【ALSアクションデー】は、一般社団法人WITH ALS様とのご縁から始まり、田辺三菱製薬株式会社様の協賛の元、数多くの団体に関わり、神経難病であるALS(筋萎縮性側索硬化症)の疾患啓発を目的として開催させていただきました。ALS患者の皆様への観戦招待による当事者の参加だけでなく、地元高校生や、治療薬を製造されている従業員の参加など、多くの方々が、それぞれの立場からALSを捉え、発信することができました。



活動場所 維新みらいふスタジアム



協働者

企業、学校、学生、ファン・サポーター、スタジアム、選手、一般社団法人

協働者名

田辺三菱製薬株式会社、一般社団法人WITH ALS、株式会社オリイ研究所、日本ALS協会山口県支部、中村女子高等学校



協働者の声

田辺三菱製薬工場(株) 小野田工場管理部総務人事課/山西 崇 氏



ALS患者さんやそのご家族にサッカーを楽しんで頂くと共に、地元の中村女子高校の協力の下、ALS患者さん向けの焼き菓子(嚥下食)を体験して頂きました。レノファと応援するファンの皆様のおかげで、ALSという疾患の認知や理解に繋げる良い機会になりました。今後も難病と闘う患者さんへの支援に積極的に取り組んでいきます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [田辺三菱製薬HP](#)
- 4 [中村女子高等学校HP](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





レノファ山口FC

ALSアクションデー 2/2

Story

ALSは、世界で35万人、日本には約1万人もの患者がいますが、現在、治癒のための有効な治療法は確立されていないため、プロスポーツチームの接続力、発信力(訴求力)を活かし、ひとりでも多くの方にALSという病気の存在を知ってもらい、応援することが必要と考え「ALSアクションデー」を企画しました。

きっかけは、自身もALS患者で、一般社団法人 WITH ALSの代表理事として、認知啓発活動を行う、武藤 将胤さんとのご縁でした。

ALSの認知啓発を目的とした、武藤さんによる、視線入力機器を使用したDJパフォーマンスや、募金活動を検討する中で、企画をより大きく実施するために、協力していただける企業、団体を募り、



結果的に、山口県山陽小野田市にグループの事業所があり、ALS治療薬を製造されている、田辺三菱製薬株式会社、分身ロボットの「OriHime」を扱う、株式会社オリィ研究所、日本ALS協会山口県支部、中村女子高等学校の5団体が加わり、合計7団体による企画となりました。

当日は、県内のALS患者ご家族4組12名を招待し、試合観戦や武藤さんとの交流会の開催など、当事者を対象とした企画だけでなく、田辺三菱製薬株式会社の従業員の皆様も、30名以上が当日の企画運営に携わっていただき、普段直接出会う機会の少ない、患者の方々と薬を製造されている従業員の方々と繋ぐ機会を創出する事ができました。

さらに、地元の中村女子高等学校の調理科の学生にも参加いただき、田辺三菱製薬が展開する、ALS患者さん向け交流サイト「世界を旅するALSレストラン」で公開されている嚥下食のオリジナルレシピを参考とした、お菓子を作っていたいただき、来場者への配布や、募金活動を行い、若年層に対しても、ALSについて学ぶきっかけを提供することができました。

レノファ山口がハブとなることで、様々な地域のステークホルダーを繋ぎ、多種多様な観点からALSを認知する、大きな活動に繋がったと思います。



今後は本取組がサッカー界全体に広がり、ALSについての認知が広がるきっかけとなり、治癒のための治療法が確立されることを願っています。



カマタマーレ讃岐

「もったいない」を「ありがとう！」に・・・余剰食品を集め支援へ 2/2

Story

現在、全国でも社会問題とされている食品廃棄によるフードロス、コロナ禍において拡大している格差社会の問題をカマタマーレ讃岐はクラブとして何か出来ることはないだろうかと真剣に向き合い、香川県でも深刻化している食品廃棄に対し、マックスバリュ西日本株式会社・子供たちの未来を応援するオアシス丸亀と手を組み一つでも多く家庭などで余っている缶詰やお米、インスタント食品・レトルト食品・お菓子などの食品をスタジアム等に集め余っている食品を困っている人に使ってもらうという世界的には古くからある無駄のない循環システムの仕組みを取り入れスタートさせました。



このフードドライブの「もったいない」を「ありがとう！」にかえる趣旨のもとホームゲームのPikaraスタジアムで全10回実施し述べ余剰食品提供者数 401人 食品個数 2017個 食品総重量 409Kgが集まりました。

また高松市のスーパーマーケットであるマルナカパワーシティレインボー店でもカマタマーレ讃岐の公式マスコットの「さぬぴー」も出演し来店するお客様にフードドライブのご協力をお願いしました。お持ちいただく食品にもルールを決め・賞味期限の明記のあるもの・常温で保存できるもの・未開封の物など提供される側の安全・安心も確保しつつお客様をお願いをしてみました。県内の子ども食堂などでは新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で「食事の提供」という従来の活動に加え、「食材等の提供」も併せて行うなど多様な形態で支援活動を行うなどしています。一方まだ食べられる食品を廃棄するなどの「食品ロス」の問題も重要な課題となっております。このフードドライブをきっかけに、周囲の人への気配りや自分には何が出来る、出来ることに少しでも行動する暮らしの普及に繋がればよいと思いました。当クラブのホームページおよびSNSで告知し広く周知されるよう努めた結果、回を追うごとに提供者の人数や食品数も徐々に増えていきました。



当クラブではこの取り組みにおいて現状、香川県が抱えている社会問題の一環に今後も地域の企業、団体またサポーターの人々と連携しつつ続けていくことの重要性やまた違った形の地域課題解決方法が生まれることで社会問題が一つでも多く解決していくことでクラブの在り方を示していければと考えています。



徳島ヴォルティス

阿波(Our)Dream Project～ヴォルティスコンディショニングプログラムから～ 1/2

私達には夢があります。その実現には課題もたくさんあります。

まず、従来の貢献活動の拡大には資金、人員の面で限界がある。2つめは、我々のような地方のクラブが全国に発信できる取組みはできないか。そして3つめは、サッカーに関心がない人々に興味をもってもらうにはどうしたらいいか。こんな思いから2019年より健康づくりを推進する美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラムに取組み、その後、OBOG会としてヴォルティスコンディショニングクラブを立ち上げ、やりっ放しではなく参加者の方々と繋がりを継続しています。

 **活動場所** 美馬市

 **協働者**

行政、企業、住民、学校、協議会、地藏寺(四国霊場第五番五百羅漢)

協働者名

美馬市 未来創生局 美と健康のまち推進課、大塚製薬株式会社徳島営業所、株式会社R-body、株式会社タニタヘルスリンク、株式会社阿波銀行、河野一郎先生(筑波大学名誉教授)、明治安田生命保険相互会社徳島支社、株式会社日本総合研究所、こおざとまちづくり協議会、地藏寺(四国霊場第五番 五百羅漢)

 **協働者の声** 美馬市 未来創生局 美と健康のまち推進課／大島 直子 氏



徳島県美馬市が目指している「美と健康のまちづくり」に向けた目玉施策として、徳島ヴォルティスさんを中心に大塚製薬さん、R-BODYさんなど多数の関係者と様々な形態で連携しながら推進しております。取組みを通じて、健康増進に関する取組みの広がり、市民の健康リテラシー向上と、笑顔が増えていっていると感じています。



 **活動詳細情報**

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [講演セミナーの案内](#)
- 3 [公式サイト②](#)
- 4 [公式YouTube](#)
- 5 [ホームタウン活動日記](#)

 **カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





徳島ヴォルティス

阿波(Our)Dream Project～ヴォルティスコンディショニングプログラムから～ 2/2

Story

私達はホームタウン、シャレン活動において特に、私達が出来る地域の課題解決に取り組むことに重点を置き、従来のホームタウン活動を更に発展させるためにも事業化が必要であり、美馬市版SIBヴォルティスコンディショニングプログラム(VCPG)としてぜひ挑戦したいと考えました。

美馬市を選定した理由は2018年当時、4市4町のホームタウンで最も高齢化率が高い(約37%)ことから。

参加者は20歳以上の市民。週1回の集合トレーニングと自宅でのトレーニングを8週間が1クール。期間は2019年より5年間。事業の概要:プログラム実施はヴォルティス、栄養は大塚製薬、運動プログラムはR-body、ICTはタニタヘルスリンクが担当。



成果連動型のKPIは①参加者の運動習慣化(目標値60%) ②65歳以上、介護予防マニュアル基本チェックリスト3項目該当者の改善(目標値70%)

KPIは初年度以外達成。2019年から今までの参加者数は1,400名に対して907名。これは2019年度途中からコロナ禍で2020年度途中まで中止だったのが大きな理由。平均年齢58.3歳。最も多い年代別参加者は60代。男性:女性の比率は、2:8。

4年間実施して、みなさんの笑顔を見ていると、痛みの改善だけでなく、ココロの改善にもなっています。

次に2021年、OBOG会としてヴォルティスコンディショニングクラブ(VCC)を発足。これは卒業してそれで終わりではなく、その後も一緒に運動や楽しい企画をやっていくことが目的。2年間で16回実施。

コンディショニングの他に、ゆる～い大運動会は昨年に続き今年も実施。参加者が主役の競争がない運動会。また、四国が世界に誇る八十八か所のお遍路。今年はず1番霊山寺から5番地蔵寺までの11キロを「歩き遍路」で実施。みなさん笑顔で完歩！



私達はいつも想っています。「楽しいことを楽しくやっている、その楽しさはみなさんに伝わる」と。

これからも地域のみなさんと一緒に身体を動かし、笑顔溢れるまちづくりに貢献する、これが私達の夢プロジェクトです。



愛媛FC

愛媛FCホームゲーム『SDGsデー』 1/2

愛媛FCはこれまで、環境啓発運動『COOL CHOICE』への賛同やホームゲームでの古紙回収など、積極的にSDGs活動や環境問題啓発への取組に関わってまいりました。今回はホームゲームをSDGsデーとして、10/16(日)に開催された愛媛FC vs ギラヴァンツ北九州戦にイベントを実施しました。ホームゲームで、愛媛FCがこれまで取り組んできた活動を集約したことでホームゲーム来場者にも、SDGsと一緒に考え取り組む機会を創出することが出来ました。



活動場所 ニンジニアスタジアム(愛媛県総合運動公園)



協働者

行政、企業、学校、学生、
社会福祉法人

協働者名

松山市、松山市中央児童センター、明治安田生命保険相互会社松山支社、株式会社ハート、伊予高等学校



協働者の声

株式会社ハート／代表取締役社長 杉崎 晋哉 氏



お菓子をスーパーで販売する際、製造日からの納品期限があり、賞味期限が十分あるのに販売できない商品は最終廃棄することが社内課題でした。今回愛媛FC様のご協力で、たくさんの地域の来場者に弊社の美味しさと楽しさを十分に味わって頂けた機会に感謝いたします。来年度以降もこの取り組みを継続し、食品ロスを削減していきます。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[公式YouTube](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





愛媛FC

愛媛FCホームゲーム『SDGsデー』 2/2

Story

近年SDGsの啓発運動や啓発活動は、愛媛県でも積極的に行われてまいりました。愛媛FCとしてもそのような啓発活動に積極的に携わることで感じていたのは、啓発をするだけでなく、私たちもこのような活動に取り組んでいかなければいけないということです。2022シーズンは特にこれまで行ってきた取組を今一度見直すと同時に、愛媛FCのホームゲームを『SDGsデー』として打ち出すことで、ホームゲームに来場したお客様と共に取り組んでいきたいと考えました。

当日行った活動としては、

①松山市環境モデル都市推進課様ご協力のもと、フードライブ活動を実施⇒後日フードバンク団体へ寄付

②株式会社ハート様ご協力のもと実施した、賞味期限の近いお菓子を来場者に配布する食品ロスの問題を解決する活動の実施

③明治安田生命保険相互会社松山支社様によるJリーグウォーキングや健活ブースの設置といった健康な体づくりに対する取組の実施

④松山市中央児童センター様ご協力のもと実施した、エコバックの製作の実施

⑤伊予高等学校様ご協力のもと実施した古着回収と古着の譲渡会

⑥デロリアンの車両展示を行いEV車のPR活動

来シーズン以降も継続的に『SDGsデー』を行い、愛媛FCを中心とした活動を地域の皆さまと共に作り上げていくことで、ひいては愛媛県の地域の課題解決にも繋がる取組を今後実施していくことが出来たらと考えております。愛媛FCサポーターの皆さまを中心とした、新たな輪を広げていくことで共にSDGs活動へ取り組んでいき、新たな活動を生み出していきたいと考えています。





FC今治

市内小学生への環境教育冊子の寄贈 1/2

FC今治は、ソーシャルインパクトパートナーのデロイトトーマツグループと環境教育冊子「わたし、地球」を共同作成し、今治市教育委員会へ約1400冊を贈呈いたしました。この環境教育冊子は、今治市教育委員会を通して、今治市内の公立小学校に在学する小学4年生全員に配布されました。FC今治の「次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを、大切に作る社会創りに貢献する」という企業理念のもと行っている環境教育事業と、デロイトトーマツグループの「WorldClass」とで、互いにシナジーを生めないか、と考えて実施したものです。



活動場所 今治市教育委員会、今治市内公立小学校



協働者

行政、企業、学校

協働者名

デロイトトーマツグループ、今治市教育委員会、今治市内公立小学校



協働者の声

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 CMO / 宮下 剛 氏



『わたし、地球』は、地球が誕生してからの46億年の歩み、たくさんの生き物が命のバトンをつないで生命が循環していく様子、SDGsをイラストとともに描いています。小学生が楽しみながらSDGsに取り組む必要性を感じ、主体的行動に繋がるきっかけのひとつになればと思います。



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

3

[公式サイト③](#)



カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ





FC今治

市内小学生への環境教育冊子の寄贈 2/2

Story

環境冊子「わたし、地球」とは？

環境教育冊子「わたし、地球」は、弊社が今治市より指定管理委託を受けている「しまなみアースランド（今治西部丘陵公園）」にて今治市内の小学5年生向けに実施している環境教育プログラムをもとに製作したものです。

一度の経験だけでなく、繰り返し環境を考える機会となるような継続性のある教育となることを目的として制作しました。

環境教育プログラムのメッセージを、地球自身が語るという構成の絵本となっています。



地球のこれまでのこと、これからのこと、そしてこの地球に暮らす生き物たちのこと…。優しいイラストと共に、大切なメッセージが語られています。大人が読んでもハッとすることがある内容になっています。

環境教育プログラムとは？

環境教育プログラムについては、「北の国から」で有名な脚本家の倉本聰さんが考案し、倉本さんが主宰している富良野自然塾で行われているプログラムをアースランドでも実施しています。

研修を受けて資格を取得したインストラクターが自然の大切さや地球の構造、生き物の誕生の歴史といったものを、地球の46億年の歴史を460メートルの道に置き換えて案内するプログラムです。環境問題という堅苦しくてとっつきにくいイメージがありますが、脚本家である倉本さんらしく、ドラマチックに作られていて、頭で理解するというよりも心で理解するものという内容になっています。環境教育プログラムは、今治市の教育委員会と連携して、市内のすべての小学5年生が参加しているだけでなく、企業研修で導入されていたり、一般の方の受け入れも行ったりしているので、年間1600人程度の参加者がいます。



今後の展望

環境教育プログラムが単発の楽しい遠足で終わってしまい、我々の想いの定着には至っていないという課題を、環境教育冊子「わたし、地球」を作成することにより解決し、継続性のある教育をすることが、少しずつできてきました。

今後は、小学4年生以外の学年にも冊子を配布し、例えば毎年夏休みに環境のことを意識してもらうというような形に発展できたらと思っています。



アビスパ福岡

ブラインドサッカーを通じた共生社会の創出 1/2

アビスパ福岡では2004年度より、ブラインドサッカーチーム「ラッキーストライカーズ福岡」の活動を支援しており、チーム強化や普及活動に取り組んでいます。また福岡市から委託を受け、2014年より小学4年生の総合学習の授業で「ブラインドサッカー教室」を実施しており、「工夫・チャレンジ・協力」をテーマに授業を実施。ユニバーサルデザインの理念に基づいた、誰もが思いやりを持ち、全ての人に優しい街「ユニバーサル都市・福岡」実現の為、ブラインドサッカー教室を通して視覚障がいについて体験し、学んで頂く事が目的です。2023シーズンはパートナー企業と連携し、より多くの関係人口を創出し、共生社会への理解・サポートを推進します。

活動場所 福岡市内、福岡県内

協働者

行政、企業、学校、ファン・サポーター、民間団体

協働者名

ラッキーストライカーズ福岡、福岡市、パナスタ博多、パートナー企業(複数社)

協働者の声 ラッキーストライカーズ福岡選手／児島 大介 氏



小学校での体験授業では、点字ブロックや音声信号など視覚障害など福祉への理解が年々高まっていると感じます。また、選手の話にも真剣に耳を傾けてくれて、時に深い質問も飛び出すので、こちらでも毎回新鮮な気持ちで参加させてもらっています。今後も、競技や福祉へ関心を持ってもらう為、普及活動を継続していきたいです。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [ホームタウン活動ブログ](#)
- 3 [西日本スポーツ](#)

SDGs カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





アビスパ福岡

ブラインドサッカーを通じた共生社会の創出 2/2

Story

コロナ禍によりコミュニケーションの希薄化がさらに加速したと言われておりますが、ブラインドサッカーはまさにコミュニケーションが重要なスポーツです。「見えない」状態で、お互いのコミュニケーション、仲間への信頼など常日頃から私たちのまわりで大切にされていることがとても重要になります。それは福岡市が目指しているユニバーサル都市の実現にも寄与するもので、2014年より小学4年生の総合学習の授業で「ブラインドサッカー教室」を実施しており、コミュニケーションを通じ「工夫・チャレンジ・協力」をテーマに合計4,000名を超える子どもたちへ授業をしております。

また、小学校の授業以外では、「コミュニケーションスキルレベルアップ体験会」と題し、ブラインドサッ



カーやデフサッカーの選手と一緒にコミュニケーションを取りながら様々なゲームにチャレンジしたり、少年院をブラインドサッカー選手、トップチーム選手及びスクールコーチで訪問し院生と一緒にブラインドサッカー体験会を実施しております。視覚障がい者は見るのが苦手で、聴覚障がい者は聞くのが苦手です。身長が低い人は高い所にあるものをとるのが苦手ですが、身長が高い人は高い所には手が届きます。人には人によって苦手なことがあるのは当たり前で、その苦手なことをちょっと工夫・チャレンジ・協力していくことでできることが増えます。どんな工夫をして誰とどんな協力をすればよいかチャレンジすることが世の中の多くのことを解決していくことに繋がると私たちは考えており、ブラインドサッカー教室や体験会を通じたたくさんの方々へお伝えできればと活動しております。このような活動を知り、ファン・サポーターの方でラッキーストライカーズ福岡の練習や遠征等をお手伝いいただく方も増えております。誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち「ユニバーサル都市」の実現のため、引き続き活動してまいります。





ギラヴァンツ北九州

オリヒメプロジェクト～距離や障害を乗り越えた社会へのチャレンジ～ 1/2

ギラヴァンツ北九州は、分身ロボット「OriHime(オリヒメ)」を活用して外出困難な方々の社会参画促進を目的に、2021年よりオリヒメプロジェクトを始動。2021年は、自宅等の遠隔地からスタジアム来場者との交流を図っていただくことから実証実験を実施。今年は、もう一歩進化させ、運営スタッフの一員として、ファンクラブブースやVIP招待者の受付業務を担っていただきました。プロジェクトの実施にあたり、一般社団法人ミオパチーの会、株式会社オリイ研究所との協働により、9月以降のホームゲーム6試合で実施しました。



活動場所 ミクニワールドスタジアム北九州



協働者

行政、企業、スタジアム、ファン・サポーター、一般社団法人

協働者名

株式会社オリイ研究所、一般社団法人ミオパチーの会



協働者の声

一般社団法人ミオパチーの会代表理事／伊藤 亮 氏



障害や難病があっても人の役に立ちたい。おもてなしをしたい。これまで出来なかったことがテクノロジーとの融合により出来るに変わること、障害や難病を抱える方々が自宅からロボットを遠隔操作して会話をし6試合にて受付業務で活躍してくれました。ギラヴァンツ北九州と歩むこの取り組みを応援いただけたら嬉しいです。



活動詳細情報

- 1 [毎日新聞](#)
- 2 [一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会HP](#)
- 3 [公式サイト](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ギラヴァンツ北九州

オリヒメプロジェクト～距離や障害を乗り越えた社会へのチャレンジ～ 2/2

Story

2021年、分身ロボット「OriHime(オリヒメ)」を操作して、カフェでの接客業務で活躍する先天性ミオパチーの会の代表と出会い、外出困難な方が日常生活を送るうえで様々なハードルがあるという現実を改めて認識しました。先天性ミオパチーの会は、北九州市を拠点に、国指定の難病である先天性ミオパチーの早期根治を目標として、様々な啓発活動や研究活動などを行っている団体です。この代表の方とお話をする中で、Jリーグ公式戦でタイアップした活動ができないかの模索が始まりました。当初、ビジターサポーターへの観光案内というテーマで検討を進めましたが、行政や関係機関の方々とも協議を重ねる中で、まずはオリヒメを通じてスタジアム



来場者とコミュニケーションを図っていただく、つまり自宅にいる外出困難な方とスタジアムにいるファン・サポーターの方々がオリヒメを通じて交流を図ることを目的として、先天性ミオパチーの会と協働した実証実験を行いました。ここでの実証実験を踏まえ、2022年からは「先天性ミオパチーの会」だけでなく、オリヒメの開発元でもある株式会社オリイ研究所にも協働者として加わっていただき、ホームゲーム当日、外出困難な方には運営スタッフの一員として遠隔地からオリヒメを操作してもらい、ファンクラブブースやVIP招待者の受付業務にあたっていただきました。遠隔地からオリヒメを操作する方をパイロットと呼びますが、パイロットの方の手配や研修等に関する部分をオリイ研究所に、当日スタジアムでのサポートを先天性ミオパチーの会にそれぞれ担っていただき、クラブでは全体管理を行うとともに、パイロットの方が業務に従事しやすいように対応マニュアルの策定などに取り組みました。普段接することのない東京都や島根県などに在住する方にパイロットとして遠隔地から従事してもらう中で、「全国どこにいてもネットがあれば人と関わる仕事ができるのは大きい」と言っていただき、このプロジェクトの意義を再認識しました。



今後は、協働者を増やしながら、外出困難者の就業機会を創出するという社会課題の解決に継続的にアプローチしていきたいと思っております。



サガン鳥栖

サガン鳥栖のユニフォームでエコバックを作ろう 1/2

ホームゲームで配布した余剰となっていたユニフォームをリユースしエコバックをつくるワークショップを開催。佐賀大学インターフェース科目スポーツイベントとボランティアリーダー授業にて佐賀大学生自らがサガン鳥栖・佐賀大学・地域の課題を解決する企画を立案。鳥栖まちづくり推進センターとも協働しワークショップを実施。夏休みは鳥栖地区の子ども向けに開催。そのワークショップを知った大人がまちづくり推進センターへ開催希望され、12月には大人向けのワークショップも実現し、エコバッグのみならず、ナップサックやエプロンなど制作し、来年度以降、小学校の裁縫の授業での取り組みを目指すことになっています。



活動場所 鳥栖まちづくり推進センター



協働者

学校、学生、協議会、元選手

協働者名

鳥栖まちづくり推進センター、佐賀大学、鳥栖地区青少年育成会



協働者の声

鳥栖まちづくり推進センター／重松 彰彦 氏



環境を切り口に子どもたちへのサガン・ドリームスと佐賀大学のSDGsの取り組みに共感し、鳥栖まちづくり推進センターとして協働させて頂きました。実際に開催し、子どもたちのリアクションを見て、やって良かったと感じました。子どもたちだけでなく、高齢者の方たちへも企画が広がり、これからは是非続けていきたいイベントとなりました。



活動詳細情報

1

[NHKニュース](#)



カテゴリ（SDGs）／取り組みテーマ





サガン鳥栖

サガン鳥栖のユニフォームでエコバックを作ろう 2/2

Story

4月、佐賀大学インターフェース科目スポーツイベントとボランティアリーダー授業に毎週参加することになり、サガン鳥栖の社会連携活動についても一緒に取り組むことになった。そんな中一つのグループが「SDGs」の課題に取り組む企画を立案。その中でサガン鳥栖が毎年、記念試合等で配布する記念ユニフォームに余剰があることに着目し新しい使い道を提案。ユニフォームをエコバッグへ様変わりさせることで、再利用、学び、コミュニティづくり、ファン拡大など様々な効果に派生していくことも考え、次の解決課題を目的として提案。子どもでも簡単に取り組むことができるように、ハサミだけあれば制作可能なエコバッグづくりに取り組みました。



【解決課題／目的】

- ・ユニフォームの新しい使い道を提案
↳マイバッグの普及
- ・ユニフォーム再利用の可能性の提案
↳リサイクル意識の醸成
- ・簡単につくれるエコバッグの提案
↳小学生へ環境課題への提案
- ・SDGsへの学びにつなげる

同じように地域での社会連携活動を考え、同じような思いを持たれていた、鳥栖まちづくり推進センターの方から、夏休み子ども向け企画についてサガン鳥栖へ相談があり、協働して実施することへ快諾をいただき実施。

小学校へのチラシ配布、募集、受付、場所の提供などまちづくり推進センターにご協力をいただき、まずはスモールスタートで夏休みにワークショップを実施。佐賀大学のボランティア学生も子どもたちに寄り添いながら作業を丁寧にフォロー。大学生にとっても子どもたちに教えることへの難しさも新たな学びになったり、取り組んだみんなにとって新しい発見の連続でした。

そんな中、夏休みの取組みを知った方が、大人向けのワークショップも開催してほしいとまちづくり



推進センターへ問い合わせがあり、12月に開催し、エコバッグの制作と同時に、課題や新しい制作物の提案を行っていただく時間としても設定しました。大人の時間では給食用エプロン、ナップサック、枕カバー、クッションカバーなど、ちょっとひと工夫することでできる作品づくりになりました。

【これからの取組み】

コンテストの開催など、参加者が楽しみながらリサイクル活動の実施や、小学校高学年から始まる家庭科での裁縫の時間にサガン鳥栖の素材を活用するなど、子どもたちの学習へつなげる取組みを目指しています。



V・ファーレン長崎

長崎の海を学んで、守って、特産品を食べよう！ 1/2

日本で2番目に長い4,183kmの海岸線を持つ長崎県。国内・国外からの大量の海岸漂着物等によって、海岸環境の悪化や海岸機能の低下、漁業への影響等が引き起こされている現状がある。V・ファーレン長崎は少しでも現状を改善できればという思いから、今年、パートナー企業、大学や高校と協力し、海岸清掃活動に力を入れ、年2回の清掃活動を行った。また、水産県である長崎の地域PRとして、清掃をした海から獲れる魚の水産加工品にも着目。蒲鉾店と協力し魚から蒲鉾をつくる工程を経て食べるまでを取り組んだ。



活動場所 黒崎海岸、野母崎海岸



協働者

企業、学校、学生

協働者名

長崎大学 ながさき海援隊、株式会社杉永蒲鉾、日本たばこ産業 長崎支社、長崎南高等学校、V・ファーレン長崎アカデミーU-15



協働者の声

長崎大学 ながさき海援隊／小林 大瞬 氏



長崎市の海岸で清掃活動を一緒に行いました。清掃では、ゴミを拾うだけでなく拾ったゴミの分別にもご協力いただきました。また、V・ファーレン長崎の皆様と一緒に清掃できたことで、地域の方も巻き込んだ清掃を行えました。これをきっかけに地域の方々も巻き込んだ清掃活動を目指して行きます。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト①](#)
- 2 [公式サイト②](#)
- 3 [公式サイト③](#)
- 4 [ながさき海援隊Twitter](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





V・ファーレン長崎

長崎の海を学んで、守って、特産品を食べよう！ 2/2

Story

長崎県の海岸線には年間約9,000tの海岸漂着物があり、自治体から海岸清掃への協働希望がクラブに寄せられている。2017年から清掃活動をクラブでも取り組んでいるが、今年は新たに地元企業や教育機関とクラブが協働する取り組みとして、海岸清掃を年2回、水産県である長崎の魚が原材料の特産品のPR活動を実施した。

■海岸清掃活動

県内の海岸漂着物についてクラブと大学とで勉強会を実施。海洋ごみが生態系に与える影響と清掃



活動の必要性を学んだ。その後、清掃活動1回目は長崎市黒崎海岸で選手やクラブスタッフ、クラブマスコットも参加して行い、約2時間の活動で、燃えるゴミ21袋、ペットボトル8袋、燃えないゴミ1袋を回収。2回目は、長崎市野母崎海岸でクラブのアカデミー生U-15の選手、スポンサー企業のJT、長崎県立長崎南高等学校の生徒が参加して、約2時間で燃えるゴミ49袋、燃えないゴミ1袋、ペットボトル14袋を回収。長崎市内だけでも多くの漂着物があり、離島が多い長崎県では更に大量の漂着物が想像できる。今後、企業・行政と連携して清掃活動を継続実施する。

■特産品を食べよう！

長崎は水産県として、海のめぐみも豊富である。漁獲量全国第3位、魚種は250種を超えて全国1位、魚肉練製品の輸出金額も全国1位。海岸清掃を行った海から獲れる魚を原材料にした、特産品のかまぼこ類。その魅力発信と県産品をPRしてCOVID-19



の影響で落ち込む売上に貢献をしたいという想いで、魚から作られるかまぼこを製造している株式会社杉永蒲鉾と取り組んだ。工場見学で説明を受け、加工品の一定の品質維持の工夫と管理体制の必要性を学び、改めて特産品の美味しさを見直した。選手も試食し美味しさをPRした。今後、かまぼこを使った商品をスタジアムグルメで販売したり、クラブの寮のメニューにと県産品を消費する取り組みへと繋げていく。



ロアッソ熊本

「熊本の生物多様性はロアッソが守る！」2022シーズン3部作活動 1/2

熊本市は人口73万人を超える政令指定都市でありながら、市中心部には豊富な水、水生生物を育む市民の憩いの場所である「江津湖」、西に「金峰山」や「有明海」、また少し足をのばせば、「阿蘇」や「天草」など県全体で考えると大変自然の豊かな地域である。熊本市は私たちにたくさんの恩恵を与えてくれる自然を守るため、生物多様性保全と持続可能な利用に向けた基本的かつ総合的な計画「熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもと Cプラン～」が策定されている。ロアッソ熊本では、市民への生物多様性保全の重要性を知るきっかけ・考えるきっかけを伝えるべく、この活動をシリーズ化することで継続して行った。



活動場所 熊本市えがお健康スタジアム周辺 熊本市江津湖



協働者

行政、住民、ファン・サポーター、選手

協働者名

熊本市役所環境局環境推進部環境共生課、ロアッソ熊本をJ1へ県民運動推進本部、環境省九州地方環境事務所



協働者の声

熊本市環境局環境推進部環境共生課／北村 聡 氏



生きモノの調査や、外来生物の駆除には多くの労力を要し、行政だけではマンパワーにも限界があるため、親子を中心とした多くのサポーターや選手たちにご協力いただき、非常に助かりました。これらをきっかけに市内の生きものについて興味・関心をもっていただき「生物多様性」について考えてもらえるとう嬉しく思います。



活動詳細情報

- 1 [公式サイト](#)
- 2 [公式サイトFacebook](#)
- 3 [公式Twitter](#)
- 4 [公式Instagram](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





ロアッソ熊本

「熊本の生物多様性はロアッソが守る！」2022シーズン3部作活動 2/2

Story

熊本市の豊かな自然環境の保全と持続可能な利用に向けた基本的かつ総合的な計画として「熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもと Cプラン～」が平成28年に策定され、熊本市を中心に様々な取り組みがなされています。その一環として令和元年より、自然環境に関する情報収集、整理把握することを目的として行われている「市民参加型セミ調査」というものがあります。昨年、熊本県の地元新聞「熊本日日新聞」の記事でこの調査のことを見た瞬間に、運命的な出会いを感じたホームタウン担当者はすぐに熊本市環境共生課に連絡し、担当の北村さんとクラブマスコットのロアッソくん、当時のクラブアンバサダー・片山奨典氏と一緒に現場に赴き、指導を受けながら、調査を行いました。



この活動を通じ、初めて生物多様性という言葉や、それを保全することが将来の私たちの生活にとっても非常に重要なことだという意味を知りました。ロアッソ熊本はサッカーチームであり、生物多様性を守る専門家ではありません。しかし、選手やクラブスタッフがその重要性を知ることにより、ロアッソ熊本ができることをやってみて、またそれを発信することで、生物多様性という言葉やその重要性を発信することが出来ます。

そのため、ロアッソ熊本の選手やスタッフ、サポーターのみなさんに実際に体験してもらい、学んでもらう活動を企画し、活動の継続性やストーリー性のためにその活動を「熊本の生物多様性はロアッソが守る！MISSION1・2・3」とシリーズ化して行いました。

MISSION1では、環境省九州地方環境事務所も駆除のために様々な広報活動を行っている特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除をスタジアム周辺で行い、周辺住民の方へも駆除の依頼や方法を伝えました。また地元TVでも取り上げられ、「オオキンケイギク」の存在を大きく発信することができました。

MISSION2では、ホームゲーム開催時に、サポーターのみなさんに参加してもらい、スタジアム周辺でのセミ調査を行い、セミ調査の意味や生物多様性



の意味を知ってもらうきっかけを作ることができました。

MISSION3では、熊本市の湖「江津湖」の外来生物の状況を熊本市動植物園に学びに行き、その後のフィールドワークでは、ブラックバスやカムルチーなどの外来生物を釣った際の回収ボックスを見学、また実際に釣り竿をもって、外来魚の駆除にチャレンジしました。残念ながら駆除ミッションは失敗に終わりましたが、外来魚についての発信というミッションは達成できたことと思います。

今後は、更にとくさんの団体・人たちと一緒に、生物多様性の保全についての活動に取り組んでいき、地域の人たちが自分たちで考え・実践できる保全活動のきっかけを作っていきたいと思っています。



大分トリニータ

「古着deワクチン」で世界の子どもたちの未来をアシスト 1/2

多くのサポーターが集まるスタジアムのホーム戦で何か社会貢献活動はできないか？から始まった「古着deワクチン」活動。各家庭で持て余している不要な衣類を回収し、開発途上国にポリオワクチンを寄付するNPOの仕組みを活用して、ホームだけでなく、アウェイ戦でのクラブとも一緒に活動を広げていくことに、ネットワンシステムズ様と共にチャレンジしました。ホーム&アウェイのサポーターの協力の元、1,555人分のワクチン寄付を実現。障がい者施設での衣類の選別作業の雇用や、サステナブルな衣類の再利用にも繋がっています。

活動場所 昭和電工ドーム大分、アウェイチームスタジアム(千葉、山形、大宮、金沢)

協働者 | **協働者名**

企業、NPO、ファン・サポーター、スタジアム、ボランティア、プロスポーツクラブ

ネットワンシステムズ(株)、日本リユースシステム(株)、認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会、日本文理大学、モンテディオ山形、ジェフ千葉、大宮アルディージャ、ツエーゲン金沢

協働者の声 ネットワンシステムズ(株) / 風間 純子 氏



地域に密着したJリーグクラブの特徴を生かし、ホーム及びアウェイチームと協働で実施できる社会貢献活動としてスタートしました。試合当日の「集客力」を活用し、多くのサポーターや学生ボランティアにも参加していただき、SDGsへの意識向上の機会の創出や人材育成と、クラブや参加企業の価値向上にもつながっています。



活動詳細情報

- 1 [古着deワクチン回収報告](#)
- 2 [世界の子どもにワクチンを 日本委員会HP](#)
- 3 [ネットワンシステムズ活動報告①](#)
- 4 [ネットワンシステムズ活動報告②](#)

SDGs | カテゴリー(SDGs) / 取り組みテーマ





大分トリニータ

「古着deワクチン」で世界の子どもたちの未来をアシスト 2/2

Story

大分トリニータは「スポーツを通じた社会貢献活動」を様々なアプローチで実施しています。その中の1つの活動として、スタジアムに駆けつけてくれる多くのサポーターと一緒に何かできる社会貢献活動は出来ないか？の視点で企画したのが、「古着deワクチン」のブース出展でした。

「古着deワクチン」とは各家庭にある不要になった衣類などを、販売されている専用の回収キットに詰めて送るだけで、一袋5人分のポリオワクチンを開発途上国の子どもたちに寄付することが出来るNPOと企業が開発した仕組みです。



回収された衣類は、障がい者の方が働く施設で選別作業が行われ、その衣類は海外で再販されるなど、多くの雇用機会の創出と、モノを大切に使うというサステナブルな再利用にもつながっています。2022シーズンの4月より毎試合ホームゲーム時に実施スタート。当初は認知度も低く、思ったよりも回収が伸びなかったのですが、徐々にサポーター間で浸透し始め、GW明けには毎回10袋(Tシャツで1,000枚相当)を超えるほどになっていきました。サポーターの方や、ボランティア参加の地元の大学生の皆さんのSDGs活動に対する意識の高さに驚きました。

また、もう一つのチャレンジはアウェイでの実施でした。ホームとアウェイのクラブが共同で地域や社会に貢献していく。賛同していただいたモンテディオ山形様、ジェフ千葉様、大宮アルディージャ様、ツエーゲン金沢様に感謝すると同時に、今後、他のクラブや、自治体の環境保全イベントなどにも活動を拡大していきたいと考えています。



1年間の活動結果として、延べ2,870人の方にご参加いただき、1,555人分のワクチンを届けることができました。サッカーを応援する人たちが集まり、自分たちでできる範囲で誰かの役に立ち、世界の子どもたちの命を救うことができる。地域に密着するクラブだからこそその活動を継続していきたいと思えます。



テゲバジャーロ宮崎

愛あるごはんを届けよう！プロジェクト 1/2

全ての公式戦で勝利した場合、協賛企業の皆様から集めた食材や備品を子ども食堂にお届けするプロジェクトです。2年目の活動となった2022年は、ホームタウンである宮崎市・新富町・西都市の子ども食堂に計12回届けることができました。「クラブは試合に勝利し、届けよう」、「協賛企業の皆様と一緒に届けよう」、「サポーターの皆様を応援を後押しに勝利し、届けよう」という想いのもと、選手、協賛企業様、サポーターの皆様と一緒に愛あるごはんを、引き続き多くの子どものために届けられるよう、この活動を大きくして参ります。



活動場所

支え合いの地域づくりネットワーク、宮崎市内の子ども食堂、新富町内の子ども食堂、西都市内の子ども食堂



協働者

行政、企業、NPO

協働者名

支え合いの地域づくりネットワーク、江夏商事ホールディングス株式会社、株式会社イートスタイル、宮崎県農協果汁株式会社、児湯養鶏農業協同組合、ヤマエ食品工業株式会社、JA宮崎中央青年部、宮崎市役所 子ども未来部 子育て支援課



協働者の声

支え合いの地域づくりネットワーク／黒木 淳子 氏



昨年度から始まったプロジェクト。今年度もたくさんのご支援を頂き、感謝申し上げます。ある子ども食堂で「明日、テゲバの試合を見に行くよ」と嬉しそうに話してくれた子ども達の笑顔が忘れられません。子ども食堂は人を豊かにする場所でもあります。子ども達が、スポーツを通して、心の豊かさを体験していると思います。



活動詳細情報

- 1 [公式Twitter①](#)
- 2 [公式Twitter②](#)
- 3 [公式サイト①](#)
- 4 [公式サイト②](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





テゲバジャーロ宮崎

愛あるごはんを届けよう！プロジェクト 2/2

Story

地域交流の場であり、子どもの貧困対策という大きな役割ももつ子ども食堂へ力になれることはないかと始めたプロジェクト。

テゲバジャーロ宮崎が全ての公式戦で勝利した場合、子ども食堂に食材や備品を寄付させていただくというものです。2021年に始めたこのプロジェクトは、今年で2年目を迎えました。

今シーズンからはホームタウンである西都市の子ども食堂にもお届けさせて頂くようになり、計3市町の子どもの食堂へ食材や備品をお届けさせて頂きました。2022年は宮崎市・新富町・西都市の子ども食堂に合計で12回届けることができました。



また、昨年は4社であった協賛企業様が、今年は6社に増え、お届けすることができる食材や備品も多くなっています。

基本的には勝利した翌水曜日に、子ども食堂を支援している支え合いの地域づくりネットワーク様に協賛企業様よりご提供いただいた食材・備品を選手やスタッフがお届けしますが、時には選手が直接子ども食堂へお伺いし、子どもたちと一緒にごはんを食べることもありました。

実際に子どもたちと直接ふれあい、「テゲバのこと知ってるよ」、「試合に行ったことがあるよ」、「今度応援に行くね！」、等の声をもらうことで、選手自身の試合に対するモチベーションも上がり、もっとたくさん食材や備品を届けたい、といった意欲もわきました。

また、試合にいらっしゃって頂く方の中には、「いつもありがとうございます」とお声がけを頂くこともあり、この活動を通して、地域の方との繋がりを感じることもできました。



昨年のプロジェクトが始まってから私たちは、「クラブは試合に勝利し、届けよう」、「協賛企業の皆様と一緒に勝利し、届けよう」、「サポーターの皆様のお応援を後押しに勝利し、届けよう」と、皆様と一緒に愛あるごはんを届けよう！という想いを込めて活動しています。

クラブだけで活動をするのではなく、協賛企業様、サポーターの皆様と共に思いを1つにして活動し、食材、備品を提供しています。

今後も引き続き、協賛企業様、サポーターの皆様と一緒に戦い、この活動を継続的かつさらに拡大していけるよう励んで参ります。



鹿児島ユナイテッドFC

喜び入るまちのユナイテッドFC 1/2

喜入は2004年、市町村合併により鹿児島市に編入された町。通称「喜び入るまち」です。喜入の憩いの広場に整備されたクラブ専用練習場「ユニータ」が利用開始されたのは2021年10月のこと。以来、コロナ禍で制限される中でも地域の行事に参加したり、ウォーキングサッカー体験会を開いたり。さらに選手たちも参加しての焼酎用サツマイモ栽培や、アカウミガメの見守り活動なども実施。喜入支所や地域の方々、そしてクラブが一体化＝ユナイテッドして「サッカーを活用した町の地域活性化」を共通のテーマに日々邁進しています。

活動場所 鹿児島市喜入

協働者 **協働者名**

行政、住民、学校、協議会、商工会、選手

鹿児島市役所喜入支所、喜入商工会、中名地域コミュニティ協議会ほか喜入にお住まいの方々

協働者の声 鹿児島市役所喜入支所 総務市民課 地域振興係 係長／濱崎 隆文 氏



地域資源豊かな田舎まち「喜入」にクラブの練習場が整備され、まだ1年ですが既にまちづくりを考える上で、大きな存在となっています。今回、紹介した取り組みのように、クラブにはここでしか出来ない体験を、地域には活気を…常に考えて企画しています。今後も新たな取り組みを仕掛けたいですね。そして、「喜び入るまち」でクラブも地域も共にUPしていきますよ。



活動詳細情報

1 [公式サイト](#)

2 [公式YouTube](#)

SDGs **カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ**





鹿児島ユナイテッドFC

喜び入るまちのユナイテッドFC 2/2

Story

～サツマイモの栽培からウミガメの保護まで～

2022シーズン、私たちは焼耐用のサツマイモを栽培しました。畑にやってきた選手たちは「思った以上に大変だ≡楽しい」と土に向き合い、小学生たちにアドバイスを受けながら苗を植えて、育ったイモを収穫しました。見事に実ったイモたちはユニフォームの胸に描かれる焼耐「さつま島美人」の酒蔵で醸造され、静かに「乾杯！」の時を待っています。海に視線を移すと、アカウミガメが産卵しやすい環境を整えるために保護活動に取り組んでいる方々がいます。そのお手伝いとして監督、選手、スタッフ、



アカデミー生、みんなで海岸清掃に取り組んでいます。監督や選手は少年のように夢中な笑顔で、練習場隣の小さな海岸から、孵化した子ガメが旅立つ健気な姿を見届けました。シーズン終了後の練習見学会では、車社会の鹿児島では異例なことに、2日間でのべ600名のサポーターがJRで無人駅に降り立ちます。「サポさんを手ぶらで帰らせられない」と地元の方々が野菜やコーヒを提供し、町に賑わいが生まれました。

～喜び入るまちに、もっと喜びを！～

「サッカーチームが、なにやってるの？」ですか？
喜び入るまちを盛り上げるための取り組みです！
「(やれること)全部やる！」の精神でやっています！
鹿児島市の喜入、愛称「喜び入るまち」で、憩いの広場だった土地に整備された専用練習場「ユニータ」で、私たちは2021年10月から活動しています。以来、クラブと地域の方々が共に「みんなが自分たちにできることを持ち寄って、ユナイテッドを活用して、喜入を活性化しよう！」と一致した想いを抱き、喜入支所の濱崎さんのような情熱を持った方が丁寧にみんなの想いをつなぎあわせ、たくさんの企画が生まれ、育っていきました。



おじいちゃんもおばあちゃんも、子どもたちもユナイテッドと関わることで喜びいっぱい。
この地で日々のトレーニングをしている私たちも、喜びいっぱい。
喜び入るまちは、鹿児島ユナイテッドFCというJリーグクラブをハブにして、未永くもっと喜び入るまちにしようと、みんなで明るく元気に前向きに力を合わせています。
…まだまだ話は尽きないので続きは公式サイト、YouTubeをご覧ください(笑)



FC琉球

チームメンバー増員中！広がり続ける、FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 1/2

コロナ禍の影響を受ける県産品と困窮家庭の子ども達という沖縄特有の課題を解決するために、イオン琉球や県と協働で琉球応援弁当の開発販売及び子供食堂への寄付をメインに2021年に始めたプロジェクトが、参加メンバーを増やしながら拡大し続けている。シャレン！アウォーズ受賞でさらにメディア露出が高まり、県産品生産者や飲食・小売業者などからの問い合わせも増加。選手との交流等による子供達の社会体験を通じた自立支援、新たなメンバーとの県産品&子供支援商品やスキームの開発、さらに新たな目標へと、かたちを変えながら続いていく。



活動場所 沖縄県内各所(本島・宮古島・石垣島)の子ども食堂及びイオン店舗、タピック県総ひやごんスタジアムなど



協働者

行政、企業、民間団体、農家、農業団体、一般社団法人、プロスポーツクラブ

協働者名

イオン琉球株式会社、沖縄県商工労働部、おきなわこども未来ランチサポート(沖縄県委託事業)、東京バス株式会社、一般社団法人RCF、琉球飼料株式会社、株式会社ケンティーズキッチン、琉球guava entirely株式会社



協働者の声

イオン琉球株式会社／深田 麻衣 氏



本活動は他県のイオングループ社員の関心も呼び、県産品メニュー開発の相談を受けるなど、全社的に広く情報共有することで成果がさらに高まっています。またBリーグ琉球ゴールデンキングスにも情報共有したところ新たに子供支援活動の協働が始まりました。改めて地域社会への本活動のインパクトと広がりを実感しています。



活動詳細情報

1

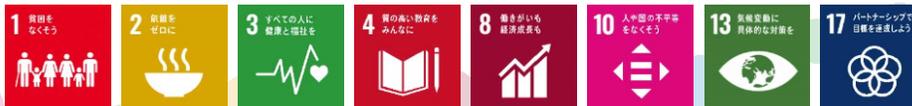
[公式サイト](#)

2

[ふらびゅう沖縄](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





FC琉球

チームメンバー増員中！広がり続ける、FC琉球 県産品&子ども応援プロジェクト 2/2

Story

コロナ禍の影響を受ける県産品と困窮家庭の子供達という沖縄特有の課題解決を目指しイオン琉球及び沖縄県との連携から活動は始まった。全国でも突出した感染状況、主要産業の観光業と強く結びつく農水産業への打撃、また、コロナ影響の大きい観光雇用を中心とした非正規雇用率及び子供貧困率が全国ワーストの沖縄県では特にコロナ禍が困窮家庭の子供達に追い打ちをかけていた。そんな中、県産品による琉球応援弁当を発信力のあるFC琉球と販売力のあるイオン琉球が協働で開発・販売することで、県産品のコロナ影響の実情や県産品の魅力の発信、新たな需要の掘り起こし、直接的な流通促進も実現した。困窮家庭の子供への支援として、応援弁当5000食及び販売した弁当の



売上から約47万円を子供食堂に寄付した。活動の過程で、食糧以外にもコロナ禍で学校行事が無くなる等で社会的経験が特に困窮家庭の子供達に不足している現状に気付き、新たにバス会社にも活動参加してもらい子供達を試合に招待したり、県産品食育教室も実施し、選手との交流を通し目標を持つことでの自立支援を目指した。一連の活動はクラブの発信力も活かし県内のTVや新聞、WEBメディアを通して広く周知された。さらに、シャレン！アウォーズ受賞により注目を集めたこともあり、多くの問い合わせや新たな参加メンバーが増え、活動はかたちを変えながら続いていく。県産たまご生産者とは、売上の一部が子供支援になるFC琉球元気応援たまごを開発し、予想を上回る月2万パックのヒット商品となった。これは本活動当初からの啓蒙PR継続により消費者の意識を変えることができた成果だと評価されている。また、衰退するグアバ栽培を新たな県の産業として復興させるべく活動する団体と協働での子供支援商品開発やクラブの農業参入検討も進行中である。グアバは無農薬、無肥料で簡単安全に栽培できるため消費者や農家自身の健康志向の高まりや農家の高齢化という時代にマッチした産業として期待されるが、当初目的のコロナ支援から進化し、新たな県産品を生み出すという目的を持つことができた。



2021年度の休眠預金等活用助成金により実施できた弁当寄付は一旦休止しているが、温かい食事を子供達に届け続けたいという思いから、クラブで中古キッチンカーを購入しスタッフの手でFC琉球カラーに塗り替えた。FC琉球県産品&子ども応援号として子ども食堂を回り県産鶏唐揚げやグアバスムージーを提供する計画だ。この県産鶏唐揚げも飲食業者や小売業者と協働で応援弁当同様の支援商品として開発中である。地域に根差したシャレン活動として、その時々に参加メンバーや資金状況、社会ニーズに合わせて変化しながら活動を継続させていくことが重要と考えている。